

抱水 クロラール 五、〇

右毎夕一食匙  
パラアルデヒド 三、〇

抱水 右一茶匙ヲ葡萄酒、麥酒ニ混シ

サレツプ漿 六〇、〇  
右温メテ灌腸スベシ

抱水 クロラール 四、〇

パラアルデヒド 三、〇  
橙皮丁 一五、〇

橙皮舎 各一五、〇

右砂糖水ニテ頓服

### 乳腺炎 Mastitis.

マスチーチス

(原因) 乳房ノ輝裂、咬傷、潰瘍等ヨリ醗菌ノ乳房内ニ侵入シテ發炎スルニ因ス專  
ラ授乳婦人ニ多シ稀ニ妊婦及妙齡ノ處女ニ發ス

(診候) 乳房内ニ硬結ヲ生シ疼痛甚ダシ其後腫脹、潮紅等ヲ加ヘ遂ニ波動ヲ呈シ放  
置スレバ自潰シテ膿汁ヲ排出ス但シ經症ニ在テハ化膿セズシテ消散スルコ  
トアリ又々重症ニハ惡寒及高熱ヲ伴フ

(豫後) 輕症ニシテ消散スルモノ及早ク切開ヲ施スモノハ良、自潰シタルモノハ經  
過久シクシテ乳房ノ萎縮ヲ發スルノ虞アリ

(療法) 水銀軟膏或ハ「イヒチオール」軟膏ノ塗擦温罨法ヲ施シ吸出器ヲ以テ乳汁ノ  
排泄ヲ圖リ尙未ダ化膿セザル者ハ三角繃帶ヲ用井テ乳房ヲ提擧スルカ又患

側ノ上肢ニ擔布ヲ施シ劇痛ニハ授乳ヲ禁ス可シ而シテ乳汁分泌ヲ減センガ  
爲ニ下劑ヲ投ズ〇消散ノ望ナキトキハ速カニ乳嘴ニ對シテ放線狀切開ヲ行  
ヒ防腐繃帶ヲ施スベシ  
キナ煎 (一〇、〇) 一五〇、〇  
ヨードフォルム 一、〇  
單舎 三〇、〇  
コロザウム 一五、〇  
右塗布料

### 乳房痛 Mastodynie.

マスタヂニ

(原因) 乳房ノ神經痛ニシテ乳汁過多或ハ「ヒステリー」生殖器病等ニ來ル

(療法) 繃帶ヲ用井テ乳房ノ重キヲ支ヘ且ツ「フラ子ル」毛皮等ヲ纏フテ原因ヲ除ク  
コトヲ勉メ以テ乳房ヲ温包シ劇痛ニハ「モルヒ子」ノ皮下注射ヲ施ス其他  
石鹼硬膏 濃厚苦扁桃水 一〇、〇  
若蓑越 各一〇、〇  
ホフマン氏鎮痛液 五、〇

右布片ニ攤シテ疼痛ニ貼ス  
右調和朝夕二回塗擦

### 鬱癡狂 Melancholia.

メラノコリア

(原因) 遺傳ハ大凡六〇%ヲ算ス、營養障害退行期ノ變化モ亦原因ヲナス其他稀ニ  
ハ驚愕、心痛等感情ノ劇動、妊娠、破爪、產後、胃腸障礙、貧血、寒胃等ハ本病

乳腺炎 乳房痛 鬱癡狂

ノ誘因ヲナス

(診候) 原發的(即チ幼覺、妄想ニ因セザル)抑鬱、考慮制止、精神運動制止ノ三症及  
ビ苦悶ヲ以テ主徵トナス而シテ前驅症ヲ呈スルモノアリ或ハ然ラザルモノ  
アリ前驅期ノ諸症ハ過敏、心身疲勞、頭暈、不眠、食思缺乏及ビ便秘トス全經  
過ハ三乃至八ヶ月ニシテ治ス然レドモ又癡狂ニ陥リ或ハ死スルモノアリ

(豫後) 輕症ハ良、昏迷性ノモノ遺傳アルモノ絶食症アルモノ及老人ハ不良

(療法) 輕症ヲ除クノ外ハ必ズ癡狂院ニ入院セシメ精神身體ノ安靜ヲ圖ルヲ主要ト  
ス自宅治療等ニ在テハ看護十分ナルコト難ク遂ニ自殺ノ不幸ヲ見ルコト多  
シ而シテ治療ニハ鐵劑、キナ、等ヲ用井テ營養ヲ改良シ周圍ヲ靜肅ナラシメ  
精神ヲ亢奮スル事物ヲ遠クテ喧燥ナル快樂遊逸慰諭等ヲ避ケ而シテ隔離法  
ヲ最良ナリトス

可成患者ヲ靜臥セシメ殊ニ發症最モ多キ自殺ヲ嚴戒シ且ツ沈鬱スル時ニハ  
阿片、コデイン、モルヒネ、酒精コンニヤック酒等ヲ與ヘ恐怖ノ發作ニハ「モ  
ルヒネ」ノ皮下注射ヲ行ヒ不眠ニハ多量ノ麥酒或ハ「バラアルデヒード」  
「ブルフォナール」ヲ與ヘ斷食ニハ鼻食道消息子ヲ用井テ人工營養法ヲ行フ  
メシ

鹽莫 一、〇  
留水 二五、〇

右調和皮下注射毎回一筒  
バラアルデヒード

橙皮丁 三、〇乃至六、〇  
右調和頓服 二〇、〇

枸橼酸アンモニア加必骨磷酸鐵 二、〇

白糖 五、〇  
右研和散十包ニ分チ一日三回每 一〇、〇

抱水クローラル 五、〇

甘草羔 一、五  
右二十九トシ石松子末ヲ衣トシ 三、〇

腦膜炎 Meningitis. メニンジチス

(原因) 結核性腦膜炎ハ結核「バチル」スニ因テ發ス二年乃至七年ノ腺病性小兒ニ  
多シ〇單純性腦膜炎ハ頭部ノ外傷、岩様部骨瘍、丹毒、肺炎、流行性感胃、急  
性發疹諸病、窒伏斯、膿毒症、日射病等ニ來ルモノリ

(診候) 結核性腦膜炎ニ於テハ食氣不振、倦怠、發熱ヲ反覆シ來ルコト一週乃至一ヶ  
月(前驅症)次ニ頭痛、嘔吐、食氣不振、心身倦怠、發熱、嗜眠、舌苔、便秘ヲ發  
シ大凡一週ノ後呻吟遲脈、且脈搏不正ヲ呈シ諸症増進スレバ斜視、牙關緊急

不眠ノ際八乃至十九頓服

覆方キナ丁 一〇、〇  
設里酒 一〇、〇

右毎日四回一食匙宛  
其他便秘アルトキハ下劑ヲ投ズベシ

コロシント越 〇、五  
覆方大黃越 三、〇

アラビアゴム漿 適宜  
右二十五丸トナシ桂皮末ヲ衣トシ 每夕二乃至三丸

項部反張、嗜眠瞳孔左右不同ノ散大、反應ノ減少、肚腹舟狀陷沒其後脈搏頻弱トナリ痙攣、麻痺、昏睡シヤインストック氏呼吸ヲ發シ或ハ痙攣心臓麻痺ニヨリテ斃ル嘔吐ヲ發シテヨリ死ニ至ルマテ二週乃至三週〇單純腦膜炎ハ寒戰、體溫暴騰、頭痛劇烈、眩暈、譫語、昏睡、嘔吐、牙關緊急、脈搏不正遲徐搐搦、痙攣等ニシテ經過概チ一二日乃至一週半ナリ

(豫後)不良

(療法)可及的周圍ヲ靜肅ニシテ病室ヲ暗クシ水銀軟行塗擦氷罷法或ハ冷布纏絡法等ヲ行ヒ脈搏強實營養佳良ナル者ニハ耳後水蛭(六乃至二〇條)ヲ貼ス可シ〇内服ニハ「キニ」子及ビ「ヨードカリウム」(一日一、〇乃至二、〇)ヲ與ヘ急性諸症ノ減退スルヲ待テ滋養物及ビ強壯劑(鐵劑等)ヲ投ズベシ〇頭部強直症ノ反覆發作スルモノニハ臭素カリ或ハ「ヨードカリ」ヲ用井テ効有リ尙ホ急癩ノ條下ヲ參照スベシ

小兒ニハ左方ヲ處ス

- 甘汞 〇、〇一五乃至〇、〇五
- 乳糖 〇、〇三
- 水蛭 右爲一包與十包每二時一包宛 五條
- 右耳後ニ貼ス(但シ強實ノ小兒ニノミ用ユ)

- 水銀軟膏 六、〇乃至一二、〇
- ラノリン 二四、〇
- 右分六包蠟紙ニ包ミ與フベシ每三時半包ヲ頸、項、上肢ニ塗擦スベシ
- ヨードフォルム 二、〇
- 彈力性コロザウム 三〇、〇

- 右額、頭部及項ノ皮膚ニ塗布スベシ毎日三乃至四回
- 痙攣症アルトキハ左方
- 抱水クロラール 〇、一乃至〇、五
- 右灌腸一回ノ料 五〇、〇
- 抱水クロラール 一、〇乃至二、〇
- 留水 一〇〇、〇
- 留水 二〇、〇
- 橙皮舎 二〇、〇
- 右每二時一小兒匙宛
- ブルフオナール 〇、五乃至一、〇
- 乳糖 〇、三
- 右爲一包與六包每三時一包
- 既ニシテ昏睡衰弱アルモノニハ水蛭、氷罷法ヲ用井テ興奮劑ヲ投ズ
- 樟腦オレフ油 一〇、〇
- 右四分一筒乃至半筒皮下注入料
- 樟腦 各〇、〇五
- 安息香酸 各〇、〇五

- 白糖 右爲一包每二時一包宛 〇、三
- 大人ニハ左方ヲ處ス
- 水蛭 十乃至二十條
- 右耳後ニ貼ス(強實ノ者ニノミ)
- 發泡コロザウム 三〇、〇
- 右毛髮ヲ剃リテ後塗布スベシ
- 吐酒石軟膏 二〇、〇
- 右豆大ノ量ヲ剃髮セル頭部ニ塗擦スベシ
- 但シ塗擦後其奏効ニ注意シ奏効アルトキハ直チニ之レヲ除クベシ然ラザレバ頭皮壞疽ヲ生ズルコトアリ注意ヲ要ス
- 甘汞 〇、一
- ヤイラツバ根末 〇、一
- 白糖 各〇、五
- 右爲一包與四包毎日二回一包宛 〇、二
- 鹽莫 〇、二

糖水

グリセリン 八、〇  
右四分の一筒乃至半筒皮下注射

エーテル

オレオフ油 二、〇  
右一日數回一筒宛(嗜眠ノ際)

樟腦

料(譚語甚シキ際) 一、〇

芥子末

右爲泥腓腸部ニ貼スベシ(同上) 一〇〇、〇

### 流行性腦脊髄膜炎

Meningitis cerebrospinalis epidemica.

メニンギチス、チエレプロ  
スチナリリス、エビデミカ

(原因) 一千九百八十七年ワイクセルバウム氏ノ發見シタル腦膜炎細胞内球菌ナリ

小兒及少年者ニ多シ

(診候) 通例俄ニ惡寒ヲ發スルコト數回稀ニハ一回ノ寒戰ヲ以テ體溫昇騰シ三十九度乃至四十度以上ニ達ス頭痛、眩暈、嘔吐、知覺過敏、脊椎ニ於ケル疼痛、項背諸筋疼痛ヲ訴フ急性症ニアリテハ第一日ノ終若シクハ第二日ニ既ニ項部強直ヲ發シテ頭ヲ前後ニ動スコト難ク漸次後方ニ屈曲ス後脊椎モ亦多少強直ヲ生ズ而シテ腹部ハ陷凹シ全身諸筋ノ痙攣ヲ來シ腹壁ハ緊張ス視神經及聽神經ノ障害、眼筋麻痺、顔面神經麻痺等ヲ發ス試ニ皮膚ヲ刺戟スレバ該部ニ赤色ノ斑ヲ發シテ久シク消散スルコトナシ(トルツソー氏現象) 又口唇ノ疱疹ヲ發スルコト多シ

(鑑別) 結核性腦膜炎ハ徐々ニ發生シクインケ氏ノ腰椎穿刺法ニ依テ腦脊髄液中ニ結核菌ヲ證明シ得ベシ本病ニアリテハ之ニ反シテワイクセルバウム氏菌ヲ發見ス

(豫後) 多クハ不長快復後頭痛、聾、癱瘓及麻痺ヲ殘スコトアリ

(療法) 心身ノ安靜ヲ命シ病室ハ暗ク且ツ靜ナランコトヲ要ス頭部及脊椎ニ沿フテ氷嚢ヲ貼シ強壯ナル患者ニアリテハ項部或ハ耳後ニ水蛭ヲ貼シ甘汞ヲ與ヘ或ハ水銀軟膏ノ塗擦若クハ貼用ヲ試ムベシ撒曹ヲ與ヘテ良好ヲ得タルモノアリ疼痛不安ノ甚ダシキトキハ「モルヒネ」ヲ與フ其他常ニ便通ニ注意シ灌腸ヲ行ヒ或ハ緩下劑ヲ投ズ腰椎穿刺法ハ診斷的或ハ對症的ニ試用スベシ  
甘汞 〇、〇五 水銀軟膏 二、〇乃至五、〇  
乳糖 〇、五 右分二包一日二回一包宛塗擦  
右爲一包與十包毎二時一包通利  
アレバ後服ヲ止ム 水銀レゾルビン 二、〇乃至五、〇  
右分二包一日一回一包宛塗擦

### 陣痛微弱

Metrakinesis.

メトラキネーシス

(原因) 分チテ原發性ト續性發トス○原發性、營養不長ニシテ衰弱セル妊婦、重症後ノ快復期、萎黃病、年少ノ初産婦、又年長ノ初産婦、其外子宮筋肉ノ發育不良、新生物發育異常ニ由テ子宮ノ位置形狀ヲ障害スルモノ又狹隘骨盤ニ於

流行性腦脊髄膜炎 陣痛微弱

テ類回ノ分娩困難ニ由テ子宮筋ノ衰弱ヲ來セルモノ及羊水過多、數胎分娩等○續發性、巨大ノ兒頭、骨盤狹窄、高年者ニシテ軟部硬固ノトキ  
〔診候〕陣痛間歇時甚ダ長クシテ子宮硬固ナラズ分娩緩慢ニシテ殆ンド中止セルガ如シ

〔療後〕開口期ニ於テハ不其ナラズ娩出期及後産期ニ在テハ害多シ

〔療法〕先ヅ膀胱及直腸ノ内容ヲ除キ第一分娩期(開口期)ニ於テハ單ニ對症療法ニ止リ第二(産出期)就中其末期ニ至テ始メテ麥角ヲ用ユベク(子宮孔ノ開大既ニ分娩ニ充分ナル迄ノ時期ニ於テハ麥角ヲ禁ズ)且ツ其胎兒ノ心音正シク母體ノ無熱ナル時ニノミ此藥ヲ適用スルモノトス或ハ器械ヲ用井テ分娩ヲ催進スルヲ宜トス又子宮ヲ按摩シ或ハ産婦ニ適宜ノ位置ヲ取ラシメ或ハ卵膜破開等ヲ施スコト有リ産婦疲勞甚ダシキトキハ麻醉劑ヲ與ヘ一時安靜ナラシムベシ

麥角末 各二、〇乃至三、〇  
白糖 右調和每半時一食匙  
右研和散五包ニ分テ每十五分時一包  
麥角浸 各二、〇乃至三、〇  
單舍 右調和每半時一食匙  
(五、〇)一八〇、〇  
二〇、〇

### 子宮炎

(子宮實質炎)

Metritis.

メトリチス

〔原因〕急性子宮實質炎ハ淋毒性子宮内膜炎、子宮創傷傳染病特ニ産褥中ニ發シ慢性症ハ稀ニ急性症ヨリ移行シ又屢々諸種ノ子宮粘膜炎患ニ續發ス其他子宮充血ヲ惹起スル諸件即チ月經分娩後子宮復故不全、過房、手淫等ナリ

〔診候〕急性ニ在テハ惡寒、發熱、下腹部劇痛、子宮ノ知覺過敏及腫脹、譫語、衰憊、膿汁流出、惡心、嘔吐、下痢、尿閉、慢性ニ在テハ腰痛、便秘、尿意頻數、疝痛、子宮增大白帶下等ナリトス

〔療後〕既子良

〔療法〕急性症ニ於テハ原因療法ニ兼テ主トシテ消炎療法ヲ必要ナリトス故ニ安臥靜息ヲ嚴ニシ骨盤部ヲ高舉シ局處瀉血(下腹部水蛭貼用)水電法等ヲ行フ其慢性ナル者ニハ毎日一二回腔内ニ温湯ヲ注入(列氏三十乃至三十五度)ス可シ其他或ハ下劑ヲ投シ温電法、温浴等ヲ行フベシ又腔部ニ亂刺ヲ行ヒヨードフォルムガーゼヲ貼ス

カスカラ、サクラダ流動越 二〇、〇  
右每夕十乃至十五滴宛 二〇、〇  
硫酸マグネシウム 二〇、〇  
苦丁 二〇、〇  
ヨード ヨード  
ヨードカリ 各一、〇  
縮水 二〇〇、〇  
右一日六回二日分服

子宮炎

酒精 二、〇  
 ワゼリン 三〇、〇  
 右爲軟膏子宮腔部ニ塗布ス  
 ヨードフォルム 三、〇  
 ワゼリン 三〇、〇  
 右同上  
 ヨード 一、〇  
 沃剝 五、〇  
 グリセリン 四〇、〇  
 右腔タンボンニ浸シ腔内ニ挿入

### 子宮出血

Metrorrhagia.

メトロラギア

イヒチオール 一〇〇、〇  
 グリセリン 一〇〇、〇  
 右同上  
 イヒチオール 一〇、〇  
 可溶性銀 五、〇  
 グリセリン 一〇〇、〇  
 右同上  
 イヒチオール 各一〇、〇  
 ラノリン 各一〇、〇  
 右下腹部ニ塗擦ス

(原因)卵膜或ハ胎盤片ノ残留、子宮ノ收縮不全、筋腫、息肉、纖維腫、癌腫、腺腫、子宮實質炎及内膜炎等ナリ  
 (診候)原因ノ異ナルニ從テ一定セズ  
 (療法)第一原因療法ヲ主トシ而シテ安臥静息及ビ飲食攝生ヲ嚴ニシ冷飲ヲ與ヘ温湯(四十度)ノ子宮内注射ヲ行ヒ或ハ腔管栓塞、下腹冷電法等ヲ施ス可シ但シ子宮内注射ハ之ヲ行フニ當リテ子宮頸管ノ開通スルコト肝要ナリトス其

他一般ニ麥角越幾斯ノ皮下注射ヲ行ヒ又虚脱ニハ「エーテル」ノ皮下注射ヲ要スルナリ

麥角浸 (五、〇)一八〇、〇  
 ハルレル氏酸越歷矢兒 二、〇  
 單舎 二〇、〇  
 右調和毎十時一食匙  
 麥角末 二、〇  
 右散十包ニ分テ毎時一包  
 麥角 一、〇  
 橙皮舎 一五、〇  
 餽水 一〇〇、〇  
 右調和毎時一食匙  
 デンツェル氏麥角越 各〇、一  
 麥角末 右二丸トナシ一丸宛一日二回  
 桂皮丁 五〇、〇  
 右每三十分一茶匙  
 エーテル製醋酸鐵丁 一〇、〇

醋酸エーテル 五、〇  
 右調和毎半時十五滴  
 明礬 五、〇  
 餽水 二〇〇、〇  
 右調和注入料  
 過クロール鐵液 一〇、〇  
 右微温トナシアラウン氏注射器ニテ二三滴ヲ子宮腔内ニ注入  
 麥角越 各一、〇  
 グリセリン 各一、〇  
 餽水 五、〇乃至一〇、〇  
 右調和皮下注射毎回一筒  
 鹽酸、ヒドラスチニン 〇、〇二五  
 白糖 一、〇  
 右錠劑トシテ十二個ヲ與フ毎日四個

子宮炎 子宮出血

ヒトラスチス越

二〇、〇

右毎日数回二十乃至三十滴

### 粟粒腫

Milium. ニリツム

(原因) 皮脂腺ノ閉塞ナリトス

(診候) 粟粒大乃至麻豆大ノ小結節ニシテ其色帯白色眼瞼、頬、顴額、唇、陰莖、陰囊、小陰唇ノ内面ニ生ズルコト多シ

(療法) 先ツ細針ヲ紅織シ之ヲ用井テ以テ表皮ヲ穿刺シ而シテ後面胞壓搾器ヲ用井テ以テ内容物ヲ壓搾ス可シ後左方ナ處ス

カリ石鹼精

五〇、〇一

右塗擦料

### 麻疹

Morbilli.

麻疹

Masern.

マーズン

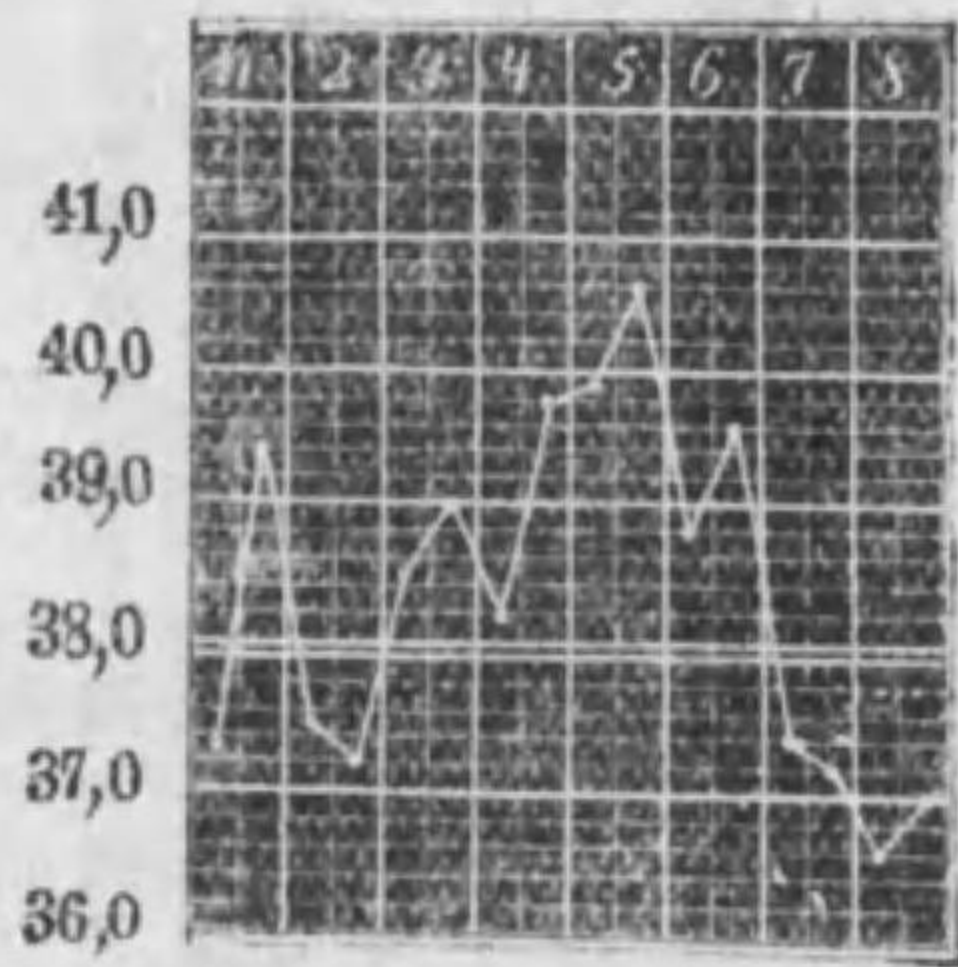
(原因) 麻疹ハ特異ナル固有毒ノ傳染ニシテ涙汁、唾液、咯痰、呼氣、皮膚蒸氣、空氣、器具、其媒介トナル傳染力極メテ大ナリ春夏秋ニ多ク二年乃至六年ノ小兒

ニ多シ

(診候) 潜伏期(九日或ハ十日)ノ後前驅期(三四日)ニ移レバ體温上昇シテ三十八九

度ニ達シ噴嚏、流涙、乾咳ヲ發ス其後發疹期ニ達シテ體温三十九度五分乃至四十一度ニ上リ、皮膚粘膜及結膜ニ發疹ス先ヅ面部次ニ頸、軀幹及四肢ニ現ハルル限界ノ判然タル亞麻仁大ノ赤斑ニシテ其中央ニ小丘疹ヲ有ス粘膜及

圖七十三第



解熱期  
發疹期  
前驅期

結膜ニハ皮膚ニ先チテ之ヲ發スルヲ常トス而シテ加答兒性症候モ亦タ甚ダ盛ナリ既ニシテ一二日ヲ經レバ體温殆ンド或ハ全然分利ニ由テ下降シ第三日或ハ第四日ニ發疹消退シ始メ第五日第六日ニハ落屑チナシ第八日乃至第十日ニシテ恢復期ニ轉ズ○合併症ハ結膜炎、角膜炎、鼻炎、咽頭炎、喉頭炎、氣管枝及毛細氣管枝炎、中耳炎、腸炎、腎炎ナリ後發病ハ疫咳及結核ナリ

(療法) 全ク待期療法ニシテ安臥靜息ヲ命シ病室ノ氣温ハ終始之ヲ攝氏約三十度ニ

粟粒腫 麻疹

維持シ且ツ通氣ヲ便ニシ室内ニ熱湯ヲ盛リタル器ヲ置ク例ハ暖爐若クハ  
火鉢ノ上ニ金盥ニ湯ヲ入レ絶ヘズ蒸發セシムルガ如シ而シテ本症ニハ加答  
兒ヲ起スコト甚シキガ故ニ病室ヲ暗クシ又身體ヲ同等ニ温包シ温食料、緩  
和劑、緩下劑ヲ投シ通常ノ食物ヲ與フ合併症ニハ適宜ノ療法ヲ施ス健兒ハ  
之ヲ隔離スベシ但本患者ニハ決シテ冷飲ヲ與フ可ラズ

咳嗽ノ劇甚ナル者ニハ左方ヲ處ス

二〇、〇

單舎 右調和每時一食匙

阿片丁 (一、五乃至五、〇) 一〇〇、〇

コデイン 〇、一乃至〇、一五

單舎 二乃至五滴

白糖 右散五包ニ分チ每時三回一包

右一日六回二日分服

ヒヨス越 〇、一五

ドーウ井ル氏散 〇、二

單舎 右每二時一小兒匙

白糖 二、〇

鹽莫 〇、〇一

右研和散五包ニ分チ一日三回每

杏仁水 一〇、〇

一包

右調和一日數回每五滴ヲ砂糖ニ

其他下痢アル病ニハ腸加答兒ノ療法ヲ一行フ

### アヂソン氏病

Morbus Addisonii.

モルブス  
アヂソニー

(原因) 副腎ノ結核、癌腫、梅毒、外傷、及不明ノ原因ヨリ發ス

(診候) 皮膚及粘膜ニ發スル暗黄色ト筋力ノ衰弱ヲ主徴トナス

(諫後) 不良ナリ

(療法) 滋養性食餌、肝油、鐵劑、沃剝ヲ與フ梅毒ノ疑アルトキハ驅梅毒法ヲ行フ

### バゼドー氏病

Morbus Basedowii.

モルブス  
バゼドール氏

(原因) 本病ノ原因ハ頭部交感神經ノ麻痺變性ナリト論セシモ近來ハ其原因ヲ甲狀  
腺ノ病的作用ニ因スル一種ノ中毒症ナリト云フ是レ醫藥効ナキトキ其切除  
術ヲ行フ所以ナリ幼壯者及中年者ニ多シ殊ニ婦人ニシテ屢々妊娠スル者月  
經異常、ヒステリー、貧血性ノ疾有ル者ニ其多キヲ見ル

(診候) 心悸亢進、心臟ノ肥大擴張、脈搏増速、甲狀腺ノ腫大、眼球突出就中特徴ハ上  
眼瞼舉上シテ眼球鞏膜ヲ蔽ハザルヲ以テ怒視スルガ如キ親ヲ呈スルニアリ

(療法) 精神ノ興奮ヲ禁シ身體ノ勞動ヲ戒メ無刺戟性ノ滋養物ヲ與ヘ田舎ニ轉地セ  
シメ心部ニ冷浴法ヲ行フベシ貧血家ニハ鐵製劑及ビ一日ノ量一、〇迄ノ、キ

アヂソン氏病 バゼドー氏病



ニ一子レヲ與ヘ又「ゲキタリス」或ハ「ヨード製劑」ヲ投ズ  
輓近胸腺療法ヲ用井「ヤ輕快」或ハ全治ヲ實驗セリ即チ羊ノ胸腺一〇、〇乃至  
二五、〇ヲ一週三回ニ分服シ若クハ毎日ニ分服セシム醫藥効ナク病勢増進  
スルトキハ甲狀腺ノ切除術ヲ行フ〇其錠劑ハ一日十二乃至十五ヲ與フ

沃鐵舎  
單舎 八〇、〇

右一日三回一茶匙乃至一食匙宛

臭剝

臭曹

アロームアンモニウム

苦丁

單舎

餉水

沃丁

五倍子丁

右甲狀腺塗布料

拘椽酸カフエイン

白糖

右研和散十二包ニ分チ一日三回  
每一包

各五、〇

一、二

三、〇

### バンチ氏病

Morbus Banti.

モルブス  
バンチ

(原因)本病ハ一千八百九十四年伊太利國ノ醫バンチ氏創メテ之ヲ詳述ス  
(診候)貧血及脾腫大肝臟硬化症腹水及出血性ノ傾向ヲ主徴トナス  
(豫後)不良ナルコトアリ

(後法)滋養食ヲ與ヘ諸般ノ攝生ヲ嚴守シ「ヨード劑鐵劑及亞砒酸劑」ヲ與フ〇脾臟  
切除術ヲ賞用スルモノアリ

### バロー氏病

Morbus Barlowii.

モルブス  
バロウ

(原因)一千八百八十三年バロー氏創メテ本病ヲ詳述ス一年乃至三年ノ小兒ニ多シ  
原因未詳ナリ

(診候)大腿骨ノ骨頭下ニ出血ヲ來タシ疼痛起腫ヲ呈ス其他皮膚出血、齒齦出血、下  
血、血尿等ヲ呈ス、其他佝僂病ノ如キ症アリ

(豫後)不良ナルコトアリ

(療法)善良ナル牛乳ヲ與ヘ其他攝生ニ注意スベシ小兒既ニ乳汁ノ他ニ食物ヲ要ス  
ル時ハ卵黃及野菜ヲ與フベシ

### 武雷篤氏病

Morbus Brightii.

モルブス  
ブライチ

腎臟炎ヲ見ヨ

### フリードライヒ氏病

Morbus Friedreichi.

モルブス  
フリードライヒ

(原因)遺傳アルノ外不明〇解剖的變化ハ後根、後索、グラルク氏柱、小腦側索經路

パンチ氏病 バロー氏病 武雷篤氏病  
フリードライヒ氏病

及ビ其小腦ニ至ル連續錐狀體側索經路ニ於ケル神經纖維ノ消失及續發的、  
ノイログリヤレノ贅殖ニアリ

(診候) 小兒期或ハ春機發動期ニ發生シ步行困難ヲ來タシ次テ停立性共働機變調ヲ  
來タス其步行困難ナル踉蹌踴躍泥醉者ノ步行ノ如シ起立時ニ於テ全身動搖  
ス、言語モ眼球モ等シク共働機ノ變調ニ陥ル腿反射消失シ趾ノ背面屈曲ヲ  
生ズ、本病ノ一種トシテ遺傳性小腦共働機變調症ト稱スルモノアリ腿反射  
常ニ亢進ス

(療後) 不更

(療法) 對症的ナリ即チ專ラ體操的練習ヲ行ハシム

### セルリエー氏病

首下リ病

Morbus Gerlieri.

モルブリス  
セルリエー

(原因) 未詳牛馬ノ厩舎ニ接近セル家屋ノ住人ニ本病ヲ發スルコト多キヲ以テ本病  
ト家畜トノ間ニ原因上ノ關係アルコトヲ推測スルモノアリ

(診候) 視力減弱、複視、眼瞼下垂、項筋不全麻痺、(首下リ)ヲ主徵トス其他諸筋ノ不  
全麻痺ヲ發ス、本病ハ發作性ニ發スルモノニシテ其持續ハ數分乃至數時間  
ヲ算ス

(療後) 難治ノ症ナルモ生命上更  
(療法) 「ヨード」劑亞砒酸劑ヲ試用スヘシ

### ウエルホフ氏血斑病

Morbus Maculosus

Werlhoffi. モルブリス、マクロズス  
ウエルホフ

(原因) 不明恐ラクハ傳染及中毒ナラン  
(診候) 皮膚及粘膜(殊ニ消化器)數多ノ毛細管出血性斑、吐血、下血、衄血及ビ全身  
遠和疲勞等ナリ然レトモ齒齦ヲ侵サズ

(療後) 概シ不更

(療法) 飲食攝生及住居ノ改良ニ注意シ衄血ニハ冷水洗滌或ハ栓塞ヲ施シ吐血ニハ  
氷片ヲ嚥下セシムル等但シ虛弱家ニハ就寢安息ヲ守ラシムベシ

ハルレル氏酸越歴矢兒

ユ

覆盆子舎

三〇、〇

キナ煎

(一〇、〇)一五〇、〇

留水

二〇〇、〇

稀硫酸

五、〇

右調和毎二時二食匙

五、〇

橙皮舎

二〇、〇

稀硫酸

二〇、〇

水製麥角越

二、〇

覆盆子舎

二〇、〇

留水

一、二〇、〇

右毎二時一茶匙一盞ノ水ニテ用

セルリエー氏病 ウエルホフ氏血斑病

覆盆子舎

一〇、〇

白糖

一〇、〇

右調和毎二時一小兒匙

右散十包ニ分チ毎二時三乃至五

枸橼酸鐵キニーチ  
麥角越

一、〇  
〇、三乃至〇、五

### ワイル氏病

Morbus Weilli.

モルブス  
ワイル

(原因) 一千八百八十六年ワイル氏創メテ本病ヲ詳述ス、原因未詳ノ傳染症ニシテ  
專ラ十四年乃至三十年ノモノニ多ク夏期ニ發生シ殊ニ肉類ヲ扱フモノニ多

(診候) 俄ニ惡寒ヲ發シ、體溫上昇、頭痛、食慾不振、惡心、嘔吐、下痢ヲ發シ第二日ニ  
至リ筋痛(殊ニ腓腸部)第三日ニ至リ強度ノ黄疸(急性傳染性黄疸)ヲ生ジ

屢々譫語ヲ發スルコトアリ脾臟腫大シ蛋白尿或ハ尿ニ血液、顆粒性圓柱、上  
皮細胞ヲ混ズルコトアリ

(豫後) 良一週半ニシテ體溫下降シ恢復期ニ移行ス

(療法) 就寢安靜ヲ命ジ内服藥ニハ甘汞ヲ實用ス飲食ノ攝生ニ注意シ殊ニ脂肪及牛  
乳ヲ避クベシ頭痛ニハ氷嚢、筋痛ニハ濕温電法ヲ施シ食慾欠損ニハ大黃丁  
幾チ與フ  
甘汞 〇、三乃至〇、五  
乳糖 〇、五

右爲一包頓用通利アレバ後服チ  
止ム

單舎 二〇、〇  
餹水 一八〇、〇

水製大黃丁

一〇、〇

右一日三回二日分服(毎食前)

### モルヒネ中毒

Morphinismus.

モルフヒニムス

(原因) 阿片或ハ「モルヒネ」ノ濫用

(診候) 昏睡、知覺脫失、神識缺乏、皮膚蒼白、脈搏細徐、瞳孔縮小等ナリ

(療法) 服用シタル「モルヒネ」ノ分量ニ從ヒ其後服チ止ムルニ緩急ノ別ナカルベカ  
ラズ而シテ之ヲ止ムルノ初メ數日ハ補藥トシテ却テ阿片或ハ抱水クローラ  
ルヲ與フ可シ〇虚脱ヲ呈シ來レルトキニハ強葡萄酒若クハ「コンニヤツク  
酒ヲ與ヘ或ハ一時ノ處置トシテ一乃至二回「モルヒネ」ノ皮下注射ヲ施スコ  
トアリ豫防法ニハ「モルヒネ」ノ皮下注射ヲ制限スル等ニ外ナラズ(急性中  
毒ハ中毒ノ部ヲ參照)

### 毛虱

Morpions. モルギナチス

(原因及診候) 毛虱ノ寄生ニ因ス〇先ヅ陰部被毛部ニ時々劇甚ノ癢痒ヲ發ス後ニハ  
腋窩、髯、眉毛ニ蔓延ス患部ヲ檢スレバ毛虱及其卵ヲ發見ス

(療法) 外用藥ヲ塗擦スルノ期毎夕チ最適當ナリトス而シテ翌日ニ至レバ石鹼浴ヲ

ワイル氏病

モルヒネ中毒 毛虱

行フ可シ且ツ此症ニ於テ見ル處ノ濕疹ハ後之ヲ療スベシ  
シ且ツ之ヲ少量ニ用井テ口内炎  
及ビ濕疹ヲ發セザル様注意スベシ

- 水銀軟膏 一〇、〇
- 右塗擦料
- 水銀軟膏 各五、〇
- ワゼリン 各五、〇
- 右爲軟膏外用
- 白降汞 各五、〇
- ワゼリン 各五、〇
- 右爲軟膏外用
- 白降汞 一、〇
- ワゼリン 二〇、〇
- 右調和軟膏ニ作り塗擦料(藥劑)
- ハ只毛虱ノ存スル部ニノミ塗擦

### 脊髓炎

Myelitis.

ニエリチス

(原因)力役過度、熱身冷地ノ睡眠、鉛中毒、經閉或ハ外傷出血、脊髓膜等比隣炎症ノ波及、過勞、精神ノ劇動、梅毒、急性傳染病後等ニ由ル

(診候)急性ニハ劇甚ナル腰痛、背筋ノ強直、發熱及下肢ノ癱瘓慢性ニハ腰痛、軀圍

- ナフトール 一、〇
- オレーフ油 一〇、〇
- 右調和塗擦料
- 石油 二〇、〇
- メルバルサム 一、〇
- 右調和塗布料
- クレタリン 二、〇
- 餾水 一〇〇、〇
- 右患部ヲ反覆洗滌スベシ

嵌頓ノ感覺、體端蟻行ノ感覺等ニ次テ起ル下肢ノ癱瘓、膀胱麻痺、直腸麻痺等ナリ脊髓炎ノ胸髓ニ在ルモノ最モ多數ヲ占ム而シテ其症候ハ兩下肢ノ麻痺、腱反射ノ亢進、上腹部以下ノ知覺異常腰髓ニ在ルモノハ兩下肢ノ麻痺腱反射消失、臍部以下ノ知覺麻痺、頸部膨大ニ在ルモノハ兩下肢ノ麻痺上腹部以下ノ知覺消失、上肢ノ知覺消失及ビ運動麻痺等、頸髓ノ上部ニ在ルモノハ四肢ノ麻痺、四肢及ビ軀幹ノ知覺消失等

(豫後)微毒性ノ他ハ不長ナリ但シ經過二十年以上ニ至ルコトアリ

(療法)梅毒、鉛中毒等其原因療法ヲ主トシ而シテ適當ノ位置ニ安臥セシメ脊柱ニ氷嚢ヲ貼シ撒曹ヲ内服セシム梅毒ノ疑アルトキハ沃割及汞劑ヲ與フ〇劇痛ニハ芥子泥、久臥ニハ褥瘡ニ注意シ膀胱麻痺ニハ清潔ノ「カテーテル」ヲ用井テ排尿ヲ整理シ便通ニ注意シ且ツ營養ヲ善長ナラシムベシ

- 撒曹 六、〇
- 苦丁 四、〇
- 餾水 二〇〇、〇
- 右一日三回二日分服
- 硝酸ストリキニーチ 〇、〇二
- 餾水 一〇、〇
- 右四分一乃至一筒皮下注射料
- 蕃木藍越 一、〇
- 甘草羔 四、〇
- 右調和五十丸トシテ石松子末ヲ衣トス一日三回一丸宛

含糖ヨード化鐵  
白糖

二、〇  
三、〇  
右十包二分チ一日三回每一包

四〇〇

### 子宮筋腫

Myom des Uterus.

ミョーム、マス、ワヂルス

(原因)不明、春機發動期後ニ至リ著名ノ障害ヲ發ス。

(診候)出血及ビ疼痛ヲ以テ本症ノ主徴トナス。〇間質性筋腫ハ子宮增大チ來シ月經困難、前屈、或ハ後屈、喇叭管閉塞等ヲ惹起シ月經時外ニモ亦出血ヲ來ス。〇漿液膜下性筋腫ハ分泌過多及ビ出血ヲ發シ甚ダ大トナリ膀胱直腸等ヲ壓迫ス。〇粘膜下性筋腫モ亦分泌過多及ビ出血特ニ著名ナル月經困難

(豫後)概テ良ナルモ消化、血行、泌尿ヲ妨ゲ或ハ惡性腫瘍ニ變ズルノ虞アリ

(療法)本病ヲ根治スルニ筋腫ノ剔出ヲ要スルハ論ヲ俟タズ而シテ其手術ノ豫後尙ホ悉ク良ナラザルヲ以テ又々對症的ノ療法ヲ行フ即チ子宮粘膜ノ搔爬術ニ兼ヌルニ其腐蝕法ヲ以テシ或ハ「エルゴチン」ノ皮下注射ヒドラスチニンノ注射若クハ其内服ヒドラスチス流動越ノ内用或ハ電氣療法ヲ用ユ可シ

- 鹽酸ヒドラスチニン 一、〇〇
- 甘草羔 〇、五
- 右丸十粒ニ作リ一日一乃至二丸
- ヒドラスチス流動越 適宜

- マラセン酒 各三〇、〇
- 桂皮舎 一五、〇
- 右調和毎二乃至四時半茶匙乃至一茶匙
- 麥角越 二、〇
- 鹽水 八、〇

- 右半筒乃至一筒皮下注射料
- デントツエル氏麥角越 二、二五
- 硼砂 〇、二五
- 鹽水 七、二五
- 右每一日乃至二日一筒皮下注射ス

### 鼓膜炎 Myringitis.

ミリンギチス

(原因)急性症ハ冷水ノ流入(游泳、海水浴ノ際)感冒、外聽道炎、中耳炎ノ波及ニシテ特發ハ稀、慢性症ハ異物及取嗽

(診候)急性症ハ劇痛、灼熱、耳鳴聽覺不全、慢性症ハ癢痒及耳漏

(療法)鼓膜及其周圍部ニ充血ヲ呈シ且ツ尙ホ劇痛アル者ニハ耳部ニ冷罨法ヲ行ヒ又左方チ處スベシ而シテ洗耳ト通氣ヲ禁ス慢性ニハ洗耳後硼酸末ヲ用ユ

- 石炭酸 一、〇
- 安息香阿片丁 二十滴
- グリセリン 二〇、〇
- 右調和一日三回毎十滴耳中點入
- 外聽道ノ腫脹甚ダシク排泄物ノ多量ナルトキハ左方チ處ス
- 硫酸亞鉛 〇、四
- 鉛糖 〇、一五
- 縮水 四〇、〇

子宮筋腫 鼓膜炎

四〇一

假製明礬

四〇、四

グリセリン

ヨードカリウム

ヨード

右調和鼓膜塗布料

一〇、〇  
一、〇  
〇、〇一

縮水 右調和外聽道ヲ徐ニ善ク洗滌シ  
之ヲ點入シ栓壓ヲ施スベシ  
鼓膜ノ潤濁セルモノニハ左方チ處ス

### 鼻茸

Nasempolyp.

ナーゼンポリープ

(浮腫様纖維腫) Oedematöses Polypom  
(粘液茸腫) Schleimpolypom

(原因) 男子ニ多ク幼年者ニハ少ナシ、慢性肥厚性鼻炎、副鼻腔蓄膿症又ハカリエス  
等ノ刺戟性分泌物アル場合ニ發生ス

(診候) 小ナルモノハ症狀ヲ發スルニ至ラズ、増大シ又ハ多發スルニ至リテ諸症ヲ  
發ス、茸ハ一側ニ來ルコトアルモ多クハ兩側ニ來ル、數個ヨリ數十個ニ達ス  
ルコトアリ、多ク中鼻道ノ側壁殊ニハイモル氏竇副口ノ周邊上鼻道、中鼻甲介  
ノ邊緣ニ稀ニハ鼻中隔(出血性鼻中隔茸)ニ發生ス、其部位ニヨリ器械的障  
碍ヨリ來ル症狀ヲ異ニス、普通ハ鼻腔栓塞ノ症狀ヲ發シ輕度ナルモノハ呼  
吸時異物移動ノ感アリ、音聲ハ甚鼻調ヲ帶ビ、睡眠時ハ多ク開口シ鼾聲強シ  
鼻涕過多爲ニ常ニ多少ノ咽頭カタルヲ合併シ、嗅覺ハ減退スルカ又ハ全

ク欠損スルコトアリ、常ニ頭重、頭痛ヲ訴ヘ、尙ホ眩暈、記憶力減退、精神鬱憂、  
甚シキハ反射性ニ喘息、癲癇等ヲ發スルコト慢性肥厚性鼻炎ニ於ケルガ如シ、  
著名ナルモノハ鼻鏡検査ニヨラザルモ鼻孔ヨリ一種ノ光澤アル灰白色ノ其  
柔軟ニシテ移動性アル知覺過敏ナラザル腫物ノ下垂セルヲ見バ其診斷ヲ誤  
ルコトナシ、然レモ時トシテ肥厚性鼻炎ト區別シ難キコトアルモ次ノ諸徴ヲ知  
レバ明カニ區別シ得ルナリ

### 鼻

#### 茸

- 1 知覺ハ甚タ鈍シ
- 2 消息子ニヨリ移動シ易ク頸ヲ求メ得可シ
- 3 灰白黄色ノ甚タ柔軟ニシテ光澤アリ
- 4 部位ハ多ク中鼻道ニアリ

### 肥厚性鼻炎

- 1 知覺ハ過敏ナリ
  - 2 移動性ナシ
  - 3 蒼白色ヲ帶ビ弾力性アリ
  - 4 部位ハ多ク下鼻甲介ニ來ル
- 后鼻腔ニ發生スルモノハ往々長莖ヲ有シ咽頭ニ下垂スルコトアリ(鼻咽腔  
茸)、鼻茸ト同時ニ惡臭アル鼻涕過多ナル時ハハイモル氏竇蓄膿症ノ疑アル  
ヲ以テ鼻茸ヲ除去セル后ハイモル氏竇副口ヨリ試験的洗滌法ハ其價値アル  
モノトス

(豫後) 生命上ノ豫後ハ良ナルモ再發スルコト多シ

(療法) 原因トナル可キ疾患アレバ先ヅ之ヲ治ス可シ藥液的處置ハ全ク無効ナリ、手術的療法トシテハ鉗子ニヨルモノ、電氣燒灼ニヨルモノ寒蹄係ニヨルモノアリ現今廣ク使用セラル、モノハ Desaut 氏 Fritsch 氏 Krause 氏ノ諸型寒蹄係アリ Desaut 氏ノモノハ最モ簡便ナリ、之ニ西山氏有又鉗子ヲ併用セバ妙ナリ、一回ニ全部ヲ抽出スルコト甚タ困難ナレバ豫メ患者ニ數回ノ手術ヲ要スル旨告ゲザル可カラズ

手術式、局處麻酔藥及其塗布方法ハ肥厚性鼻炎ノ療法ノ部ヲ參照ス可シ、只茸ノ莖ノ部ニ良ク塗布スルコトヲ注意ス可シ、左手ニ鼻鏡ヲ把持シ反射鏡ニヨリ十分鼻腔ヲ照射シ右手ニ蹄係ヲ取り之ヲ鼻腔ノ矢狀經ニ平行シテ挿入シ漸次茸ヲ擲フガ如キ狀態ニ蹄係ヲ茸ノ莖ニ送り次テ之ヲ絞斷ス後ニ遺殘セル斷片ハ西山氏有又鉗子ニテ切除スルコト最モ便ナリ、後療法ハ肥厚性鼻炎ノ手術ノ如キモ此ノ場合ニ於テハタンポンヲ去ルハ普通二三日ニシテ可ナリ、然レモ鼻中隔ニ來ル出血茸ニ於テハ前者ノ如ク容易ナラズ

### 腎臟炎 (武雷篤氏病) Nephritis. 子フヤチス

(原因) (甲) 急性腎臟炎ハ感冒、急性傳染病即チ殊ニ猩紅熱、實扶的里、丹毒、敗血症、天然痘、慢性傳染病、就中麻拉里亞、結核、梅毒、癩病、中毒就中堯菁、鹽

剝、バルサム劑、石炭酸等其他未詳ノ原因

(乙) 慢性腎臟炎ハ慢性傳染病、佝僂質斯、慢性皮膚病、慢性「アルコホル」中毒其他急性腎臟炎及未詳ノ原因

(丙) 眞性萎縮腎ハ「アルコホル」中毒、鉛中毒、痛風、慢性心臟內膜炎、佝僂質斯

(丁) 鬱血腎ハ心臟及肺臟病ニ因スル血行障害其他腎靜脈及ヒ下行大靜脈ノ壓迫、腎血塞、

(戊) 妊娠腎ハ妊娠

(己) 虎刺拉腎ハ虎刺拉

(診候) (甲) 急性腎臟炎ニ在テハ寒戰發熱、頭痛、腎臟部疼痛、舌苔、惡心、嘔吐、水腫ヲ呈シ、尿ハ減少、混濁、赤色ニシテ沈渣(特ニ圓毒)ニ富ミ且ツ蛋白ヲ含ム

ト著シ而シテ尿毒症肺水腫肋膜炎等ヲ發スルコトアリ

(乙) 慢性腎臟炎ニ在テハ皮膚蒼白、水腫、尿量減少、尿比重增加、蛋白尿及尿沈渣增多ヲ發シ頭痛、惡心倦怠ヲ訴フ既ニシテ慢性腎炎ノ末期即チ萎縮腎ヲ發スレバ水腫減退、尿量增加、尿比重減少、蛋白及沈渣ヲ減ズ○慢性腎臟炎ノ緊要ナル續發症ハ左心室擴張肥大及蛋白尿性網膜炎(通常兩眼ヲ侵ス

診斷上肝要ナリ蓋シ該網膜炎ニ依テ始メテ蛋白尿アルコトヲ發見スルコトアレバナリ)

(丙) 眞性萎縮腎ニ在テハ水腫ハ輕微若クハ缺如尿量非常ノ增加、尿比重ノ

非常ノ減少(一〇〇三—一〇一二)、蛋白尿及尿沈渣僅微其他蛋白尿性網膜  
 炎、動脈血壓亢進ノ症(脈搏硬固、大動脈第二音ノ強盛、左心室肥大)、心悸亢  
 進、頭痛、眩暈、輕度呼吸困難、腸胃加答兒及鼻出血、腦出血等ヲ續發ス既ニ  
 シテ患者心臟衰弱ヲ發スレバ諸症俄カニ變ジテ水腫著明、尿量減少、尿比重  
 增加(一〇二〇以下)蛋白尿モ亦著明トナリ尿毒症ヲ發ス  
 (丁)腎血腎ニ在テハ水腫ヲ發シ尿ハ減少汚赤、冷却スレバ煉瓦赤色ノ尿酸  
 鹽沈渣ヲ生ジ熱スレバ中等度ノ蛋白ヲ現ハシ沈渣ヲ鏡檢スレバ多量ノ無晶  
 形尿酸鹽ト少量ノ三磷酸鹽、赤白血球硝子樣圓嚙アリ  
 (戊)妊娠腎ハ妊娠第三月後ニ發シ水腫、頭痛、惡心、嘔吐ヲ來タシ屢々急痛  
 ヲ發ス而シテ尿量減少蛋白尿時トシテ尿中種々ノ圓嚙  
 (己)虎列拉腎ハ尿量減少(或ハ無尿)、潤濁、インヂカカンレノ多量、少量ノ蛋  
 白ヲ含ム水腫ヲ發セズ

(豫後)急性腎臟炎ノ感冒及急性傳染病ニ因スルモノハ良但シ猩紅熱性ノモノハ不  
 良中毒性ハ其輕重ニ從フテ差アリ○慢性炎ニシテ心臟衰弱ノ兆アルトキハ  
 不良ナルモ輕快若クハ全治スルコトアリ○眞性萎縮腎ハ不治症ナルモ生命  
 上俄カニ不良ナルモノニ非ズ○腎血腎ハ其原因ニ從フテ差アリ妊娠腎ニシ  
 テ急痛ヲ發スルモノハ不良ナルコトアリ虎列拉腎モ亦タ不良

(療法)初期ニハ待期療法ニシテ醋酸カリウムレノ緩和尿劑ヲ與ヘ浮腫ニハ熱浴(攝

氏四十乃至四十二度浴間ハ十五分乃至三十分時ニシテ後二三時間温包ス)  
 ヲ取ラシメ兼テ發汗劑(殊ニ「ヤボランザ」或「ピロカルピン」)茶劑等ヲ與フ  
 ○其法初メ毎日、後ニハ時々之ヲ行ヒ尿中蛋白質ヲ消失スルニ至ル迄怠ル  
 可カラス○病勢持續スルニ於テハ安臥靜息セシメ可成ハ牛乳療法ヲ持久ス  
 牛乳ノミヲ以テ患者ヲ養フニハ一日三乃至四リイテルレノ牛乳ヲ與ヘザル  
 ベカラズ若シ多量ヲ用ユルコト能ハザルトキハ毎日凡ソ一リイテルレノ牛  
 乳ヲ與ヘ其他葛湯、オモ湯、菜類、豌豆、胡蘿蔔、藥物等ヲ用ユベシ肉類、肉羹  
 汁ハ之レヲ禁ズベシ○慢性ノモノニハ鐵劑及健胃劑ヲ處シ又多量ノ飲料ヲ  
 與ヘ或ハ毎日半乃至數リイテルレノ牛乳療法ヲ行フ其他一般ノ攝生ニ注意  
 シテ身體ヲ温包シ僅微適宜ノ運動ヲナサシメ或ハ梅毒、間歇熱等ノ原因療  
 法ヲ主トシ又温暖轉地療養等ヲ試ム可シ

ザウレチン 三、〇乃至五、〇  
 單舎 一〇、〇  
 縮水 一〇〇、〇  
 右一日數回分服  
 ギキ葉浸 二、〇〇一八〇、〇  
 硝酸カリウム 六、〇  
 單舎 二〇、〇

右一日六回二分服  
 醋酸カリウム 一五、〇  
 苦丁 二、〇  
 縮水 二〇〇、〇  
 右一日三回二分服  
 撒曹カフエイン 〇、二  
 白糖 〇、三



右爲一包與六包一日三回二分  
 酒石英 一〇、〇—四〇、〇  
 醋酸カリウム 一五、〇  
 苦丁 二〇、〇  
 右一日三回二分服

酒石英 二〇、〇乃至四〇、〇或ハ五〇、〇  
 右散劑或ハ水劑トナシ一日三回二分服

慢性症ニハ  
 十%ヨザピン 一〇〇、〇  
 右一日三回一茶匙

沃剝 五、〇  
 右一日六回牛乳ニ混シ用ユ二分服

杜松實浸 (二〇、〇)一八〇、〇  
 醋酸カリウム 一〇、〇  
 單舎 二〇、〇  
 右一日六回二分服

其他ノ植物性利尿劑、枸橼酸カフェイン等モ亦賞用スル所ナリ  
 尿中多量ノ蛋白チ含有スルトキハ左方

タンニン酸 五、〇  
 水製蘆薈越 二、〇  
 蒲公英末及同越 適宜  
 右調和丸五十粒ニ作り一日三回每三粒

タンニン酸 〇、五  
 白糖 二、〇  
 右調和散五包ニ分チ每三時一包

タンニン酸 一、〇乃至五、〇  
 右一日六回牛乳ニ混シ用ユ二分服

重曹 適宜  
 右アルカリ反應ヲ呈スルニ至リ一二日ニ用ユ「タンニン酸ナトリウム」

明礬 二、〇  
 單舎 一〇〇、〇  
 右調和每二時一食匙

血尿症ヲ兼メル者ニハ左方ヲ處ス  
 麥角 〇、三  
 タンニン酸 〇、〇三  
 ゴム散 〇、五  
 右爲一包與六包一日三回一包宛

鉛糖 〇、二  
 鹽莫 〇、〇五  
 右研和散五包ニ分チ每二時一包

過クロール鐵液 二、〇  
 桂皮水 一五〇、〇  
 桂皮舎 二〇〇、〇  
 右調和每二時一食匙

麥角越 一、〇  
 薄荷油糖 二、〇  
 右散五包ニ分チ每三時一包

尿毒症ノ徵候アルトキニハ安息香製劑ヲ用ヒ又急痛發作ヲ併發スルニ於テハ頭部ノ氷罨法、刺戟灌腸等ヲ行フテ効アリ其他下劑ヲ投シ或ハ「モルヒ子」ノ皮下注射ヲ行フコト有リ

安息香酸 〇、五  
 枸橼油糖 二、〇  
 右研和散五包ニ分チ每二時一包

安息香華 各二、〇  
 白糖 各二、〇

右研和散十包二分チ毎三時一包  
不眠及ビ尿毒性喘息ニハ左方

パラアルデヒド 四、〇  
サレツプ漿 各二〇、〇  
橙皮舎 一〇〇、〇  
縮水

右調和毎二時一食匙

小兒ノ急性腎臟炎ニハ先ツ專ラ牛乳療法ヲ施シ利尿劑ヲ禁ジ飲料ニハ鹽泉(カル、ス泉曠等)ヲ與フ而シテ高度ノ水腫ヲ豫防スルノ力アル發汗療法ヲ用ユ初期無熱ナル場合ニ遭遇スルコト屢ナリ此ノ場合ニ於テハ溫浴ヲ命シ浴後毛巾ヲ以テ溫包シテ一二時間發汗セシムベシ高熱アル症ニハ溫浴ニ代フルニブリースニツツ罷法ヲ用ユベシ發汗療法ノミヲ以テ奏効不充分ナル時ハ下劑

チ用井テ腸ニ誘導スベシ如上ノ方チ盡スモ尙ホ高度ノ水腫チ生スレバ腎臟チ刺戟セザル様細心注意シテ「ヂウレンチン、アグリニン、醋剝」等ヲ試ムベシ  
ヂウレンチン 一、〇乃至二、〇  
縮水 一〇〇、〇

右每二時一茶匙乃至一小兒匙宛  
(年齡ニ從フ)

アグリニン 〇、五—一、〇  
縮水 一〇〇、〇  
右每二時一茶匙乃至一小兒匙宛  
(同上)

醋剝 三、〇—一〇、〇  
縮水 一〇〇、〇—一二〇、〇  
右每二時一茶匙乃至一小兒匙宛  
(同上)  
復方センナ浸 一〇〇、〇

右每二時一小兒匙(通利アレバ後服ヲ止ム)

發熱兼血尿症ニハ  
タンニン酸キニーチ一、〇乃至二、〇  
白糖 三、〇

右研和散十包二分チ毎二時一包  
乳汁ニ加ヘ用ユ  
尿毒症及ビ急癩ニハ毎日二回列氏二十

### 三叉神經痛

(顔面痛)

Neuralgia trigemini.

ノイラルギア、トリゲミヌス

(原因) 雙麻質斯、麻拉里亞、梅毒、鉛毒、三叉神經ノ壓迫、寒冷、貧血、萎黃病、比斯の里、感冒、外傷、頭部ノ疾患等

(診候) 顔面ニ發スル發作性劇甚ノ疼痛ニシテ其三叉神經枝ヲ傳播放線狀ニ波及スルコト電ノ如シ而シテ其疼痛第一枝ニ係ルモノハ前頭、眼珠、上眼瞼第二枝ニ係ルモノハ下眼瞼、上唇、鼻翼、上齒列第三枝ニ係ルモノハ下唇、下顎下齒列及舌尖ニ發スルモノナリ

七乃至二十八度ノ溫浴ヲ取ラシメ且ツ下劑ヲ投ジ又抱水「コロラール」ノ灌腸

抱水コロラール 二、〇乃至六、〇  
縮水 一、二五〇、〇  
右調和灌腸料(二回分) 一〇、〇

安息香華 一〇、四  
白糖 三、〇  
右研和散十包二分チ毎二時一包

(療後) 概子疑

(療法) 可成其原因ヲ探リテ原因療法ヲ行ハザル可ラス即チ痲質斯性神經痛ニハ發汗浴、按摩法、電氣療法ヲ行フ又冷水療法或ハ軟膏塗擦或ハ硫酸「エーテル」若クハ石油「エーテル」ノ洗滌或ハ「クロロフォルム」ノ吸入或ハ「モルヒネ」ノ皮下注射等ヲ賞用ス○定型性發作ニハ「キニーネ」、梅毒ニハ水銀療法鉛中毒ニハ「ヨードカリウム」等ヲ用ユ而シテ其頑固ナルモノニハ神經截除術ヲ施スノ外他ナキモノトス

硫規

二、〇

右散五包ニ分チ每發作前二包

法水

一〇、〇

右每三時五滴

沃曹

三、〇

苦丁

三、〇

留水

二〇〇、〇

右一日三回二日分服

亞鉛華

各二、〇

顯草越

右調和丸二十粒ニ作り每發作三

粒

ブチールクロラール

三、〇

再留酒精

一〇、〇

アリセリン

二〇、〇

留水

一〇〇、〇

右調和一回三乃至四食匙

エキサルギン

二、五

橙皮丁

五、〇

留水

一二〇、〇

橙皮舎

三〇、〇

右調和朝夕一食匙

ウエラトリン

〇、五

ワセリン

二〇、〇

右調和軟膏ニ作り塗擦

結晶亞尼質混

〇、〇一

濃厚酒精

留水

各三〇、〇

右調和一日一乃至二回每一茶匙

アンチチルウ井ン

各五、〇

白糖

各五、〇

ケルゼミ丁

五、〇

右三十分時毎二十滴三回

### 神經衰弱症

Neurasthenie.

ノイラステニー

(原因) 身體的及ヒ精神的、過勞、喫烟過度、手淫等ナリ壯年期ニ多シ

(診候) 腦髓性脊髓性及ヒ以上兩性ヲ併發スルモノアリ腦髓性神經衰弱症ニ在テハ頭重或ハ頭痛ヲ訴ヘ書ヲ讀ムモ其理義ヲ十分ニ解スルコト能ハス健忘ニ陥リ總テ精神的事業ニ從フノ力ナク不眠症ヲ發シ怒リ易ク又喜ビ易ク感情忽チニ劇變スルヲアリ特ニ恐懼ヲ抱クヲナシ大便多クハ便秘食思缺損ス(神經性消化不良) ○脊髓性ノ者ニ於テハ晨起既ニ身體殊ニ筋肉ノ疲勞ヲ覺エ歩行ノ際速ニ下肢諸筋ノ疲勞ヲ覺エ又屢下肢ニ異常ノ感覺ヲ覺エ薦骨部ニ於テ疼痛ヲ訴フルコトアリ而シテ脊椎骨ヲ壓シテ疼痛ヲ發スルコトアリ

神經衰弱症

(豫後) 生命上豫後良ナルモ全治スルコト難シ  
(療法) 精神的事業ヲ徐々ニ減シ海岸或ハ山中ニ轉地療養ヲ命ジ全身感傳電氣ヲ處シ又按摩法ヲ用ユ冷水ヲ以テ身體ヲ摩擦シ就業、休憩トナ適度ニ相交換セシメ正規的戶外運動ヲナサシメ食事時間ヲ確定シ食物ニハ肉類ヲ選ミ「ア  
ルコホル」煙草、茶、咖啡等ヲ節減シ便通ヲ整フ可シ

臭剝

プロームナトリウム 各八、〇  
プロームアムモニウム 各八、〇

右分十二包毎夕一乃至二包ヲ水ニ溶解シテ用ユ

不眠症ニハ左方  
ズルホナール 一、〇

右一包トナシ就寝三時間前茶或ハ汁ニ混ジテ用ユ

消化不良ニハ左方ヲ處ス  
サリチール酸蒼鉛  
マア子シア

重曹

右散十包二分ヲ朝夕毎食後一包宛

薄荷油加重曹錠 三十個

右晝食及ビ晚餐後一乃至二個便秘ニハ按腹瀉注法ヲ用井左方ヲ處ス

センナ葉 各六、〇

昇華硫黃 各六、〇

八角茴香末 各三、〇

茴香末 各三、〇

純精酒石 各二、〇

甘草末 九、〇

白糖

右爲散劑毎夜八時ト十時ノ間ニ半盞ノ水ニ一茶匙ヲ溶解シ内服

下痢症ニハ下方ヲ用井テ効アリ

サリチール酸蒼鉛  
アルファ、ナフトール

白堊

煖酸石灰

右散分二十包朝晝食後每一包同時ニ貧血ヲ治スベシ(鐵及ビ「キニー

子)〇遲鈍性ニハ海水浴、高山、氣候、滋養物(肉乳汁卵)適量ノ酒精食料冷水塗

擦法

ニコチン中毒

Nicotinvergiftung.

ニコチンフェル  
ギフツング

(診候) 急性ニハ脈細徐、失神、嘔吐、強直、呼吸絶止、慢性ニハ心悸不正亢進、喘息、不眠、黒内障等ナリ

(療法) 急性ニ在テハ微温湯ヲ投シ咽頭ヲ搔攪シテ嘔吐ヲ促シ(吐劑ハ虚脱ヲ増進スルヲ以テ之ヲ禁ズ)或ハ胃唧筒ヲ用井或ハ興奮藥ヲ與ヘ又或ハ「モルヒ

子」ノ皮下注射ヲ行フテ其効ヲ認ムルコトアリ

タンニン酸 二、〇

卵蛋白 一〇〇、〇

餛水 一〇〇、〇

右調和振盪毎二時一食匙

慢性中毒ニハ喫煙ヲ嚴禁シ又黒内障ヲ來タセル者ニハ「ストリキニー」ノ皮

神經衰弱症 ニコチン中毒

下注射チ行フベシ  
 硝酸ストリキニール  
 10.0  
 10.0  
 留水

右調和皮下注射用四分一筒ニ始  
 マリ漸々増量スベシ

**水瘰** Noma

(原因) 瘰癧或ハ急性發疹ノ悪性ナル者等凡テ營養不頁ノ者ニ發ス大抵小兒ナリ  
 (診候) 口角ノ近傍ニ於テ發スル結節ニシテ外面ヨリ觸ルレバ板ノ如ク硬キモ内面  
 ニ破潰シテ瘡面ノ暗黒不潔ナル潰瘍ニ變ジ次ニ外面モ亦壞疽ニ陥リ乾痂チ  
 結ブト同時ニ同一ノ變化チ以テ速カニ四邊ニ蔓延ス患者ノ全身症狀其初メ  
 ニハ惡液質ニ過ギザルモ忽チ下痢、足部浮腫、虛脫等チ發ス

(豫後) 速カニ治チ施セバ良ナルモ然ラザレバ不頁  
 (療法) 局處療法ニハ腐蝕藥チ用ユ即チ「クロール」亞鉛末ニ水チ加ヘテ粥狀トナシ  
 綿花ニ浸シ之レチ患部ニ接着スルコト八分間ニシテ之レチ除キ殺菌水ニテ  
 洗滌シ綿帶ス又タ烙白金ニテ焼灼ス其他解熱藥、滋養食物、葡萄酒「コンニ  
 ヤック」酒等チ與フ  
 クロール酸カリウム 二〇〇  
 留水 100.0  
 右調和口内洗滌料

**肥胖病** Obesitas

(原因) 生體脂肪發生物ノ過食、安逸、坐食、病後體質ノ變性ナリトス  
 (診候) 歩行困難、反身、腹垂、發汗、心動微弱、脈博不齊、心臟肥大、呼吸困難、全身肥  
 胖、四肢及面部ノ浮腫尿中ノ蛋白等ナリ  
 (豫後) 疑、蓋シ心臟衰弱、腦出血、尿出血等チ發シ頓死スルコトアリ  
 (療法) 生理的原則ニ從ヒ其生活法チ一變シテ之ヲ持長セザル可カラズ即チ過食チ  
 禁シ八時間以内ノ睡眠チ命シ麵類、馬鈴薯、甘藷、菓子、酒類特ニ麥酒チ禁  
 シ、脂肪チ形成スルトコロノ物(澱粉、砂糖)及飲料チ節スベシ脂肪ハ禁ズヘ  
 カラズ一時ノ療法即チ姑息法ハ廢棄スルチ可トス次ノ三法ハ嘗テ稱用セラ  
 レタルモ有害ナルコトアリ第一パンチンガ氏療法(脂肪及含水炭素ノ食用  
 大節減并ビニ蛋白食用増加)第二エリプス、タイン氏療法(含水炭素大節減蛋  
 白ノ少量食用)第三オエルテル氏療法(蛋白多量食用飲料節減)其他三法共  
 ニ「アルコホル」性飲料チ節減ス○藥劑的療法及礦泉療法ハ只一時ノ奏効ア  
 ルノミ其他ノ攝生ニハ居常動靜相折衷シテ其適度チ慮リ心臟ニ異常ナキモ  
 ノニハ身體チ運動シテ筋力チ増加セシムルチ可トス

**便秘** Obstipatio alvi

オプスチパチチ  
 アルウ#1

水瘰 肥胖病 便秘

(原因) 不消化性粗食、收斂性飲食物、發汗泌乳排尿等ノ過多、膽汁分泌減少、腸管筋膜ノ麻痺若クハ痙攣或ハ腫瘍、佝僂病、貧血、妊娠子宮ノ壓迫其他ヒステリ

(診候) 硬結々塊シタル宿便ノ通利ナキコト三十七時以上ニ至ルコト有リ心身違和、倦怠、心悸亢進、眩暈等ニシテ終ニハ痔疾等ヲ發スルニ至ル

(療法) 一時性ナルモノト常習性ナル者トニ論ナク凡テ其原因ヲ除去スルコトニ注意シ適宜ノ運動ヲナシ飲食ヲ節シ腹部ノ冷水洗滌ヲ行ヒアリスニツツ氏ノ腹帶ヲ用井或ハ下腹ノ按摩法ヲ施シ鐵泉療法ヲ行ヒ又「グリセリン」坐藥ヲ用ユ乃至三、〇ヲ注射器ニ據テ直腸内ニ注入シ或ハ「グリセリン」坐藥ヲ用ユ

- センナ浸 (二〇、〇) 一五〇、〇
- 硫酸 三〇〇、〇
- 覆盆子舎 二〇〇、〇
- 右調和毎二時一食匙
- 蓖麻子油 三〇〇、〇
- 巴豆油 三滴
- 右調和毎二時一食匙 (二方共ニ稍々強劑ノ下劑ナリ)
- 甘汞

- 乳糖 各三、〇
- 右研和散六包ニ分チ毎二時一包効驗ヲ待テ後服ヲ止ム
- 蓖麻子油 三〇〇、〇
- 右一茶匙乃至一食匙(麥酒、肉羹汁、茶等ヲ和シテ用ユルヲ佳トス。蓖麻子油三、〇乃至五、〇ヲ包囊劑ニ作リテ用ユルコトアリ)
- 蓖麻子油 三〇〇、〇

- アラビアゴム末 一〇〇、〇
- 縮水 一五〇、〇
- マンナ舎 一五、〇
- 右調和毎時一食匙
- 硫酸 二〇〇、〇
- 縮水 二〇〇、〇
- 稀硫酸 二、〇
- 右調和毎時一食匙
- 硫酸 三、〇
- 右水ニ溶解シ一乃至二回ニ用ユ
- 緩下劑トシテ用ユ可キ者ハ左方
- サントセルマン下劑 三〇、〇
- 右茶劑全量四分ノ一チ一椀ノ熱湯ニ浸出シ用ユ
- 覆方センナ浸 五〇、〇
- 覆盆子舎 一〇〇、〇
- 杏仁水 五、〇
- 右調和微温トナシ用ユ

- センナ紙劑 五〇、〇
- 右二回ニ分服
- 水製大黃丁 一五、〇
- 右毎回一食匙頻々服用
- ヤラツバ脂 〇、五
- 卵黃 一箇
- 橙花水 三〇、〇
- 單舎 一五、〇
- 右調和毎時一茶匙
- タマリンド煎 (二〇、〇) 二〇〇、〇
- 枸橼酸マク子シウム 各二〇、〇
- マンナ舎 各二〇、〇
- 右調和毎二時一食匙
- マンナ 五〇、〇
- 薄荷水 一五〇、〇
- 右調和毎回一食匙頓服
- 常習性便秘ニハ若干日間整然左方
- 大黃浸 (五、〇) 一八〇、〇

重曹 八、〇  
薄荷油糖 右每二時一食匙 五、〇  
水製蘆薈越 各五、〇  
ヤラツバ越 適宜  
藥用石鹼 各五、〇  
大黃末及同越 右調和丸五十粒ニ作ル毎朝晨起  
每四粒 適宜  
水製蘆薈越 各五、〇  
蒲公英越 右調和丸五十粒ニ作り朝夕毎二  
粒 各一、〇  
水製蘆薈越 各一、〇  
大黃越 各一、〇  
大黃末 右調和丸十粒ニ作り甘草末ヲ衣  
トシ毎夕臨牀一粒

大黃越 各二、〇  
蘆薈越 各二、〇  
ヤラツバ脂 各二、〇  
甘草末及羔 適宜  
右爲四十九丸朝夕一丸宛  
純精酒石 一五、〇  
炭酸マグネシウム 〇、五  
白糖 三〇、〇  
右研和散ニナシ朝夕每一茶匙  
純精酒石 一五、〇  
セシナ葉末 一、〇  
白糖 三〇、〇  
右研和散ニナシ朝夕每一茶匙  
硫酸カリウム 各一五、〇  
純精酒石 各一五、〇  
白糖 三〇、〇  
右研和散ニナシ朝夕每一食匙  
硫酸ナトリウム 一五、〇

大黃根末 三〇、〇  
重曹 一〇、〇  
右每夕一刀尖  
カスカラサアラダ流動越  
橙皮舍 各二〇、〇  
右調和毎朝夕一茶匙  
大黃末 各二、五  
水製蘆薈越 適宜  
蒲公英越 右調和丸五十粒ニ作り毎晨四粒  
本症ニ兼ネテ食慾ノ缺損アルトキ  
大黃末 五、〇  
睡菜越 適宜  
右調和丸五十粒ニ作り毎晨五粒  
以上ノ諸方ニ比較シテ有力ナル下劑  
巴豆油 五滴  
葛蒲末及同越 適宜  
右調和丸十粒ニ作り毎朝三粒

巴豆油 二乃至五滴  
アラビアゴム漿 一五、〇  
縮水 五〇、〇  
アルテア舍 一〇、〇  
右調和一茶匙乃至一食匙  
大黃末 五、〇  
蘆薈越 二、〇  
コロシント越 〇、五  
大黃越 適宜  
右五十九丸ニ作り毎朝夕二粒  
ポドヒルリン 各〇、二  
藥用石鹼 適宜  
蜂蜜 右二十九丸ニ作り毎日一乃至三粒  
ポドヒルリン 〇、三  
大黃越 各三、〇  
蘆薈越 適宜  
蒲公英越 適宜

右四十九トナシ毎夕一乃至二粒  
 ホドヒルリン 〇、〇五乃至〇、二  
 縮水 一〇、〇  
 アンモニア水 五滴  
 右調和皮下注射料  
 コロシント越  
 大黃末  
 蘆薈末  
 ヤラツバ脂 各一、〇  
 藤黃 各一、〇  
 ミルラ 二、〇  
 右調和丸五十粒ニ作り毎日一乃至四粒(所謂セリソン氏丸)  
 ヤラツバ末 各二、〇  
 シカンモニウム末 各二、〇  
 龍膽越 適宜  
 右調和丸十粒ニ作り二乃至五粒  
 ナ内服シテ奏効アルヲ度トス

硫酸ナトリウム 一〇〇、〇  
 重曹 八〇、〇  
 食鹽 四〇、〇  
 硫酸カリウム 五、〇  
 右研和散ニナシ一乃至二茶匙ヲ一盞ノ微温湯ニ和シ用ユ(即チ人工カル、ス泉鹽)  
 小兒 ニ在テハ同時ニ其尙優病及ビ貧血ニ對スル療法ヲ施スベシ  
 嬰兒靈水 二〇、〇  
 右毎回一茶匙  
 マンナ糖 一〇、〇  
 縮水 五〇、〇  
 右調和每時一茶匙(哺乳兒)  
 マンナ舍 各二〇、〇  
 大黃丁 各二〇、〇  
 右調和每時一小兒匙(便通ヲ得ルヲ度トス)

ホドヒルリン 〇、一  
 再縮酒精 一、〇  
 覆盆子舍 五〇、〇  
 右調和毎回一乃至二食匙  
 覆方センナ浸 各三〇、〇  
 覆盆子舍 各三〇、〇  
 杏仁水 二、〇  
 右調和一乃至二食匙(小兒ノ年齢ニ隨フ)  
 マンナ舍 三〇、〇  
 水製大黃丁 一〇、〇  
 右調和每一小兒匙  
 稍々年長ノ小兒ニシテ便秘ノ長ク持續シタルモノニハ左方ヲ處ス可シ  
 タマリンド煎 (一五、〇)一五〇、〇  
 硫苦 一〇、〇  
 マンナ舍 一五、〇  
 右調和每二時一小兒匙

大黃浸 (二、〇)五〇、〇  
 マンナ舍 二〇、〇  
 右調和每時一食匙  
 大黃末  
 炭酸マグネシウム 各一〇、〇  
 茴香油糖 右一日一乃至二回一刀尖  
 センナ浸 (三、〇)五〇、〇  
 マンナ舍 二〇、〇  
 右調和每時一食匙  
 甘汞 各〇、二  
 ヤラツバ根末 各〇、二  
 白糖 二、〇  
 右十包ニ分チ一日三回每一包其  
 他「カミルレ」煎ニ若干滴ノ「グリセリン」或ハ水等ヲ加ヘテ灌腸ヲ行ヒ又「カカオ」脂、グリセリン、グリセリン「石鹼」ノ坐藥ヲ用井又直腸灌注法ヲ施ス等本

便秘



症一般ノ治則ナリトス

### 動眼神經麻痺

Oculomotoriuslähmung.

オクモトリウスレームンク

(原因) 先天性外傷、癩瘡、梅毒、腦病、脊髓病、實扶的里、鉛中毒、ヒステリー等ナリ

(診候) 内直筋麻痺ニ於テハ眼球ノ内方運轉缺亡シ遂ニ外斜視ヲ發ス、上直筋麻痺ニハ上内方ノ運動ヲ缺ク下直筋麻痺ニハ下内方ノ運動ヲ營ムコト能ハス下斜筋麻痺ニ於テハ下内方ニ轉位ス全動眼神經麻痺ニハ以上ノ症候ノ他ニ上眼瞼下垂、瞳孔散大及不動、調節機麻痺ヲ起ス其他内直筋麻痺ニアリテハ交叉複視ヲ發シ兩像高低ノ差アリ假像ハ高クシテ傾斜シ上方ニ開ケル角ヲ形成ス○下直筋麻痺ニアリテハ同側複視ヲ發シ兩像高低ノ差アリ假像ハ高クシテ傾斜シ上方ニ開ケタル角ヲ形成ス凡テ視野ノ麻痺側ニ於テ複像ハ高クシテ傾斜シ上方ニ開ケタル角ヲ増加ス

(豫後) 梅毒、癩瘡、實扶的里性ノモノハ其、其他ハ概テ不良ナリ  
(療法) 原因療法ヲ專ツトシ其他電氣療法溫泉及全身療法ヲ施スベシ

硝酸ストリキニーチ 縮水

一〇、〇

癩瘡實斯ニハ「サリチール」酸、ピロカルピン」ノ注射梅毒ニハ汞劑沃刺等ヲ用ユ

右調和皮下注射用

### 齒痛

Odontalgie.

オドンタルギー

(原因及診候) 齒牙「カリエス」即チ齲齒及ヒ寒熱ノ刺戟等ニシテ疼痛ニ輕重アリ  
(療法) 齒牙「カリエス」ニハ微温湯ヲ用井テ其窩内ヲ洗滌シ以テ食物ノ殘片等凡テ不潔物ヲ除去シ居常齒ノ清潔法ニ注意シ又鎮痛劑ヲ處スル等治則ノ一般ナリ  
○齒齲骨膜炎ニハ微温含嗽水ヲ用井或ハ患齒ノ近圍ニ二三條ノ水蛭ヲ放チ或ハ「ヨード」丁液・芥子精等ノ塗布ヲ宜トス○化膿セル者ハ之ヲ切開シ又若シ患齒ノ爲メニ膿ノ排泄ヲ妨グルトキハ其患齒ヲ拔除スベシ  
齒齲弛緩シテ海綿狀ヲ爲スニ至レル者ニハ其齒石ヲ除キテ而シテ收斂性含嗽藥ヲ處スベシ

サフラン加阿片丁

エーテル精

薄荷油

右綿ニ浸シテ齒窩ニ挿入シ或ハ近圍ノ齒齲ニ塗布ス

各二、〇

乳香

苛性アムモニア水

再錮テレピンテ精

クロロフォルム

右調和用法同上

各二、〇

一五、〇

動眼神經麻痺 齒痛

ミルラ丁 五、〇  
 阿片丁 各一、〇  
 丁香油 右調和齒丁幾用法同上  
 クレオソート 〇、三  
 薄荷丁 一五、〇  
 右調和齒適劑  
 樟腦 二、〇  
 カヤブテ油 五、〇  
 丁香油 二滴  
 クロ、フオルム 一〇、〇  
 右調和齒滴劑  
 癒着木丁 一五、〇  
 繭草丁 三〇、〇  
 複方安息香丁 各五、〇  
 山萸菜精 二、〇  
 芳香阿片酒 右調和其一茶匙ヲ一椀ノ温湯ニ

加へ毎回一食匙屢々口内ニ含ム  
 コト若干分時タルベシ 〇、三  
 チモール 各三〇、〇  
 山萸菜精 一〇、〇  
 墨律薩精 一〇、〇  
 ラタニア丁 一、〇  
 薄荷油 〇、五  
 丁香油 一、〇  
 右調和毎回十滴一杯ノ水ニ和シ  
 テ用ユ用法同上  
 ヨード丁 各二〇、〇  
 グリセリン 右調和毎二時患齒周側ノ齒齦ニ  
 塗布シ後十分時ヲ經冷水ヲ用井  
 テ之レヲ洗滌スベシ  
 又結晶抱水「クロラール」ヲ棉花ニ被包  
 シテ齶齒窩内ニ挿入スルコトヲ賞用ス  
 ヒヨス葉 一〇、〇

錦葵葉 二〇、〇  
 右調和茶劑(用法其四分一チ一  
 茶碗ノ熱湯ニ浸出シ之ヲ以テ口  
 内ヲ洗滌スルナリ)  
 其他ニハ先ヅ微温湯ヲ以テ齶齒窩ヲ洗  
 滌シ脱脂消毒シタル棉花ヲ小塊ニ作リ  
 テ左ノ樹脂溶液中ニ浸セル者ヲ齒窩ニ  
 充填スルチ最良トス或ハ先ヅ石炭酸溶  
 液ニ浸セル綿塊ヲ挿入シ次テ左ノ樹脂  
 製劑ヲ充填スルモ可ナリ  
 サンダラツク 五、〇  
 エーテル 一〇、〇  
 右調和齒用樹脂ニ作ル  
 齒牙ノ疼痛若シ其齒髓ノ露出ニ因ル者  
 ナルトキハ腐蝕法ニ據テ以テ其齒神經  
 チ燒殺ズベシ  
 白砒石 二、〇  
 鹽莫 一、〇

クレオソート 適宜  
 右腐蝕用(砒石泥)其用法先ヅ齶  
 齒窩ヲ充分清潔ニシタル後該泥  
 劑ノ帽針頭大ナル者ヲ綿ニ塗布  
 シテ窩内ニ露出セル齒髓ニ貼シ  
 次テ前記ノ樹脂劑ニ浸セル棉花  
 塊ヲ充填ス而シテ鎮痛後ニハ速  
 カニ除去スベシ  
 沈降炭酸石灰 一〇〇、〇  
 イリス根末 五、〇  
 烏賊骨末 四、〇  
 白糖 各二、〇  
 ミルラ末 各適宜  
 蜂蜜及グリセリン 右調和齒牙泥劑  
 又收斂性含嗽劑トシテ賞用スル所ノ藥  
 劑ハ左ノ諸方ナリトス  
 吉納 一、〇

再留酒精	六〇、〇	薄荷油	十滴
薄荷油	十五滴	アラビアゴム漿	適宜
桂皮油	各五滴	右調和齒磨石鹼ニ作ル	
肉荳蔻油	二滴	白色精製石灰	一五、〇
丁香油	各五滴	イリス根	五、〇
右調和齒丁幾其用法ハ毎回三十滴ヲ半蓋ノ水ニ和シテ屢々口内ヲ洗滌スルナリ		薄荷油	五滴
チモール	〇、二五	右研和齒磨粉ニ作ル	
安息香酸	三、〇	白色精製烏賊骨	二五、〇
純酒精	一〇〇、〇	イリス根末	各三、〇
オイカリ丁	一五、〇	炭酸マグネシウム	各三、〇
ガウルテリヤ油	十五滴	薄荷油	三滴
右調和齒丁幾用法同上		右研和齒磨粉ニ作ル	
炭酸マグネシウム		菩提樹炭	一五、〇
イリス根		キナ皮	五、〇
滑石	各五、〇	阿仙藥	
藥用石鹼	各五、〇	ミルラ	
		桂皮	各二、〇
		丁香	各二、〇

ベルガモット油	二十滴	ミルラ末	三〇、〇
右研和齒磨粉ニ作ル		丁香末	一五、〇
泥菖根	各一五、〇	桂皮油	十乃至十五滴
イリス根		右研和齒磨粉ニ作ル	
精製赤珊瑚	各一五、〇	精製炭酸石灰	一二〇、〇
赤檀木		イリス根	六〇、〇
乾製炭酸ナトリウム	各五、〇	烏賊骨末	
右研和齒磨粉ニ作ル		白糖	各三〇、〇
沈降炭酸石灰	各六〇、〇	重曹	一五、〇
黃色キナ皮		薔薇油	十五滴
沈降牡蠣	各六〇、〇	右調和齒磨粉ニ作ル	

**聲門水腫**

Oedema glottidis.

エデマ、クロットチヂス

(原因) 強度ノ刺戟、梅毒、結核、室扶斯、痛腫、軟骨膜炎、心肺ノ疾患、腎病、喉頭、潰瘍、頭皮下蜂窩織炎、痘瘡、顔面丹毒、全身水腫ナリ

(診候) 強度ノ嘶啞聲音ニ窒息ノ危險ヲ兼メル吸氣困難、吸氣時鎖骨上窩、心窩及胸廓側壁ノ陷没、喉頭ノ疼痛、喉頭内異物阻塞ノ感覺、會壓軟骨側部及ヒ聲帶ノ水腫、顔面暗紅色ナリ

齒痛 聲門水腫

(豫後)疑、但シ速カニ療法ヲ施セバ良

(療法)氷片ヲ嚥下セシメ頸圍ニ氷巻法ヲ行ヒ或ハ水蛭ヲ放チ峻下劑ヲ投ジ或ハ灌腸ヲ行ヒ皮膚ノ強刺戟ヲ試ミ或ハ刺絡ヲ行ヒ或ハ喉頭鏡ヲ運用シテ腫脹部ノ亂刺ヲ行フ等其通則ニシテ最後療法ニハ氣管切開ヲ施スベシ

センナ浸 (一〇、〇)五〇、〇

純精酒石 一〇、〇

覆盆子舎 二〇、〇

右調和其半量ヲ頓服セシム

氣管及ビ氣管支ノ分泌物多量ナル時ハ

吐根浸 (二、〇)八〇、〇

吐酒石 〇、二

覆盆子舎 二〇、〇

右調和十五分一食匙ヲ用井テ奏効ニ至ルヲ待ツ(吐劑)

鹽酸アポモルヒ子 〇、一

グリセリン 二、〇

留水 八、〇

右調和注射料毎回ブラワツツ氏皮下注射器一筒

### 急性肺水腫

Oedema pulmonum acutum.

エタマ、アルモーム、アグワツム

(原因)心臟病、腎臟病、脚氣、全身水腫、肺炎、肺癆、痛腫、傳染病是ナリ  
(診候)呼吸困難、吸氣短縮、呼氣延長、喘鳴、咳嗽、稀薄泡沫咯痰、肺濁音、濕性捻髮音、全身「チアノーゼ」

(豫後)疑

(療法)興奮劑ノ皮下注射及内服(カンフル、エーテル)皮膚摩擦法ヲ行ヒ胸部及背部ニ大ナル發泡劑或ハ芥子泥ヲ貼シ又氷水或ハ醋水ノ灌腸ヲ施ス○發作經過後ニハ祛痰劑(吐根)ヲ與ヘ腎臟病アルトキハ兼ヌルニ利尿劑心臟病アルトキハ「ザキ」葉、ストロファンツス、丁チ處方ス

樟腦 一、〇

オレーフ油 九、〇

右皮下注射料毎三十分乃至一時一筒

吐根浸 (〇、六)一八〇、〇

單舎 二〇、〇

右毎二時一食匙

アルニカ花浸 (七、五)一五〇、〇

アンモニア茴香精 二、五

橙皮舎 一五、〇

右毎時一食匙

アルニカ花浸 (一〇、〇)一五〇、〇

醋酸エーテル 二、〇

橙皮舎 一五、〇

右調和每半時一食匙

吐根浸 (〇、八)二〇〇、〇

アンモニア茴香精 三、〇

吐酒石 五、〇

橙皮舎 二〇、〇

右調和每時一食匙

安息香酸 〇、三

樟腦 各〇、〇五

金硫黃 〇、五

白糖 各〇、〇五

右一包トナシ十包ヲ與フ毎二時一包

醋酸エーテル 五、〇

右每半時十滴ヲ與フ

麝香 〇、五  
 白糖 二、〇  
 右研和散五包二分チ毎時一包  
 エーテル 各五、〇  
 濃厚酒精 一五〇、〇  
 縮水 一五、〇  
 覆盆子舎 右調和毎時一食匙  
 ギキ葉浸 (〇、五) 二二〇、〇  
 醋剝液

**膿炎 Omphalitis.**

オムファリチス

海葱醋蜜 各一五、〇  
 右調和二時二食匙  
 ギキ葉浸 (二、五) 一五〇、〇  
 ストロファンツス丁 二、〇  
 醋剝液 各二〇、〇  
 橙皮舎 右毎二時一食匙  
 ストロファンツス丁 二〇、〇  
 右一日三回毎五乃至十五滴

(療法) 微温湯或ハ茶劑ヲ用井テ患部チ丁寧ニ洗滌シ又或ハ單ニ澱粉若クハ之レト「ヨード」フアルムレトノ混和劑ヲ撒布シ或ハブルンス氏棉花ヲ挿入シ或ハ注意シテ熔製硝酸銀ノ腐蝕ヲ行フベシ壞疽狀ヲ呈スルトキハ消毒藥ヲ用ユルコト勿論ナリトス。豫防法ニハ臍帶ヲ短ク切斷シテ之レヲ乾燥清潔ナラシメ且ツ其繙帶及ビ之レニ用ユル器械ヲ消毒スベシ  
 グラルド氏水 二〇〇、〇 右外用

鉛醋 五、〇  
 縮水 二〇〇、〇  
 右調和繙帶水  
 フロー氏液 二〇〇、〇  
 右電法料  
 石炭酸 五、〇  
 縮水 二〇〇、〇  
 右調和洗滌料  
 樟腦 二、〇  
 アラビアゴム漿 各五〇、〇  
 縮水

**寄生性爪炎**

Onychomycosis. オニホミコシス

右調和外用  
 サリチール酸 二、〇  
 澱粉 三〇、〇  
 右研和散布劑  
 酸化亞鉛 二、〇  
 緩和軟膏 一〇、〇  
 右調和軟膏ニ作り貼用  
 硼酸 一〇、五  
 澱粉 一〇、〇  
 右研和散布料

(原因) 多クハ「トリヒョヒートン」、「トンプランス」或ハ「アヒョリオソ」シエー  
 (診候) 爪甲ノ表皮剝離或ハ爪甲横面隆起ヲ發生シテ其發育ヲ妨グ終ニ爪甲實質ノ糊狀軟化ヲ來ス  
 (療法) 軟化セル爪ヲ削リ一%昇汞精ヲ塗布シ「サリチール酸硬膏」或ハ水銀硬膏ヲ貼用ス

臍炎 寄生性爪炎

水銀硬膏

110.0

右外用

昇汞

1.00.0

5%サリチール酸硬膏

右外用

右調和塗布料

### 卵巢炎

Oophoritis.

オーホリチス

(原因) 急性症ハ感冒、麻疹蔓延、産褥熱、腹膜炎、子宮外膜炎、子宮内膜炎、喇叭管炎等慢性ノ者ハ麻疹、房事過度、腫加答兒、子宮内膜炎等ナリ

(診候) 急性ノ者ハ其原病ノ症状ヲ以テ蔽ハル、コト有ルガ故ニ特徴ヲ示ス能ハズト雖モ皆患側ニ劇痛ヲ發ス慢性ニアリテハ直立位ノ動作ニ於テ殊ニ著シキ卵巢部ノ劇痛、便秘、食思缺損(睡眠不安、卵巢ノ起腫増大ヲ來タス)而シテ疼痛ハ壓迫、交接、月經時ニ増劇ス

(療後) 概子良

(療法) 急性症ニハ普通冷罨法ヲ用ユト雖モ温罨法ヲ用井テ其効有ル者却テ多シ凡テ安息靜止ヲ守ラシメ而シテ内服ニハ緩性鹽類下劑ヲ投シ又疼痛ニハ、モルヒ子<sup>ル</sup>或ハ阿片ノ坐藥ヲ用井或ハ阿片劑ニ浸セル綿球ヲ用井テ子宮ノ頸部ニ挿入シ若シ同時ニ白帶下ヲ認ムルハ小心注意シテ緩性ノ注射藥ヲ注射シ交接ヲ禁ズルカ若ハ之ヲ節限セシムル等○慢性炎ニハ沃丁、イヒチカール

ル<sup>レ</sup>ノ塗布、温坐浴、腔灌注法等

イヒチカール

一〇〇.〇

グリセリン

一〇〇.〇

右棉花腔「タンボン」ニ浸シ送入

イヒチカール

一〇〇.〇

可溶性銀

五.〇〇

グリセリン

一〇〇.〇

右同上

印度大麻越

〇.二〇

水製阿片越

〇.五〇

樟腦

一.〇〇

右研和丸十粒ニ作り毎發作一粒

臭剝

二.〇〇

苦丁

一.〇〇

硫酸マグネシウム

一〇〇.〇

餾水

一〇〇.〇

右調和一日三回分服

コテイソ

一.〇〇

龍膽越

一.〇〇

甘草及同羔

各適宜

右三十粒ニ作り毎日二乃至三粒

### 辜丸炎

Orchitis.

オウリチス

(原因) 淋毒或ハ結核、梅毒、外傷、尿道狹窄、攝護腺病、膀胱加答兒、流行性下耳腺炎、膿毒症、痘瘡、或ハ一種不明ナル原因ニ來ル

(診候) 淋毒ヨリ來ル者ハ副辜丸ニ次テ侵サレ腫起疼痛共ニ大ナリ梅毒ヨリ來ル者ハ腫起疼痛共ニ小ニシテ其「ゴム」腫性ナル者ハ經久梅毒ニ來リテ終ニ破潰スルモ梅毒性發疹後ニ來ル者ハ否ラズ結核性ノモノハ副辜丸炎ニ續發ス

卵巢炎 辜丸炎

(療法)其原因ヲ療シ其他對症療法ヲ施スベシ(副學丸炎參照)

### 骨髓炎 Osteomyelitis.

チステオミエリチス

(原因)原發性傳染性急性骨髓炎ノ原因ハ主トシテ黃色膿菌葡萄狀菌ノ傳染ニ因テ發ス稀レニ白色膿菌葡萄狀菌ニ因ルコトアリ又以上兩種ノ混合傳染ニ因ルコトアリ又連鎖狀膿球菌ノ傳染ニ基クコトアリ其骨髓ニ達スル經路ハ皮膚呼吸器消化器等ヨリ血中ニ進入スルモノナリ

外傷性骨髓炎ハ外傷ノ際若クハ其後ニ於テ創口ヨリ膿菌ノ侵入スルニ因テ發ス

(診候)中等度ノ骨髓炎ハ最モ多ク見ルトコロニシテ外傷或ハ感冒後二三日ノ間ニ於テ寒戰ヲ發ス體溫著シク昇騰シ(四十一度ニ達スルコトアリ)而シテ一骨若クハ數骨ニ疼痛ヲ發シ該部ノ軟部ハ腫脹ヲ來シ機能障害モ亦々著明ナリ○重症ニ在テハ高熱譫語等重症ノ全身症狀ヲ發シ一二日ニシテ死ス○輕症ニ在テハ全身及ビ局部ノ症狀共ニ甚シカラズ○中等度ノモノハ多ク腐骨疽ヲ發生ス

(療法)全身及ビ局部ノ症狀著明ナル者ニアリテハ患部ヲ切開シ髓ト鑿トテ以テ骨ヲ潛狀ニ切開シ膿ヲ排シ謀ルベシ其症候劇烈ナラザル者ニアリテハ患部ヲ安靜ニシ該部ニ氷罨法若クハ溫罨法ヲ施シ骨膜ノ腫脹疼痛甚ダシキ者ニアリ

テハ膿汁ノ瀦溜ヲ認メザルモ患部ヲ切開シ組織ノ緊張ヲ減ジ以テ疼痛ヲ緩解シ腐骨疽ノ發生ヲ豫防スベシ  
腐骨疽ヲ發生シタル場合ニアリテハ後ニ之レガ剔出術ヲ施スベシ

### 急性中耳炎 Otitis media acuta.

チチ・ス・メジ  
アクー・メ

(原因)概子鼻、咽喉ノ急性加答兒ニ併發ス(加答兒性)○急性發疹傳染病、即チ麻疹、痘瘡、猩紅熱及實扶的里、室扶斯(化膿性)

(診候)加答兒性ニアリテハ疼痛、耳鳴、充塞ノ感、聽覺減少ヲ發シ一日乃至數日ニシテ鼓膜穿孔分泌液ヲ排出シ、諸症輕快ノ鼓膜穿孔ハ多ク前下部ニ生ズ、○化膿性ニアリテハ劇痛、耳鳴、頭痛ヲ發シ小兒ニアリテハ發熱、譫語ヲ發スルコトアリ數日乃至二週ニシテ穿孔排膿ス其後諸症輕快スルヲ常トス

(療法)精神ノ感動身體ノ運動等凡テ疼痛ヲ増サシムル諸件ヲ避ケ緩下劑ヲ投ジ(セン)ナ浸、蓖麻子油、カル、ス泉鹽等發熱アル者ニハ臥褥ヲ命ズ、疼痛甚ダシカラズ鼓膜ノ潮紅、輕度ノ腫脹アルモノニハ棉花ヲ以テ外聽道ヲ閉ザ  
ブリースニツツ氏罨法ヲ行フ劇痛アルモノニハブロー氏液ノ溫罨法ヲ用ユ  
溫罨法ヲ用ユルモ尙ホ疼痛ノ甚ダシキハ鼓膜穿孔術ヲ施スベシ外聽道ノ洗滌ハ炎症ノ緩解後之レヲ行フベシ乳嘴突起ノ炎症アルトキ并ニ膿症アルトキハ外科的手術ヲ要ス

ブロー氏液

四〇〇、〇

三%硼酸水

四〇〇、〇

右温療法料用法二時間ガーゼ

右洗滌料

ヲ取り替へテ耳及乳嘴突起部ヲ

尙ホ通常同時ニ鼻加答兒及ビ咽喉加答

温ムベシ二時間休止後更ニ反覆

兒ニ適當ノ療法ヲ施ス可シ

### 慢性中耳炎

Otitis media chronica

チチ・ス、メジア、グローニカ

(原因) 專ラ急性症ヨリ轉スルモノナルガ故ニ急性症ニ同シ

(診候) 習慣性耳漏、重聽等ヲ發シ急性炎ニ類スル發作ヲ發ス

(療法) 分泌物ヲ洗去シ硼酸末若クハ明礬末ノ吹入ヲ處ス(急性炎參照)

### 外聽道炎

Otitis externa.

チチ・ス、エキスブルナ

(原因) 醗菌ノ侵襲ニ因ル

(診候) 局處性(外聽道痛癢)ニアリテハ皮膚潮紅、腫起、疼痛ヲ發シ其頂點ニ黃色ノ膿點ヲ現ハシ次テ破潰排膿ス初期ヨリ破潰ニ至ルマデ疼痛劇甚ニシテ不眠

症ヲ發スルコト少カラズ而シテ屢々數個相續テ發生ス〇汎發性ノモノハ緊張、灼熱、膊動、耳鳴、劇痛ヲ伴ヒ口ヲ開クトキハ更ニ疼痛ヲ増ス通常三四日

ノ後諸症輕快ニ向フモノトス分泌ハ初メヨリ増加シ漿液性ヨリ漸次膿性トナル

(療法) 外聽道痛癢ニアリテハ速カニ切開シ防腐的ニ處置スベシ、患者切開ヲ忌ム

トキハ「水銀石炭酸硬膏」ノ小片ヲ貼シ或ハ單ニ水銀硬膏或ハ石炭酸水ニ浸シタル栓塞ヲ施スベシ

汎發性ノモノニハ一〇%醋酸礬土水或ハ一〇%酒石酸醋酸礬土ニ浸シタル綿花栓塞ヲ施シブリスニツツ氏療法ヲ行ヒ安靜ヲ命ズ又タ充血ノ劇甚ナルモノニハブロー氏液ノ温療法ヲ用ユベシ(急性中耳炎參照)而シテ分泌ヲ

減ズルニハ硼酸水ノ洗滌ヲ行ヒ硼酸末ヲ吹入スベシ

醋酸礬土液 一〇、〇  
縮水 四〇、〇  
右微温トナシ外聽道ニ注入シ十分ノ後流出セシムベシ一日三回

### 卵巢囊腫

Ovarialkystom.

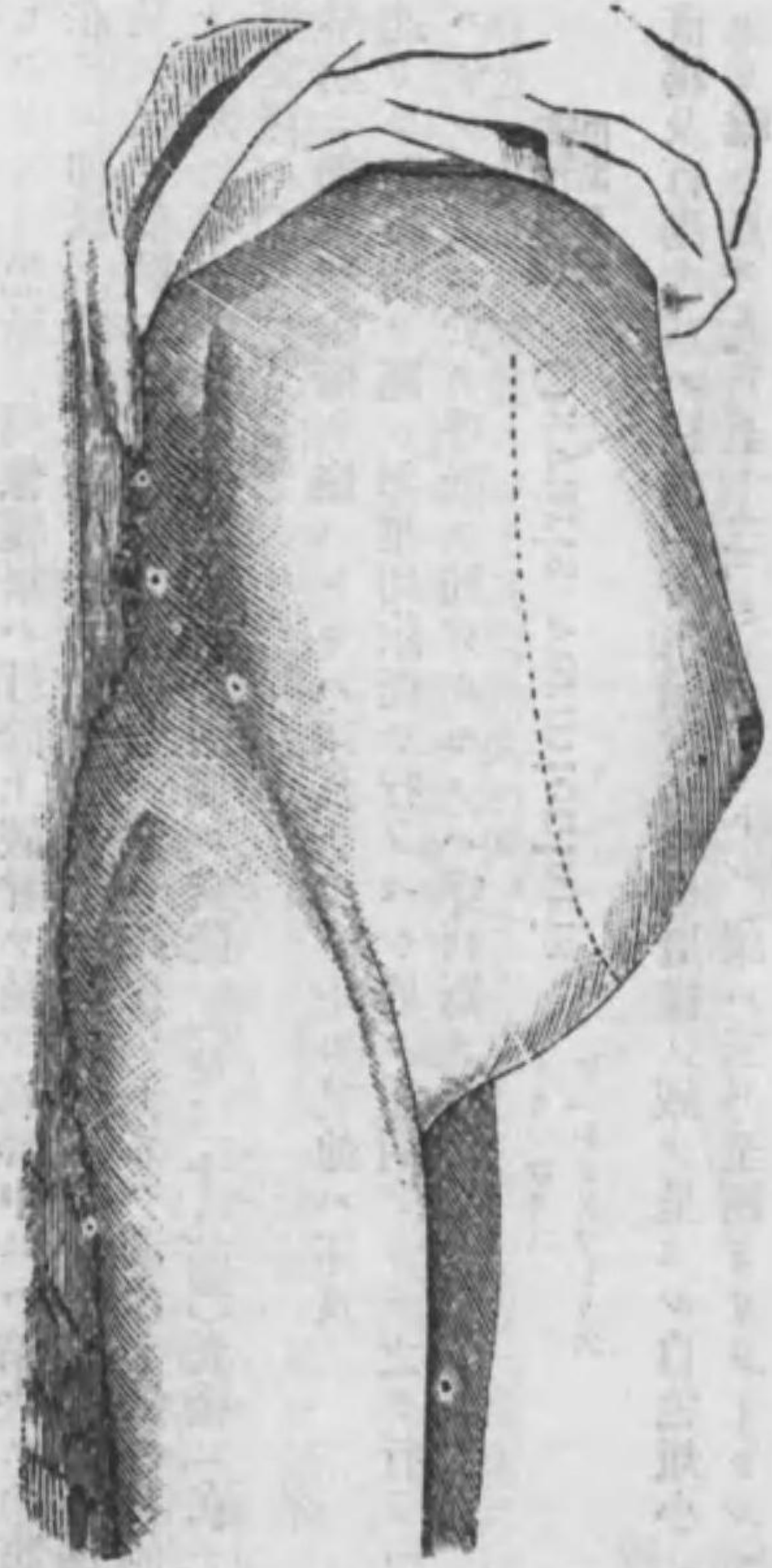
オヴァリアール、キストーム

(診候) 患婦始メニ床中急遽體位ヲ變ズルノ際下腹内ニ球ノ轉ズルガ如キ感ヲ覺エ次テ腸骨部ノ腫痛ヲ認メ漸次上方ニ増大シ遂ニ妊娠子宮ノ加クニシテ平等ニ波動ヲ有ス打診ニハ各體位皆ナ腹前壁ニ濁音ヲ側壁ニ鼓音ヲ呈ス腫瘍ヲ移動スルコト大ナルトキハ子宮モ稍ヤ移動スルモ腫瘍ト子宮ハ固着スルコトナク子宮ノ大サ常ノ如シ大サ妊娠子宮ニ超ユルトキハ腸胃ヲ壓シ營養ヲ

慢性中耳炎 外聽道炎 卵巢囊腫

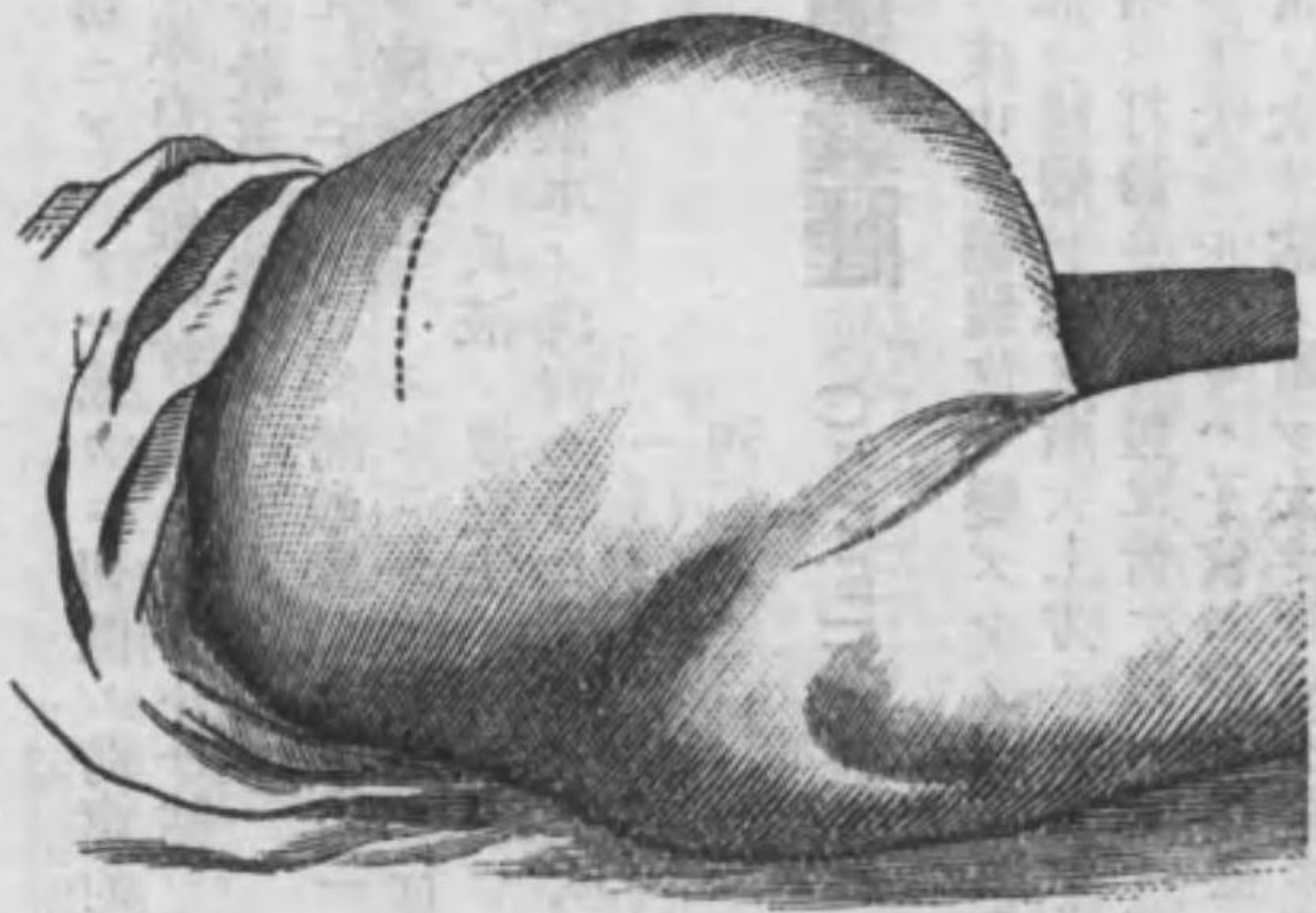


腹 水 點 線 以 下 水 圖



第 三 十 九 圖

第 三 十 八 圖



單 房 卵 巢 囊 腫

害シ肺ヲ壓シテ呼吸ヲ防ケ衰弱シテ死ス或ハ惡性腫瘍例令癌腫ニ變性シ惡液質ニ陥リテ仆ル又タ囊腫ノ破裂或ハ莖ノ捻轉ニ由テ急性腹膜炎ヲ發シテ死ス

ヒステリー患婦ノ摸像腫瘍ハ打診上鼓音ヲ呈シ麻醉中ニハ消失ス○腹水ニ在テハ仰臥ニ於テ打診音上方(即チ前壁)ニ鼓音、下方(即チ側壁)ニ濁音ヲ呈ス又タ側臥ニ於テハ上方ノ側壁ハ常ニ鼓音ヲ下部ハ濁音ヲ呈ス其他視診上腹水ニ在テハ前壁平坦ニシテ兩側ニ突隆シ(第三十九圖)囊腫ニ在テハ前壁突隆ス(第三十八圖)

(豫後) 早期ニ卵巢切除術ヲ施ストキハ不良ナラザルモ其他ハ不良  
(療法) 速カニ開腹術ヲ施シ卵巢切除術ヲ行フベシ他ニ重病アリテ之ヲ行フコト能ハザルモノニ於テ呼吸ヲ妨グルモノハ穿刺術ヲ行フ

蟯蟲

*Oxyuris vermicularis.*

オキシウリス  
ウエルミクラーリス

(原因) 直腸及盲腸内或ハ腔内ニ寄生發育スル絲屑様ノ親ヲ呈スル白色短小ノ圓蟲ナリ雌ハ長サ九乃至十三「ミリメートル」雄ハ三乃至四「ミリメートル」ニシテ腸蟲中ノ最小ナル者トス  
(診候) 便中ニ蟲及其卵ノ發見、虹圈ノ搔痒便意頻數、便通不整、小腹一定部ノ壓重及疼痛、腔粘膜ノ加答兒潰爛等ナリ

圖十四第



圖ノ雄雌蟲

右方ニ有ルハ雄蟲ニシテ其自然大ハ四「ミリメートル」左方ハ雌蟲ニシテ十「ミリメートル」ノ長サヲ有ス雄ハ其尾尖ヲズ雌ハ其尾尖レリ

(豫後) 良

(療法) 豫防法ニハ手殊ニ爪ノ清潔法ヲ嚴ニス可シ○冷水ノ灌腸ヲ以テ治効ヲ奏スルコト屢々之レアリト雖モ亦之レニ藥劑ヲ加入スルヲ宜シトス○治方中最モ賞用スル所ノ者ハ乳汁ニ混和セル大蒜末ノ灌腸ナリトス其他石灰水、食鹽溶液或ハ石炭酸水(各百乃至二百倍)ノ者ノ灌腸ヲ行フ等

肝油 四〇、〇  
卵黃 一個  
縮水 一六五、〇

右乳劑トシ灌腸一回分、本法無

藥用石鹼

五、〇

蟯蟲

縮水 一〇〇〇、〇

右調和八日間毎日一回一半乃至

三リリテレルヲ灌腸量トス

水銀軟膏 三、〇

右肛圍塗擦料(肛圍癢痒アルト

キ)

水銀軟膏 〇、一—〇、三

### 惡臭鼻漏

一名腦漏

Ozaena.

オツエナ

カ、オ脂 四、〇

右坐藥トシ毎夕一箇宛

肝油 五〇、〇

卵黃 一個

縮水 一二〇、〇

右乳劑トシ灌腸二回分

其他水銀軟膏一万倍昇汞水ヲ用ユ

(原因)急性鼻加答兒ノ不攝生、梅毒、腺病或ハ結核質ノ人ニ多シ  
(診候)鼻粘膜ノ腫起、灰白變色、靜脈怒張及分泌物ノ惡臭等ナリ  
(豫後)原因異ナルニ從テ一定セズ

(療法)單純ノ慢性分泌過多ナル鼻加答兒ニハ吸入水ヲ用井或ハ温「アルテア」煎ノ  
注入ヲ行フ可シ○成形過多性及ビ萎縮性ノ者ニハ百倍ノ食鹽溶液ヲ注入シ  
痲皮ヲ除去ス可シ又タ紅熱ヲ應用スル「有リ」○梅毒、腺病等ノ原因療法  
ヲ行ヒ又壞疽性骨片、息肉等ノ有無ヲ搜ル可シ吸入水ヲ用ユルニ當リテ鼻  
中潰瘍ノアル者ニハ其點注法ヲ最モ適當ナリトス  
クロール酸カリウム 二、〇  
白糖 二〇、〇

### 惡臭鼻漏

右研和細末ニ作り紙盒ニ入レ每  
日二回吸入用

明礬末 五、〇

白糖 二〇、〇

右調和用法同上

ザロール 一、〇

サリチール酸 〇、二

タンニン酸 〇、一

硼酸 四、〇

右吸入料(毎時吸入但シ半日チ  
超ユルヲ許サズ)

樟腦末 各一〇、〇

白糖 各一〇、〇

右調和用法同上

ヨードフォルム 〇、二

アラビアゴム末 一〇、〇

右研和細末ニ作り吸入用毎日三  
乃至五回(鼻腔洗滌後ニ用ユ)

ヨードル 二〇、〇

右研和末ニ作り吸入料

ヨードフォルム 〇、三

ワセリン 三〇、〇

右調和軟膏ニ作り鼻腔内塗布

クロール石灰 五、〇

縮水 五〇〇、〇

右調和吸入水

クロール酸カリウム 五、〇

縮水 五〇〇、〇

右調和吸入水

ヨードカリウム 二、〇

ヨード 〇、一

縮水 五〇〇、〇

右調和吸入水(殊ニ梅毒性)

苛性アンモニウム水 各五、〇

石炭酸 一五、〇

再縮酒精

縮水 一〇、〇  
 右調和毎回五滴ヲ吸墨紙ニ點シ  
 テ之ヲ吸入セシム  
 サリチール酸 四、〇  
 硼砂 六、〇  
 グリセリン 七五、〇  
 縮水 二〇〇、〇  
 右調和一茶匙ヲ一杯ノ水ニ和シ  
 テ注射或ハ含嗽ニ用ユ  
 過マンガン酸カリウム 〇、二  
 縮水 五〇〇、〇  
 右調和吸入用  
 ベタ、ナフトール 六、〇  
 クイルラヤ丁 四四、〇  
 縮水 二〇〇、〇  
 右調和綿花製栓塞ニ製シ鼻中ニ  
 挿入シテ十五分時間放置ス  
 醋酸酒石酸礬土

縮水 各一〇〇、〇  
 右調和用法同上  
 鹽剝 四、〇  
 縮水 二〇〇、〇  
 グリセリン 二〇、〇  
 右調和洗滌用、後グリセリンニ  
 五、〇水七五、〇ノ液ニ浸シタル  
 綿製栓塞ヲ行フコト一時間  
 ソゾヨドール亞鉛 一、〇  
 グリセリン 一、〇  
 縮水 各一〇、〇  
 右塗布料(強度ノ腫脹及分泌)  
 鹽酸コカイン 一、〇  
 縮水 一〇、〇  
 右調和用法同上  
 チモール 〇、二五  
 縮水 一〇〇、〇  
 右調和注入用

クレオソート 一、二、〇  
 グリセリン軟膏 五〇、〇  
 右調和軟膏ニ作ル  
 梅毒性或ハ腺病性ニハ「ヨードカリウ  
 ム」、鐵劑等ヲ内服セシム可シ  
 石炭酸 五、〇  
 再縮酒精 一五、〇  
 苛性アンモニア水 五、〇  
 縮水 一〇、〇  
 右調和二三滴ヲ吸墨紙ニ點シテ  
 之ヲ吸入セシム(共栓或ハ栓蓋  
 瓶中ニ貯フベシ)  
 イヒチオール 一〇、〇

瘰癧

Panaritium.

パナリチニウム

蓖麻子油 二〇、〇  
 酒精 一〇〇、〇  
 右調和吸入用  
 結晶硝酸銀 〇、一乃至〇、五  
 適宜  
 右調和桿錠十個ニ作り鼻「ブー  
 シー」トナス(徹夜鼻内ニ挿置  
 スベシ)  
 硫酸銅 〇、一乃至〇、三  
 適宜  
 右調和製作用法同上  
 アリストール 五、〇  
 右吸入料

(原因)指趾足趾手掌ノ小創ヨリ膿濃球菌ノ侵入ニ因ス  
 (診候)趾趾面或ハ指掌面ノ腫起、緊張、劇痛及ヒ炎症ノ皮下蔓延等ナリ動モスレバ  
 腱鞘炎ヲ起スコトアリ

(豫後) 良

(療法) 可及的初期ニ防腐切開法 (細キ護膜管ヲ以テ指ヲ緊縛シ一% コカイン水一筒ヲ指根部ノ前後左右ノ四ヶ處ニ分チテ注射シ五分間ヲ經テ切開スルヲ可トス又タ價ノ高キヲ厭フコトナクンバ「エチールクロリド」ノ局處麻醉ヲ用ユ) ヲ施シテ組織ノ緊張ヲ減シ且ツ排膿ヲ便ナラシム可シ而シテ安靜副木或ハ擔布ヲ用ユ○腐敗性瘰癧(傳染ニ因ル)ハ之ヲ切開シテ百倍ノ昇汞ヲ用井テ腐蝕シ而シテ繃帶ヲ施ス可シ

### 角膜パンヌス

Pannus. 雲翳

(原因) 過半「結膜トラホーム」ニ續發ス其他腺病性結膜炎、乳嘴充血性加答兒等

(診候) 角膜ノ上縁ニ始リ下方ニ蔓延スル角膜ノ血管新生表層炎ナリ漸次ニ潤濁シテ潰瘍或ハ顆粒滲出ノ地トナル

(豫後) 虹彩炎潰瘍等ヲ發セサレハ良

(療法) 其原因「トラホーム」ニ在ルヤ或ハ腺病性結膜炎ニ在ルヤチ明ニシ甲ニ在テハ硫酸銅ヲ用井乙ニ在テ刺戟ノ過敏ナル者ニハ「アトロピン」ヲ用井是レニ反スル者ニハ「甘汞」ヲ用ユ可シ○陳舊ノ「パンヌス」或ハ粘膜ニ「トラホーム」性ノ贅生物ヲ發セザル者或ハ結膜ノ痙攣性收縮ニハシグレ氏ノ噴霧器ヲ用井テ藥液ヲ撒布スルカ或ハ人工膿漏術ヲ施シ或ハ「セイクリチ」ヲ浸ノ洗滌

ヲ行ヒ或ハ角膜周擁切除術、亂刺術、燒灼法等ヲ施スコトアリ  
サフラン加阿片丁 各一〇、〇

縮水 右調和撒布用 各一〇、〇

炭酸ナトリウム 一、〇

縮水 右調和撒布用 二五、〇

硫酸銅 右調和撒布用 一、〇

縮水 右調和撒布用 二〇、〇

硫酸銅 右調和撒布用 一、〇

グリセリン 右調和用法同上 二〇、〇

硝酸銀 〇、四

鉛醋 八滴

ワセリン 八、〇

右混和一日一回點眼料

黃降汞 〇、一

ワセリン 一〇、〇

右點入ニ兼テ按摩ス

### 全眼球炎

Panophthalmie. パノプタミー

(原因) 外因(損傷、手術、角膜潰瘍等)内因(産褥、敗血症、膿毒症、靜脈炎、心臟内膜炎、肺炎、腦膜炎等)ニヨリテ來ル

(診候) 眼瞼ノ腫起潮紅、眼球ノ突出、堤狀腫起、角膜ノ潤濁前房水ノ潤濁(時トシテ蓄膿)ナ起シ眼球ハ運動欠損シ劇甚ノ疼痛、嘔吐發熱等アリ次テ膿ハ角膜或ハ鞏膜ヲ穿通シテ外方ニ破開シ諸症狀頓ニ緩解シ遂ニ眼球癆ニ陥ル全經過

全眼球炎 麻痺

約六週間トス

(豫後) 不良ナリ

(療法) 豫防法必要ナリ既ニ發シタルモノニハ劇痛ニハ莫比及ヒ水蛭(顳額部)貼用緩下劑ヲ投スベシ或ハ外直筋附着部ト下直筋附着部トノ間ニ於テ鞏膜ヲ切開スルカ眼球内容適出術ヲ施スモ宜シ已チ得ズンハ眼球摘ヲ施スヲアリ

### 麻痺

Paralysis. マラリス

(原因) 腦脊髓系統ノ栓塞、血栓、腫瘍、軟化、頭骨ノ疾病、鉛中毒、脊髓硬結或ハ卒中、脊椎骨瘍、反射的刺戟、及ヒ神經ノ壓迫挫傷、出血、感冒、窒扶斯、梅毒、結核、ヒステリー、急性發疹等ナリ

(診候) 全身、半身若クハ局所ニ現ハル、隨意筋ノ運動廢止該部ノ厥冷、脂肪變性、神經萎縮等

(療法) 普通本病ノ原因トナルベキ事項ニ注意シテ之ヲ除キ而シテ大抵溫浴及ヒ蒸氣浴ヲ用井テ効有リ然レモ冷水灌漑或ハ冷水浴法ノ却テ其効ヲ奏スル場合モ少ナカラズ其他ニハ飲食ノ攝生、電氣療法、適當時期ノ按摩法「モール」越幾斯浴ヲ行フベシ

硝酸ストリキニーチ  
クロイフォルム

〇、一  
三〇、〇

右調和塗擦料  
蕃木蠟越

〇、二

莖蒲根末及同越

各適宜

右調和丸二十粒ニ作り一日三回

每一粒

硝酸ストリキニーチ

〇、〇二

白糖

一、〇

硝酸ストリキニーチ  
縮水

〇、〇五  
三、〇

右皮下注射用一日三回十滴

### 振盪麻痺

Paralysis agitans.

パラリス、アギタンス

(原因) 四十年以上ノ人ニ來ル病ニシテ脊髓硬變、卒中、脊椎骨瘍、感冒、神經感動、神經損傷、火傷、窒扶斯等ナリトス

(診候) 當初ハ右手次テ四肢隨意筋運動ノ漸次(手腕、膊等最多)減損、肢筋ノ振盪運動ヲ起シ筋強硬シテ面貌不變トナリ頭首前ニ傾キ四肢軀幹ノ筋モ亦強硬シテ特色ノ形狀ヲ呈スルニ至ル

(豫後) 不良ニシテ治シ難シ

(療法) 原因療法ヲ專ニシテ而シテ冷水療法電氣療法或ハ按摩法ヲ行フベシ

亞砒酸カリウム液

二、〇  
四、〇

甘草末及同羔

各適宜

右調和毎日半筒皮下注射

ウエラトリン

〇、〇二

右調和丸四十粒ニ作り石松子末  
ヲ衣トナシ朝夕毎二粒

〇、〇二

振盪麻痺 進行性麻痺狂

甘草末及同煮 適宜  
右調和丸二十粒ニ作り石松子末  
ヲ衣トナス一日二回一乃至二粒

硫酸アトロピン 〇.〇〇五  
溜水 一〇.〇  
右毎日一筒皮下注入料

### 進行性麻痺狂

Paralysis progressiva.

パラリシス、プログレッシブ

(原因) 遺傳微毒、精神身體ノ過勞、感冒、過房、飲酒過度高齡ニ發スルヲ常トス  
(診候) 神經衰弱、言語蹉跌、瞳孔強直、膝蓋腱反射消失、誇大妄想、癲癇又ハ卒中様  
發作、闘牙、計算、能力不全、書字振顫、運動失調、膀胱直腸障礙

(豫後) 治癒スルモノ殆ンド稀ナリ

(療法) 前驅期ニ在テハ殊ニ心身ノ勞働ヲ禁ズベキモノナルガ故ニ全ク其職業ヲ廢  
シ精神ヲ安逸ニシ酒色ヲ戒メ而シテ空氣ノ善良ナル地方ニ退キ閑散ナル生  
活法ヲ營マシム可シ○原因療法ヲ眼目トス就中藥石ニハ「ヨード」及ビ臭素  
カリナ與ヘ頭痛ニハ冷電法ヲ行ヒ或ハ「ゴアイン」ヲ投シ不眠ニハ麥酒或ハ  
「パラアルデヒド」其他ノ催眠劑ヲ與ヘ又持長浴或ハ溫包等ヲ試ムベシ與  
奮ノ甚シキ者ニハ「ヒヨスチヤミン」、タンニン酸、カンナビン等ノ内服或ハ  
「ヒヨスチヤミン」ノ皮下注射ヲ行ヒ癲癇様及ビ卒中様發作ニハ冷電法及ビ  
適當ノ方法ヲ撰ビ發作頻數ナルモノニハ抱水「クロラール」ヲ用井既ニシテ

麻痺甚シキ者ニハ皮膚ノ清潔法ヲ嚴ニシ嚙下困難ニハ其飲食ニ注意シテ只  
液狀食物ノミ與ヘ胃腸ノ通利ヲ計リ不眠ヲ調整スルヲ最良トス

### 偏執狂

Paranoia.

パライノイア

#### 妄想狂

Verrücktheit.

フェルリクタイト

(原因) 遺傳及ヒ兩親ノ大酒ヲ主因トス、誘因ハ饑餓、長期間ノ授乳、慢性胃病、結  
核、癩回產毒、失血、房事過度、間歇熱、室扶斯、急性關節癱瘓質斯、肺炎、精神  
過勞、驚愕、苦心等ナリ

(診候) 幻覺、妄想觀念ヲ以テ主徵トナス幻覺ナクシテ錯覺ノ存スルコトアリ或ハ  
幻覺ニ錯覺ヲ伴フコトアリ妄想觀念ハ追跡妄想、誇大妄想ヲ多シトシ時ト  
シテ心氣妄想、罪業妄想アルコトアレトモ蓋シ尠ナシ區別シテ急性幻覺性  
妄想(感覺障害、聯合障害、感動障害、妄想覺念昏迷、然ラザレバ激越ヲ呈ス  
ルモノニシテ初メ不眠、頭痛、眩暈、耳鳴、眼火閃發、過敏或ハ抑鬱或ハ恐怖  
ヲ發スルコト一日乃至二日ニシテ俄然幻覺峰起シ其種類ニ從テ或ハ昏迷ノ  
狀ヲナシ或ハ激越ノ狀ヲナスコト三乃至九ヶ月ニシテ八乃至十時間ノ間ニ  
諸症全ク消散シテ治シ或ハ漸次治ニ赴キ或ハ叡智ノ減少ヲ殘シ或ハ癡狂ニ  
陥リ死去ス)○慢性幻覺性妄想狂諸症(急性ニ同ジキモ其發生極メテ慢性ニ  
シテ特ニ幻聽ヲ發シ聯合及ビ感動障害ハ通常著明ナラズ)○急性單純性妄

想狂(原發性多數ノ妄想觀念ヲ有シ無限ノ誇大妄想及追跡妄想等ヲ發シ妄想固着スルコトナクシテ轉變極リナク多クハ一二週ニシテ全治スルヲ常トス)○慢性單純性妄想狂(前驅期ハ一二ヶ月稀ニハ數年ニシテ初メ不眠症ヲ發シ不安ヲ感シ他人ノ舉動言語ヲ窺ヒ狐疑ヲ發ス次テ追跡妄想期ニアリテハ追跡妄想固着シ次テ誇大妄想期ニ達シ追跡妄想ニ兼ヌルニ誇大妄想ヲ發シテ妄想系統ヲ作り次テ似非麻痺狂ニ至ル)

(療法) 一般ニ不良ナリ  
預レタル四圍ノ境遇ヨリ遠サケ精神ノ轉向療法ヲ眼目トシ適宜ノ作業ニ從ハシムルヲ良トス其他ハ對症療法ニ待ツヘシ就中患者ヲシテ自己ニ疾病アルヲ悟ラシメンカタメ藥劑ハ一日三回必ズ鹽里母乃至キナ丁幾劑ヲ分服セシムルヲ必要トス

### 嵌頓包莖

Paraphimosis. ハナフキモーシス

(原因) 口徑狹隘ナル包皮、龜頭ノ後方ニ退縮シテ再ビ舊位ニ復セザルヨリ起ル  
(診候) 嵌頓部ノ腫起變色疼痛或ハ之ニ加フルニ間々龜頭ノ壞疽等ヲ來タスヲ有リ  
(療法) 嵌頓セル包皮内板ノ腫脹輕度ナル者ハ直チニ之レヲ整復シ若シ其甚シキ者ニ遇ハハ先ツ水平位ニ仰臥セシメテ鉛水、クロール酸カリウム水等ノ冷濕法ヲ行ヒ炎症ノ稍々減退スルヲ待テ之ヲ整復スベシ若シ背面ニ嵌頓シ甚シ

キ者ナルトキハ其部ヲ切開スルヲ宜シトス

鉛水

1100.0

2% 硼酸水

1100.0

右電法料

右電法料

ブロー氏液

200.0

右二法ハ整復シタル後ニモ亦電法水且ツ洗滌劑トシテ用ユ

### 耳下線炎

Parotitis.

パロチチス

(原因) 特發流行性ノ者ハ春寒秋冷ノ候ニ起リ續發性ノ者ハ口腔加答兒、顔面丹毒等炎症ノ波及或ハ望扶斯、急性發疹、膿毒症、痲腫、結核等ヨリ來ル  
(診候) 大抵片側耳下腺部ノ牽引性疼痛、腫起、咀嚼困難、耳下腺ノ化膿等、但シ通例皮膚ヲ侵ササルモ流行性ノ者ニ非ラズシテ熱性病ニ於テ續發性ニ來ル者ハ化膿破潰スルガ故ニ皮膚ヲ侵ス者ナリ

(豫後) 良

(療法) 濕温電法ヲ行ヒ唯炎症及ビ疼痛ノ甚シキモノニ冷電法ヲ行フ其他ニハ酸性飲料及ビ下劑ヲ投シ化膿セル時ニ於テハ切開シテ後石炭酸温電法ヲ行フヲ宜シトス  
ヨードフォルム 1.0  
純ヨード 0.1  
緩和軟膏 110.0  
右調和軟膏ニ作り貼用

嵌頓包莖 耳下腺炎



ラノリン製水銀軟膏

一〇、〇

右調和温メテ石炭酸綿紗ニ浸シ

右塗擦用

一〇、〇

電法ニ用ユ

灰白レゾルビン

一〇、〇

炎後硬結ヲ殘セルノニハ左方

右塗擦用

一〇、〇

ヨードフォルム

石鹼硬膏

一〇、〇

ワセリン

右布片ニ攤シ貼用

五、〇

薄荷油

石炭酸

二〇〇、〇

右調和塗擦用

縮水

〇、五

其他發熱アルトキハ解熱劑ヲ投ズ

### 夜驚症

*Pavor nocturnus.*

バウオ、ノグツルヌス

(原因)腸胃病、扁桃腺肥大、癲癇、精神激動等三年乃至六年ノ小兒ニ多シ

(診候)睡眠後一二時間ヲ經テ突然醒覺シ、心悸亢進、恐怖ヲ發ス而シテ暫時ノ後

(十五乃至二十分)發作止ミ安眠ス患者之ヲ記憶スルコトナシ

(豫後)良

(療法)其原因ヲ求メ之ヲ除クコトヲ務メ左方ヲ處ス

ブロームカリウム

〇、五

右臨臥頓服

白糖

〇、三

其他抱水「クロラールキニー子」ヲ投ヅ

テ効アリ

### 頭虱

*Pediculi capitis.*

ベチグリ、カビチス

(療法)灰白軟膏或ハ白降汞軟膏ニ同量ノ「ワセリン」ヲ混シ全頭髪部ニ塗擦シ綿帽

ヲ以テ之ヲ被ヒ一日ノ後石鹼ヲ以テ洗去スベシ、又左方

五%ナフトール軟膏

一〇、〇

メルパルサム

各一〇、〇

右外用

右調和塗擦後布片ヲ以テ一日間

石鹼油

二〇、〇

頭ヲ包ミ次テ「カリ」石鹼精ヲ用

オレーフ油

井テ之ヲ洗滌スベシ

### 眼虱

*Pediculi vestimentorum.*

ベチグリ、  
ウエスチメントールム

衣虱

(療法)被服ヲ煮沸シテ後洗滌シ之ヲ清ムベシ是レガ爲ニ皮膚ニ發生シタル濕疹ハ

石鹼ヲ以テ洗滌シ後油劑ヲ塗擦スレバ消散スルモノナリ

### 天疱瘡

*Pemphigus.*

ペンフ、グス

(原因)未詳、小兒ニ多シ

夜驚症 頭虱 服虱 天疱瘡

(診候)大水疱ノ發生ニシテ其内容始メハ透明漿液狀、後チ膿樣トナリ自潰シテ濕潤面ヲ呈シ終ニ新生ノ表皮ヲ被ムル、急性、慢性及葉狀天疱瘡等ノ別アリ

(豫後)概子不頁

(療法)散在性ノ者ニハ散布藥ヲ用井、密發性ノ者ハ之レヲ切破シ、痂皮ヲ生シテ表皮ノ缺損シタル者ニハ緩和軟膏ヲ貼用シ、皮膚ノ發炎セル者ニハ冷褻法ヲ行フベシ、普通性天疱瘡ニハ溫浴ヲ擇ビ又葉狀天疱瘡ニハ持久浴、痒疹性天疱瘡ニハ持久タールレヲ行フベシ

槲皮

五〇、〇

溜水

二〇〇、〇

右水ヲ以テ煎出シ浴湯ニ加フ

右調和浴湯ニ加フ

昇汞

五、〇

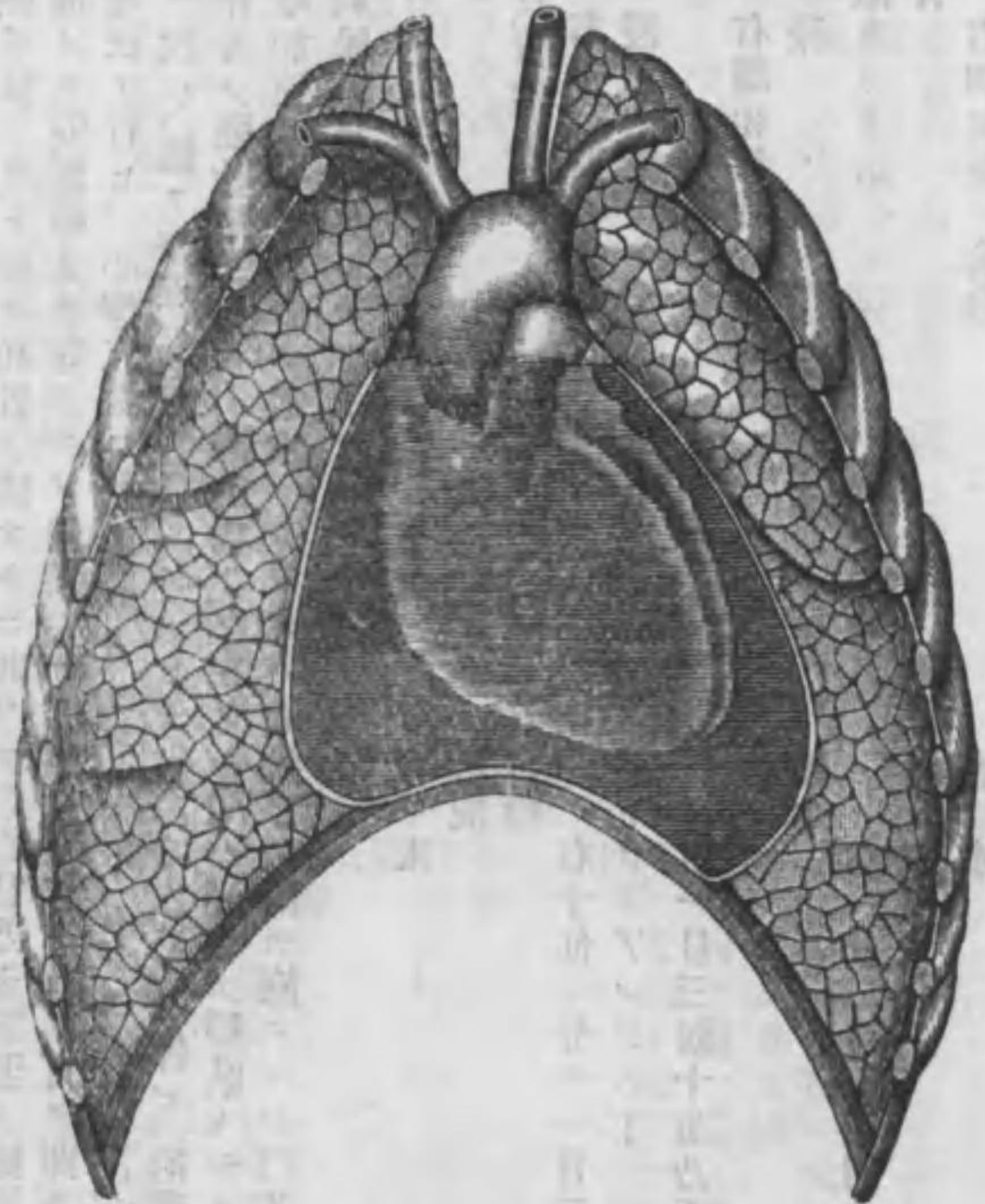
### 心囊炎

Pericarditis.

ペリカルヂチス

(原因)特發ハ稀有ニシテ多クハ急性關節痲痺質斯、肺炎、肋膜炎、癌腫、結核、比隣臟器炎症ノ波及、窒扶斯、丹毒、痘瘡、猩紅熱、膿毒症、武雷篤氏病、壞血症、敗血病等ニ繼發ス二十以上四十年ノ人ニ多シ  
(診候)心臟底部ノ摩擦音濁音部ノ擴張シテ三角形尖端上方ニ向フ其他惡寒、心悸亢進、體溫昇騰、脈搏增加心部ノ隱痛及ヒ尿中ノ蛋白發見等ナリ

第 四 十 一 圖



心囊滲出物ノ圖  
(胸廓斷面)

(豫後) 概子良ナリト雖モ頓死ノ虞ナキニ非ラズ〇二日乃至三週ノ經過ヲナス  
 (療法) 極メテ安息靜止ヲ守ラシメ熱候ニハ其對症療法ヲ行フ可ク即チ心臟部ニ冷  
 電法ヲ行ヒ、心悸亢進ニハ「ヂギタリス」ストロファンツス、カフエイン  
 ナ投シ、便ヲ整理シ劇痛ニハ「モルヒ子」ノ皮下注射ヲ擇ビ、滋養物ヲ與ヘ鐵  
 劑等ノ強壯劑ヲ用井、滲出物ノ存在スル間ハ必ラズ靜臥セシメ又滲出物ノ  
 増加速ニシテ生命ノ危險ナルトキハ心囊穿刺術ヲ施スベシ〇其他解熱劑及  
 利尿劑ヲ投ズルコトアリ

- 撒曹 五、〇
- 留水 一八〇、〇
- 單舍(覆盆子舍) 二〇、〇
- 右每二時一食匙
- ヂギ浸 (二、〇)一八〇、〇
- 單舍 二〇、〇
- 右調和每時一食匙
- ヂギ浸 (二、〇)一五〇、〇
- 醋酸カリウム 二、〇
- 單舍 一五、〇
- 右調和每一食匙
- ヂギ末 一、〇
- 硫規 〇、八
- 白糖 二、〇
- 右十包ニ分チ一日三回每一包
- ストロファンツス丁 二〇、〇
- 右一日三回十五乃至二十滴
- カフエイン 二、〇
- 留水 一〇、〇
- 右一日二乃至四回半筒乃至一筒
- 宛 五、〇
- 杏仁水 五、〇

子宮外膜炎

Perimetritis.

ハリメタリナス

- ヂギ丁 一、〇
- 右調和一日二回每十滴(心悸亢  
進ノ劇基ナル時)
- 心臟衰弱ニハ左方チ處シテ効アリ
- 樟腦 一、〇
- オレーフ油 九、〇
- 右一日數回一乃至二筒宛
- 樟腦 一、〇
- エーテル 二、〇
- オレーフ油 八、〇
- 右一日數回一乃至二筒宛
- 滲出物殘留スル者ニハ左方チ處ス
- 杜松實浸 (二、〇)二〇〇、〇
- 醋酸カリウム水 各二〇、〇
- 海葱醋蜜 各二〇、〇
- 右調和每二時二食匙
- 木賊煎 (二、〇)一〇〇、〇
- 醋酸カリウム水 各一五、〇
- 海葱醋蜜 各一五、〇
- 右調和每二時一食匙
- 醋酸アムモニウム液 五、〇
- 右每回十滴一椀ノ茶ニ混シ用ユ
- 小兒ニハ左方チ處スヘシ
- ヂギ丁 五滴
- 留水 五〇、〇
- 覆盆子舍 一〇、〇
- 右調和每二時一茶匙
- ヂギ浸 (〇、三)一〇〇、〇
- 覆盆子舍 一〇、〇
- 右調和每時一小兒匙
- ストロファンツス丁 一〇、〇
- 右一日三回每二乃至五滴

(原因)子宮實質炎ノ波及或ハ麻毒菌膿膿菌ノ傳染等

(診候)腐敗性子宮外膜炎ハ惡寒、高熱、嘔吐、下腹劇痛ヲ發シ滲出物吸收セラレハ諸症減退シ滲出物化痰スルトキハ體溫更ニ上昇シ自潰シテ膿ヲ漏シ或ハ然ラスシテ死ス、吸收ノ遅除ナルモノハ、便秘排尿困難ヲ來タス○麻毒性子宮外膜炎ハ慢性ニシテ便通、交接、月經時ニ増進スルトコロノ下腹疼痛ナリ

(療後)概子不良

(療法)其急性期ニハ消炎法ヲ嚴重ニシテ褥中ニ安臥セシメ而シテ或ハ鼠蹊部ニ水蛭ヲ放チ或ハ下腹ニ氷嚢ヲ置キテ一日數回阿片丁幾チ與ヘ熱候消散後ニハ緩下劑ヲ用井或ハ灌腸ヲ行フ○慢性ノ者ニハブリスニツツ氏罷法、坐浴、按摩等ヲ行フヘシ

沃割

苦丁

縮水

右一日六回二日分服

ヨードフォルム

ハルーパーサム

グリセリン軟膏

二、〇

三、〇

二〇〇、〇

三、〇

六、〇

二四、〇

右調和外用(每週二回栓塞ニ飽充シテ挿入)

イヒチオール

グリセリン

右外用(此液ヲ以テ濕シタル綿花、タンボンレヲ毎日腔内ニ挿入ス可シ而シテ其際患部ノ方向ニ

二〇、〇

二〇〇、〇

從フベシ

イヒチオール

可溶性銀

グリセリン

右同上

イヒチオール

ワセリン

右爲軟膏下腹部塗擦

一〇、〇

五、〇

一〇〇、〇

一〇、〇

一〇〇、〇

ヨードフォルム

カ、オ脂

右調和腔球一個ニ作り五個ヲ製シ前方ヲ用井ザル日ニ外用

イヒチオール

カ、オ脂

右調和腔球一個量用法同上

〇、二五

適宜

〇、三

三、〇

### 骨膜炎

Periostitis.

ホリチスチ、ス

(原因)膿膿菌ノ傳染、外傷、膿病或ハ梅毒等ナリ

(診候)急性ニハ劇熱、患部ノ劇痛、腫起、潮紅或ハ化膿○破潰慢性ニハ骨膜頰敗或ハ却テ増生子來タスト雖トモ疼痛少ナシ患部ハ表在骨ニ多ク主トシテ腫起ヲ認ルノミ

(療後)概不良

(療法)先ヅ「ヨード」丁幾或ハ「イヒチオール」軟膏ヲ塗リ濕性防腐繃帶ヲ施スベシ○膿膿セル者ハ之ヲ切開シテ防腐繃帶ヲ施シ患肢ニ適當ノ位置ヲ取ラシメ且ツ固定スル等一般ノ治則ナリトス○慢性ノ者ニハ按摩法ヲ施シテ効アリ

子宮外膜炎 骨膜炎

右一日三回塗布料

沃丁  
五倍子丁

各一〇、〇

### 腹膜炎

Peritonitis.

ペリトニチス

(原因)子宮炎ノ波及或ハ産褥熱毒ノ傳染、感冒、流行性感胃、外傷、比隣臟器炎症ノ波及、傳染諸病、腐敗性病、腎臟病、壞血病、腸箱頓、ヘルニア、便秘、結核等ヨリ來ル

(診候)惡寒、發熱、煩渴、嘔吐、腹劇痛、膨滿緊脹、鼓脹、腹部濁音、慢性症ハ疼痛全ク

(豫後)不良

(療法)仰臥安息ヲ嚴施シ小腹部ニ氷褌法ヲ行ヒ阿片ヲ投ジテ腸ノ蠕動機ヲ制シ後ニ至レバ溫褌法ヲ行フ可シ○炎症ノ廣ク蔓延セルモノニハ時宜ニ由リ下腹部ニ水蛭ヲ放チ攝生法ヲ嚴ニス可シ○熱症ニハ「キニーネ」或ハ撒曹ヲ投シ而シテ「ペプトン」或ハ肉桂ノ滋養灌腸ヲ行フ○慢性腹膜炎ニハ牛乳鷄卵等有力ノ滋養物ヲ與ヘ且ツ灰白水銀軟膏ノ塗擦等ヲ行ヒ衰弱セルモノニハ強壯劑ヲ用ユ可シ穿孔性腹膜炎ニハ直チニ開腹術ヲ行フベシ結核性慢性腹膜炎ニモ開腹術ノ有効ナルコトアリ

阿片越

〇、三

白糖

二、〇

右十包二分ヲ毎二時一包  
レゾルチン 二、〇  
縮水 一八〇、〇  
阿片丁 十五滴  
單舎 二〇、〇  
右黑色瓶ニ蓄ヘ毎二時一食匙  
鹽酸ココイン 〇、三  
白糖 三、〇  
右爲十包毎二時或ハ毎三時一包  
嬰粟乳劑 二〇〇、〇  
杏仁水 一五、〇  
鹽莫 一、〇  
右調和毎時一食匙  
嘔吐ニハ氷片、曹達水或ハ左方ヲ處ス  
杏仁水 一五、〇  
鹽莫 〇、一  
右調和滴劑  
鹽酸コテイソ 〇、〇五

腹膜炎

乳糖 一、〇  
右分三包一日三回二分  
セルテル水 三〇〇、〇  
鹽酸コテイソ 〇、〇六  
右一日六回二分  
右調和滴劑  
吃逆ノ頑固ナル者ニハ「モルヒチン」ノ内服或ハ皮下注射ヲ用井頑固ナルモノニハ輕ク「クロ、フォルム」ノ麻醉法ヲ利用シ高度ノ鼓脹ニハ腹部ニ「エーテル」ヲ點シ假性「マグリ子シウム」或ハ石灰水ヲ内服セシメ直腸内ニ導泄管ヲ送入シ置クベシ炎症諸症消散後ノ便秘ニハ灌腸ヲ行井鹽類ノ緩下劑ヲ投シ虚脱ニハ興奮劑、葡萄酒、コンニヤック、酒等ヲ用井或ハ「エーテル」ノ皮下注射ヲ行フテ効有リ、滲出物ノ残留スル者ニハ左方ヲ處スベシ

ヨードカリウム 二、〇  
 縮水 一八〇、〇  
 橙皮舎 二〇、〇  
 右調和毎二時一食匙  
 ヨード丁 一〇、〇  
 五倍子丁 五、〇  
 右調和腹部塗布  
 肝油 二〇、〇  
 右腹部塗布料 一〇、〇  
 水銀軟膏 一〇、〇  
 右豆大ノ量ヲ腹部ニ塗擦  
 カリ石鹼 各二五、〇  
 黄色ワセリン 五、〇  
 ヨードフォルム 右外用

ヨードカリウム 二、〇  
 ヨード 〇、五  
 グリセリン 五〇、〇  
 右調和塗擦同上  
 婦人ノ骨盤腹膜炎ニハ左方ヲ處ス可シ  
 鹽莫 〇、一  
 水銀軟膏 一、〇  
 カ、オ脂 一五、〇  
 右坐藥六箇ニ作り毎日三個  
 鹽莫 〇、一  
 藥用石鹼 一、〇  
 白膠 適宜  
 右調和腔球十個ニ作り毎日一乃  
 至二個一時間挿入

**凍瘡**

Parionnes.

バルニチニス

(原因) 緩慢經久ナル寒冷ノ刺戟ナリトス

(診候) 四肢ノ末端、耳殼、鼻頭等ニ癢痒、腫起、疼痛、潮紅ヲ以テ始マリ其部ニ水泡  
 ナ發生スルニ至ル終ニ潰瘍或ハ壞疽ニ陥ルコト有リ  
 (療法) 患部小ニシテ且輕症ナル者ニハ適當ナル足袋等ヲ用井可及的患部ヲ保護シ  
 運動ヲ制限ス可シ患部ノ大ニシテ而シテ疼痛ノ甚シキ者ニハ一二日間安息  
 セシメ罷法ヲ行フ可シ一般ニ左ノ外用藥ヲ賞用ス

苛性カリ 〇、五  
 アルコホル 各四〇、〇  
 グリセリン 六〇、〇  
 縮水 右外用入浴後塗布スベシ(ベル  
 ツ氏)  
 白降汞 五、〇  
 緩和軟膏 五〇、〇  
 右調和軟膏ニ作り刀背ノ厚サニ  
 布片ニ攤シ貼用  
 結晶硝酸銀 〇、二  
 ワセリン 一〇、〇  
 右調和軟膏ニ作ル

酸化亞鉛 五、〇  
 緩和軟膏 三〇、〇  
 右調和軟膏ニ作ル  
 石炭酸 一、〇  
 鉛軟膏 各二〇、〇  
 ラノリン 一〇、〇  
 扁桃油 三十滴  
 ラヘンデル油 二八、〇  
 右調和軟膏ニ作ル  
 骨髓 二一、〇  
 濃厚鹽酸 八四、〇  
 アルタア軟膏 一、八  
 水製阿片越

凍瘡

樟腦	七、〇	右調和洗滌用	樟腦油	二〇、〇
テレピンテ油	一、四		ラノリン	二〇、〇
右調和軟膏ニ作ル (即チ魯國凍瘡軟膏)			右調和軟膏	
メチールクロリド	七、五		コロザウム	二〇、〇
鹽酸コカイン	〇、五		ヨード	〇、二
樟腦擦劑	一、〇	右調和塗布用	コロザウム	五〇、〇
石鹼擦劑	一八、七五		蓖麻子油	二、〇
右調和塗布用			テレピンテ油	七、五
樟腦精			右調和塗布用	
阿片丁	各七、五		ヨードフォルム	二、〇
石炭酸	〇、六		エーテル	一五、〇
酒精			コロザウム	五、〇
溜水	各一五、〇	右調和塗布用		
右調和用法同上				
明礬				
硃砂	各五、〇			
安息香丁	二〇、〇			

凍瘡ノ破開セル者ニハ防腐綿帶ヲ施シ終ニハ硝酸銀ヲ以テ腐蝕スルヲ宜シトス

ヨードフォルム	一、〇	純ヨード	各二、〇
緩和軟膏	二〇、〇	タンニン酸	三〇、〇
右調和軟膏ニ作ル		蠟軟膏	
石炭酸	一、〇	右調和軟膏ニ作ル	

### ペスト Pest.

(原因) 明治二十七年北里博士及ビイエルサム氏一種ノ桿菌ヲ發見シ「ペスト」ノ原因トナス是レ「ペスト」菌ナリ

(診候) 潜伏期ハ三日乃至七日ヲ算スルガ如シ○前驅期(之レナキコトアリ)ニ在テハ頭痛、眩暈、食慾不振、全身違和、倦怠、惡心、嘔吐等ヲ發ス○發病期ニ在テハ惡寒戰慄、體溫暴騰(三十九度乃至四十四度以上)ニ達シ或ハ稽留シ或ハ不正ニ弛張シ或ハ漸次下降(淋巴腺腫脹(發熱前乃至發熱後一二日ノ間概子一ヶ處往々同側ニヶ處例ハ左股腺ト左腋窩腺ニ發シ化膿或ハ消散ス)頭痛、(一二日ノ後輕減或ハ消失ス)眩暈、煩渴、身體違和、倦怠、時トシテ惡心、嘔吐、腰痛、稀ニハ胃部疼痛或ハ苦悶、重症ニハ胸内苦悶ヲ發シ顔面潮紅、眼球光澤ヲ帶ビ眼球結膜充血、舌乾燥及ヒ舌苔(始メハ白黃色後ニ茶褐色)、咽頭充血、(往々扁桃腺腫脹)、皮膚枯燥、灼熱、呼吸增加、脈搏百乃至百二十、大ニシテ概子重複、腦症候ハ一定セザルモ嗜眠狀ヲ呈シ夜間譫語スルヲ常トス、

初期ニ二三回ノ下痢ヲ發ス尿ハ蛋白ヲ含ムモノ多ク常ニ著シキ「インザカ  
ン」反應ヲ呈ス發病後一二日ニシテ脾臟及肝臟ノ肥大ヲ認ム輕症ハ三四日  
ニシテ體溫下降シテ治シ重症ハ一二週ノ後體溫下降シテ治スルコトアルモ  
大約發病後二乃至八日目心臓麻痺ニ因テ死ス○諸症具備セルトキハ診斷難  
カラズト雖ドモ然ラザルトキハ「ペスト」菌ノ檢査ヲ要ス（青山博士ノ記載  
ニ據ル）○「ペスト」ヲ腺腫性、敗血性、肺「ペスト」ノ三種トナシ或ハ左ノ種  
別トス

(一)腺腫「ペスト」ハ本病中最モ屢々見ル所ノ症ニシテ一個或ハ多數ノ淋巴腺及其  
周圍組織内ニ炎症ヲ發ス其好占部ハ鼠蹊淋巴腺及大腿上三角部ノ淋巴腺ナリ腋  
窩腺及頭部ノ腺(殊ニ小兒)之レニ亞グ時トシテ後頭腺、肘腺、前後耳腺舌骨腺、  
膝關節等ヲ侵スコトアリ○淺在淋巴腺ノ症僅微ニシテ却テ深在腺ニ著シキコト  
アリ例令ハ腸骨部ニ腫脹ヲ來タシ盲腸周圍炎ノ如キ腫脹ヲ觸ル、コトアリ  
或ハ鎖骨部ニ發シテ頸ノ臟器ヲ壓迫スルコトアリ腫脹セル腺ヲ壓スレバ疼痛甚  
ダシキモ安靜ノ状態ニ在リテハ疼痛少ナシ

(二)「ペスト」膿疱 小豆大ノ斑ヲ生シ疼痛ヲ發ス該斑ハ速カニ變ジテ膿疱トナル  
而シテ膿疱ニ止マルモノアリ或ハ進ミテ癰ヲ形成シ壞疽性潰瘍ヲ生ズルモノア  
リ又ハ淋巴管炎ヲ惹起シ次ニ淋巴腺炎ヲ發セシムルモノアリ

(三)肺「ペスト」 其症候劇甚ナル 加答兒性或ハ格魯布性肺炎ニ同ジ其咯痰内ニ

「ペスト」菌アリ本病中最モ惡性ノモノニシテ速カニ死ス肺「ペスト」患者ノ治シ  
タルモノ甚ダ稀ナリ

流行時ニアリテ諸症具備スルトキハ診斷難カラズト雖ドモ然シ新ラシキ淋巴腺  
炎ノ液及組織膿疱及癰疽ノ液咯痰ヲ檢シテ「ペスト」菌ノ有無ヲ明カニシ其診斷  
ヲ確定スベシ

(豫後) 概子不其ニシテ死亡數六十乃至九十%ナリ三四日ニシテ體溫下降無熱トナ  
ルモノハ概子良ナリ本病治癒後ノ免疫性有無ハ未詳

(療法) 未ダ特效ノ方劑ナキヲ以テ對症療法ヲ勉ムベシ即チ始ヨリ注意シテ「ガキ  
タリス」ヲ與ヘテ頭部及心臓部ニ氷置法ヲ施シ又多量ノ酒精飲料ヲ與フ  
ベシ其他煩渴ニハ茶及「リモナー」ヲ與フ○豫防ニハ飲食物ノ注意特ニ創  
傷アル手足ヲ以テ病毒ニ接セザルコト肝要ナリ患者ノ血液、吐瀉物、咯痰、  
唾液ハ石炭酸水石灰乳等ヲ以テ、衣服、寢具、食器等患者ノ使用品ハ蒸氣或  
ハ藥品ヲ以テ消毒スベシ○近年ハフキン氏液、「イェルサン」血清ヲ試用ス  
ルモノアリ○鼠族ハ本病ヲ媒介ス故ニ之レヲ驅除スベシ

**包莖** Phimosis. フイモース

(療法) 輕度ナルモノニハ龜頭溝ノ周圍マテ水或ハ藥汁ヲ以テ洗滌シ炎症ノ強度ナ  
ルモノニハ亦冷罷法ヲ行ヒ且少許靜臥安息セシムベシ○壞疽ノ危險アルモノ



或ハ現症狀ノ荏苒久シキニ瀾ルモノ或ハ先天性白莖ノ強度ナルモノニハ包皮ノ單縱切開或ハ輪狀切法ヲ施シ或ハローセル氏三角瓣ヲ作ルノ法ヲ用ユ

硼酸

縮水

三〇〇、〇

六、〇

縮水

縮水

右調和外用(用法同上)

鉛酷

縮水

五、〇

二〇〇、〇

右調和外用(用法同上又陰莖瘻法ニ用ユ)

過マンガン酸カリウム

一、〇

### 靜脈炎

Phlebitis.

フレンジキス

(原因)膿膿菌ノ直接靜脈内ニ侵入シ若クハ靜脈周圍化膿性炎ノ波及ニ由ル

(診候)靜脈索狀ヲ呈シテ隆起シ屢々炎症性浮腫ヲ來スコトアリ

(療法)急性症ニハ患部ノ安靜高擧法ヲ施シ氷嚢ヲ貼シ醋酸礬土液ノ電法ヲ行ヒ疼痛消散後ニハ「フランチル」綿帶ノ纏絡ヲ用ユ下肢慢性症ニハ弾力性綿帶及彈力性足袋ヲ用ユ、膿瘍ヲ生ズレバ切開ヲ施スベシ

### 蜂窩織炎

Phlegmone.

フレンジキス

第 四 十 二 圖



ミクロスポーロ  
ン、フルフル(癰風  
ノ原因)

(原因) 概子損傷部ヨリ膿膿連鎖狀細菌ノ侵入ニ由ル

(診候) 寒戦ヲ以テ始マリ體溫著シク上昇シ諸般ノ熱症候ヲ呈シ患部ノ皮膚赤色腫起硬ニシテ疼痛甚シ

(豫後) 其部位及ビ深淺ニヨリテ或ハ不良或ハ良

(療法) 初期ニアリテハ安靜冷電法患肢ノ高擧法ヲ行ヒ灰白軟膏ヲ塗擦シ其上ニ電法(醋酸礬土水、ブロー氏液、硼酸水、クレタリン水)ヲ施ス既ニシテ波動ヲ認メ或ハ否ラザルモ全身症狀、熱、疼痛ヲ發スレバ速ニ切開ヲ施シ膿汁ヲ泄シ制腐法ヲ施スベシ

明礬 五、〇 留水 五〇〇、〇  
鉛糖 二五、〇 右外用

癩風 Pityriasis versicolor. ビチリアチス、  
シエルトコロル

(原因) 「ミグロス、ホーロン、フルフル」ト名クル植物性寄生生物ニ因ル

(診候) 殊ニ胸部ニ發生スル扁平圓形黃色ノ斑ナリ及淡褐色ヨリ暗褐色ニ變ズ痒痒ノ感有リ剝屑トナル

(療法) カリ石鹼ヲ以テ患部ヲ洗ヒ後二十倍「サリチール」鹼精ヲ塗布ス或ハ左ノ石鹼劑ヲ朝夕患部ニ塗擦ス  
サリチール鹼 一、五乃至五、〇 アルコホル 五〇、〇

右塗布料 各五〇、〇  
安息香丁 一〇、〇  
酒精 一〇、〇  
サリチール鹼 三、〇  
カリ石鹼 一〇〇、〇  
右朝夕患部ニ塗擦スベシ  
ベタナフトール 五、〇  
酒精 適宜  
綠石鹼 一〇〇、〇  
右塗擦料

肋膜炎 Pleuritis. フロイリチス

(原因) 感冒、外傷、肺炎、武雷篤氏病、肺結核、心臟病、比隣臟器炎症或ハ腫瘍ノ波及、腹膜炎等

(診候) 乾性肋膜炎、呼吸時ノ胸部刺痛及呼吸時ノ摩擦音ヲ呈ス○滲出性肋膜炎ハ惡寒ヲ以テ始マル中等度ノ弛張熱ヲ呈ス呼吸困難甚ノ胸部刺痛乾咳脈搏頻數食慾缺損シ患側ノ胸ハ擴張シ肋間平坦トナリ呼吸運動、呼吸音、聲音震盪共ニ減少或ハ消失シ濁音ヲ呈ス且滲出液ノ爲メニ心臟或ハ肝臟ノ轉位ヲ認ム○化膿性肋膜炎ハ屢々寒戦ヲ以テ始マリ熱甚ダ高ク凡テ諸症劇甚ナリ(豫後) 漿液性及乾性肋膜炎ハ概子良、化膿性ハ速カニ適當ナル手術ヲ施セバ良、然ラザレバ不良結核ニ因スルモノハ不良

(療法) 熱候ニハ消炎療法トシテ酸性飲料等ヲ與ヘ病側ニハ氷電法ヲ行ヒ劇痛ニハ

「クロ、フオルム」ノ塗擦或ハ「モルヒネ」ノ皮下注射或ハ放蛭（十乃至十二條）發泡膏ノ貼用、沃丁ノ塗布等ヲ行フテ効アリ  
末期ニ至レバ吸收催進劑、有力ノ滋養物及ヒ鐵劑等ヲ與ヘ又高度ノ呼吸困難及滲出物ノ久時滞留或ハ滲出物ノ全肋膜腔ヲ充填スル者或ハ膿胸ニハ手術ヲ施シテ其滲出物ヲ排除セザル可カラズ

- アシピリン 四、〇
- 乳糖 二、〇
- 散曹 右六包二分チ一日三回二分服 六、〇
- 苦丁 二、〇
- 縮水 二〇〇、〇
- 右一日三回二分服
- 鹽酸キニー子 一、〇
- 白糖 五、〇
- 右研和散五包二分チ一日二分服
- 鹽酸キニー子 各二、〇乃至四、〇
- 右研和散四包二分チ一日二分服
- アシ葉浸 (一、〇)一八〇、〇
- 醋剝 八〇、〇
- 苦丁 三、〇
- 單舎 二〇、〇
- 右一日三回二分服
- サギ浸 (一、五)一二〇、〇
- 醋酸カリウム 各三〇、〇
- 海葱醋蜜 右調和每二時一食匙 五、〇
- ザウレチン
- 薄荷水 各七五、〇
- 縮水 二〇、〇
- 橙皮舎

- 甘汞 〇、二
- 乳糖 〇、五
- 右爲一包與六包一日三回二分服
- 薄荷腦 〇、五
- 鹽酸コカイン
- 鹽酸モルヒネ 各〇、一
- 單軟膏 五〇、〇
- 右疼痛部塗擦料
- ヒヨスシヤムス油 各二〇、〇
- クロ、フオルム 各二〇、〇
- 右調和塗擦料(疼痛アル部ニ)
- 滲出物ノ吸收ヲ促スニハ左方(急性炎症ノ消退後)
- ヨードカリウム 二、〇
- 純ヨード 〇、五
- グリセリン 二〇、〇

- 右調和塗擦劑
- ヨードカリウム 二、〇
- 純ヨード 〇、五
- サギ軟膏 二〇、〇
- 右軟膏ニ作り患側ニ塗擦シ「ゲツタルカ」紙ヲ以テ其上ヲ被フ
- ヨードカリウム 二、〇
- 縮水 一〇〇、〇
- 單舎 一〇、〇
- 右調和每二時一食匙
- 沃剝 二、〇
- 苦丁 三、〇
- 縮水 二〇〇、〇
- 疼痛ニハ左方 右一日三回二分服
- アシピリン 六、〇
- 右分六包一日三回一包宛

アンチピリン 〇、七  
乳糖 〇、三

右頓川 小兒急性肋膜炎ニハ左方ヲ用ユ

稀鹽酸 〇、五

橙皮舍利別 一〇〇、〇

右每二時一小兒匙宛 二〇、〇

アンチピリン 〇、五乃至二、〇

單舍 一〇〇、〇

右每三時一小兒匙宛 二〇、〇

散曹 一、〇乃至二、〇  
橙皮舍利 一〇〇、〇  
單舍 二〇、〇

右每三時一小兒匙宛

海葱丁 各十滴

ザギ丁 二〇、〇

海葱醋蜜 一〇〇、〇

菩提樹水 一〇〇、〇

右調和每時一茶匙

後治法ニハ有力ノ滋養物ヲ與ヘ田舎山地、海濱等ニ轉地療法ヲ行ハシムベシ

### 加答兒性肺炎

Pneumonia catarrhalis.

ブノイモニア、カタラーリス

(原因) 麻疹、百日咳、流行性感冒、室扶斯、實扶的里、感冒性氣管支加答兒ニ併發ス又嘔吐物、食物片ノ吸入ニヨリテ本病ヲ惹起ス(所謂嚥下肺炎)小兒及老人ニ多シ

(診候) 體溫上昇、呼吸増加及困難、脈搏増加、不穩、食思缺乏ヲ呈シ肺ノ後下部ニ打診上濁音ヲ徵シ笛聲囉音、中水泡音及小水泡音ヲ聽取ス

(豫後) 不定ナリ即チ數日數週ヲ經過シ、強度ノ呼吸困難、チアノーゼヲ呈シ死亡シ又肺結核ヲ誘起スルコトアリ

(療法) 室内衣服共ニ平等ノ溫度ニ保持スベシ○飲料ニハ清涼劑ヲ與ヘ左方ヲ處ス又胸部濕溫療法、(毎二時或ハ三時ニ交換)一日三回宛ノ溫浴(四十度乃至四十一度)中ニ於ケル冷水濕法ヲ施シ又患部ハ水蛭或ハ發泡膏ノ貼用ヲ行

ヒ胸部ノ疼痛ニ對シテハ麻酔劑ヲ投シ呼吸困難著シキモノニハ芥子泥ヲ貼シ虛脫ノ恐レアルモノニハ芥子泥、樟腦、葡萄酒等ヲ與フ○特ニ滋養ヲ勉ムベシ

小兒ニハ左方ヲ處ス

吐根浸

單舍 (〇、一五乃至〇、三)一〇〇、〇

右調和每二時一小兒匙 二〇、〇

吐根浸

アンモニア茴香精 (〇、一五乃至〇、三)一〇〇、〇

單舍 一、〇

單舍

右調和每二時一小兒匙宛 二〇、〇

セ子ガ浸

單舍 (一、五乃至五、〇)一〇〇、〇

右調和每二時一小兒匙 二〇、〇

セ子ガ浸 (二、〇)一〇〇、〇

杏仁水 一、〇乃至二、〇

吐根舎 一〇、〇  
 右調和每三時一茶匙宛  
 礮砂 一、〇乃至三、〇  
 單舎 一〇〇、〇  
 右調和每二時一小兒匙  
 炭酸アンモニウム 〇、五  
 單舎 八〇、〇  
 右每二時一小兒匙宛  
 高度ノ發熱アルモノニハ  
 アンチピリン 〇、五乃至二、〇  
 單舎 一〇〇、〇  
 右調和每三時一小兒匙宛  
 アンチヘブリン 〇、〇五乃至〇、一  
 白糖 〇、三  
 右調和一包トナシ每三時一包宛

キニ一子 〇、五乃至一、〇  
 單舎 一〇〇、〇  
 右每三時一小兒匙宛  
 便秘ヲ兼ネタルモノハ  
 甘汞 〇、〇二  
 金硫黃 〇、〇一  
 白糖 〇、三  
 右一包トシテ三包ヲ與フ毎二時  
 一包(便通アレバ後服ヲ止ム)  
 諸症劇甚ナルモノニハ吐劑ヲ用ユ  
 吐根浸 〇、〇一  
 單舎 二〇、〇  
 右每十分一茶匙宛(嘔吐ヲ發ス  
 レバ後服ヲ止ム)  
 鹽酸アボモルヒ子 〇、〇一  
 單舎 五、〇  
 右半筒乃至一筒皮下注射料

虚脱ニ陥ラントスルモノニハ左方ヲ處  
 ス可シ  
 樟腦  
 安息香酸 各〇、〇一乃至〇、〇五  
 白糖 〇、三  
 右一包トナシ毎二時一包宛  
 アンモニア茴香精 各六、〇  
 エーテル 各六、〇  
 右調和毎一時六滴ヲ糖水ニ混和  
 内服セシム  
 大人 ニハ葡萄酒、酒、武蘭埵、祛痰劑

**急性前脊髄灰白質炎**  
 Poliomyelitis anterior  
 acuta.  
 (小兒脊髄麻痺 Spinalis Kinderlähmung)  
 (原因)六ヶ月乃至三年ノ小兒ニ發スルモノナリ原因不明  
 (診候)夜中俄然發熱興奮シ翌期兩下肢ノ全然麻痺セルヲ見ル知覺ハ健存ス(上肢  
 モ亦麻痺スルコトアリ)數日ノ後ニ至リ一肢(一脚一腕)ハ麻痺症狀消退ス

チ與ヘ心臓脱力ヲ防ガン爲メニハ、ゲ  
 ギタリス「ストロファンツス」チ與フ  
 可シ(氣管支加答兒ノ部ヲ参照スベシ)  
 ゲギタリス葉浸 (一、〇)一八〇、〇  
 單舎 二〇、〇  
 右每二時一食匙  
 ストロファンツス丁一、〇乃至二、〇  
 橙皮舎 二〇、〇  
 單舎 一八〇、〇  
 右一日三回一食匙宛

急性前脊髄灰白質炎 遺精

他ノ一肢ハ永久の麻痺ヲ止ム患肢ハ青色ヲ帯ビ温度下降ス永久麻痺セル一肢ハ筋肉及ビ骨ノ萎縮ヲ發ス

(療後)生命概ナ良ナルモ永久ノ麻痺ヲ殘スコト多シ

(療法)麻痺ノ初期ニ於テハ背部適當ノ部ニ氷嚢ヲ貼スシヤブマン氏管若クハ放涎後ニハ沃丁ヲ塗布ス熱、消化器障害ニハ其對症療法ヲ行フ可シ麻痺發生後二乃至三週間ニシテ麻痺セル筋ニ瓦爾華尼電流ヲ用ユ(積極導子ヲ頭部或ハ腰部膨脹部ニ消極導子ヲ筋肉ニ接ス)〇一二週後ニハ尙ホ又傍ラ末梢神經ノ療法ヲ施ス(消極導子ヲ神經ニ積極導子ヲ筋肉ニ接シ電流交換ヲナス)數月間按摩法ヲ行フテ大ニ効アリ其他矯整法ヲ用ユル場合アリ内服ニハ疾患ノ初期ニ於テ左方ヲ用ユ

ヨードカリ 〇、三乃至二、〇

單舍 一〇〇、〇

右每一時小兒匙宛 二〇、〇

蕃木龍越 〇〇、一

溜水 一〇、〇

遺精

Pollutionen.

ボルチナーネン

右每日一回或ハ二回皮下注入料 麥角浸 (五、〇)一五〇、〇

稀硫酸 三、〇

覆盆子舍 三〇、〇

右每一時乃至二時一食匙宛

遺精 直腸加答兒 脫肛及ビ直腸脫

(診候)手淫、情慾興奮、睡眠中膀胱緊滿、腸管充實、仰臥等ノ陰部刺戟或ハ重病ノ衰弱、脊髓癆ノ初起、包皮、結石、膀胱石、痔疾等ナリトス

(療法)豫防法ハ手淫ヲ戒メ品行ヲ正シ飲食ハ其度量ヲ節シ殊ニ晚餐ヲ制減シ寢褥ノ下敷ニハ硬キ蒲團ヲ擇ヒ被褥ニハ輕易ナル者ヲ用井且ツ早晨其褥ヲ離レ生殖機能ノ興奮及ヒ心身過勞ヲ禁シ可成ハ田舎或ハ山地ニ轉居セシメテ乳汁療法或ハ冷水浴ヲ行ハシム河水或ハ海水ヲ擇ブチ宜シトス〇内服ニハ強壯劑ノ類ヲ與ヘ又平流電氣療法等皆効有リ就中最モ要用ナルハ冷却「プー」シ「」ノ送入療法或ハ攝護腺部ノ腐蝕ナリトス

硫規

酸化鐵

白糖

臭剝

右十包二分チ一日三回一包

各一、〇

一〇、〇

右研和散十包二分チ毎日三包

(オプラートリニ包ミ用ユ)

麥角

白糖

右十包二分チ毎日三乃至五包

直腸加答兒

Proctitis.

プロクタイトス

(原因)宿便或ハ異物ノ器械的刺戟又ハ感冒、直腸潰瘍、比隣臟器腫瘍ノ炎症波及等(診候)肛門搔痒、灼熱、疼痛、下痢、裡急後重、肛門糜爛、下血、粘液漏出等(療後)悔不夏

(療法) 若シ直腸内ニ硬キ宿便或ハ異物等ヲ認メハ温灌腸ニ依テ之ヲ排除スル等一般ノ治則ナリトス。○急性症ニハ痔ニ就カシメ飲食ヲ制シ温坐浴ヲ取ラシメ又會陰部ニプリスニツツ氏法ヲ行フ然レトモ劇痛ニハ氷罨法ヲ施ス

サレツプ煎 (五、〇)五〇〇、〇

阿片丁 各二、〇

タンニン酸 各二、〇

右調和灌腸料(二回分)

アルテア根煎 三〇〇、〇

阿片丁 二、〇

右調和灌腸料(二回分)

裏急後重ニハ左方ヲ處スベシ

阿末 〇、〇五

カ、カ脂 二、〇

當時直腸周圍炎ヲ兼ヌル者ニハ外科的手術ヲ施サレル可カラズ

### 脱肛及ビ直腸脱

*Prolapsus ani et recti.*

プロラービス、アニー、エト、レクチャー

(原因) 常習便秘ニ伴フ脱糞時ノ努責、痔疾、肛門ノ裂傷、膀胱(結石)尿道及ビ攝護腺ノ疾病ニ因リ排尿困難ノ爲メ努責スル等

(診候) 肛門部ノ粘膜或ハ直腸ノ脱出

(療法) 軽度ノ脱出ハ油ヲ塗布セル指ヲ以テ其脱出部ヲ肛門内ニ還納スベシ脱出甚シク還納困難ナルトキハ全身麻酔中ニ括約筋皮下延長ヲ施シ脱出部ヲ還納スベシ而シテ還納後ニアリテハ其原因ヲ除クコトヲ勉ムベシ例ヘハ常習便秘アル者ニハ灌腸ヲ施ス等常習便秘ノ療法ヲ行フベシ脱出反覆シテ治セザル者ニハ外科的手術(灼熱、切除等)ヲ施スベシ

### 痒疹

*Prurigo. Nash*

(原因) 詳ナラズト雖トモ遺傳ナラン

(診候) 痒疹ノ甚シキ丘疹ニシテ専ラ幼時ニ始マル而シテ専ラ四肢ノ伸側面、背部及腹部ニ發ス周圍嫩衝ナキモ夜間ニハ灼熱痒甚シク試ミニ之ヲ刺針スルニ唯水液ヲ漏スノミ間々痂ヲ結ビテ膿疱或ハ濕疹ノ形状ヲナスモノ有リ慢性皮膚病ニシテ容易ニ治癒セズ

(療法) フレミング氏液ヲ全身浴中ニ加ヘ毎夕患者ヲシテ該湯ニ浴セシメ浴後皮膚ヲ拭ヒタル後三%「ペタナフトール」「ワセリン」或ハ五%サリチール酸「ワセリン」ヲ塗擦スベシ

痒疹 皮膚搔痒症

木タール 五、〇  
 石鹼末 一〇〇、〇  
 右調和石鹼ニ作り洗滌料トス  
 (小兒ニ於ケル輕症ニ適ス)  
 エピカリン 一〇、〇  
 肝油 五、〇  
 黄色ワセリン 九五、〇  
 右爲軟膏毎夕塗擦シ其上ニ撒布  
 藥ヲ用ユ  
 ベタナフトール 一〇、〇  
 豚脂 一〇〇、〇  
 右調和軟膏ニ作ル(單、ナフトールニ軟膏)

石炭酸 一、〇  
 グリセリン 一〇〇、〇  
 餾水 一〇〇、〇  
 右調和洗滌料  
 炭酸カリウム 一、〇  
 硫肝 二、〇  
 餾水 一〇〇、〇  
 右調和洗滌料  
 アンチピリン 五、〇  
 單舎 二五、〇  
 右毎夕一乃至二茶匙  
 其他「ピロカルピン」ノ皮下注射ヲ賞用ス

**皮膚搔痒症 Pruritus.** プルティス

(原因)主トシテ黃疸、密尿病、密毒症、月經不調、妊娠、老衰等ナリ  
 (療法)其原因療法ヲ施シ又冷水浴(河浴、海浴、灌漑浴)ヲ行フベシ而シテ此浴水中或ハ藥劑ヲ加フルアリ或ハ加ヘザルアリ若シ之ヲ加フルニ於テハ昇汞、明

礬、曹達、フレミンク氏溶液ヲ用ユ可シ又揮發性藥劑ヲ貼布(蕁麻疹ヲ對照セヨ)スルコトアリ  
 陰部、腔、肛門等ノ搔痒ニハ局處浴或ハ「コカイン」ノ塗布、收斂性溶液即チ百倍ノ明礬溶液、硝酸銀溶液、タンニン酸溶液、皓礬溶液等ノ注入或ハ其液ニ浸セル栓塞ヲ施ス可シ  
 ○劇甚ノ搔痒ニハ麻酔劑ヲ與フ其他試ミニ「ピロカルピン」ホーレル氏水、アトロピンキニー子等ヲ用ユ

石炭酸 〇、五乃至一、〇  
 ラノリン 五〇、〇  
 グリセリン 一〇、〇  
 右塗布料 一〇、〇  
 再餾酒精 九〇、〇  
 抱水クロラール 四、〇  
 グリセリン 一〇〇、〇  
 右塗布料 一〇〇、〇  
 薄荷腦 一、〇乃至五、〇  
 再餾酒精 一〇〇、〇  
 右塗布料 一〇〇、〇  
 薄荷腦 二、五  
 オレーフ油 七、五

石炭酸 一、〇  
 エピカリン 一〇、〇  
 エーテル 各四〇、〇  
 酒精 五、〇  
 右塗布料 二〇〇、〇  
 石炭酸 一、五  
 エーテル 各五〇、〇  
 香水 各五〇、〇



右塗布料  
 若夏越 〇、五  
 ワセリン 一〇、〇  
 ラノリン 五、〇  
 右爲軟膏  
 鞣酸コカイン 一、〇  
 ワセリン 一五、〇  
 右爲軟膏  
 ツメノール 五、〇  
 エーテル  
 酒精 各一五、〇  
 餾水(グリセリン)

陰門瘙痒症

Puritus vulvae.

フオリス、ウルカエー

右外用  
 肛門瘙痒ニハ左方ナ處シテ効アリ  
 クレアリン 五、〇乃至一〇、〇  
 ワセリン 一〇〇、〇  
 右塗擦料  
 石炭酸 四、〇  
 芳香酸 二〇〇、〇  
 右外用トシ更ニ左藥チ撒布ス  
 サリチール酸蒼鉛 二〇、〇  
 澱粉末 八〇、〇  
 右調和撒布料

(原因)密尿病、貧血、妊娠等  
 (診候)陰門ノ灼熱腫起濕疹糜爛等ナリ  
 (療法)密尿病等其原因ヲ明ニシ且ツ陰部ノ濕疹等ニ對スル療法ヲ試ミ便通ヲ利スルコト必要ナリ貧血ニハ鐵劑ヲ用井或ハ臭素劑ヲ投シ外用ニハ左方

石炭酸 三、〇  
 餾水 一〇〇、〇  
 右調和罨法料  
 硝酸銀 一、〇  
 餾水 三〇、〇  
 右調和塗布料  
 鞣酸コカイン 〇、一五  
 薄荷腦 一、〇  
 ザロール 各二、〇  
 オレーフ油 三八、〇  
 ラノリン 右爲軟膏  
 メントール 〇、五  
 オレーフ油 一〇、〇

鱗屑癬

(乾癬)

Psoriasis.

フアンマシス

右調和塗布料  
 頑固ナル者ニハ六乃至十日毎ニ左ノ水劑ヲ陰門ニ塗布シ又其間ニハ次ノ軟膏チ同部ニ塗擦ス可シ  
 石炭酸 各一〇、〇  
 純酒精 右調和塗布用  
 ソセリン軟膏 五〇、〇  
 酸化亞鉛 各三、〇  
 鯨蠟 右調和軟膏ニ作ル  
 鞣酸コカイン 〇、二  
 緩和軟膏 二〇、〇  
 右調和軟膏ニ作ル

(原因)遺傳ナリト云ヒ細菌ナリト云フ未詳  
 (診候)初メ肘關節及膝關節ノ伸展側ニ發シテ次テ頭部及薦骨部ニ發シ漸次周圍ニ

蔓延ス〇原發疹ハ帽針頭大ノ丘疹ニシテ其頂點ニ白色ノ光輝アル鱗屑ヲ生ズルモノナリ而シテ其周圍ニ蔓延増大スルニ從ツテ先キニ點狀ノモノ滴狀ノ鱗屑トナリ貨幣狀トナリ輪狀トナリ湊合シテ地圖狀トナル

(豫後)生命上ノ豫後良然レド再發ノ虞甚ダ多シ  
(療法)亞砒酸劑ノ内服或ハ注射ヲ用井同時ニ左ノ軟膏ヲ與フ  
皮膚ノ剝脫セル部ニハ左方ヲ用井テ効有リ

イヒチオール 五、〇乃至二〇、〇  
グリセリン 五〇、〇

右調和塗擦用

イヒチオール 五、〇

サリチール酸 三、〇

グリセリン 二〇、〇

酒精 一〇〇、〇

右調和塗擦用

白降汞 一〇、〇

ワセリン 五〇、〇

右調和軟膏ニ作ル

次硝酸蒼鉛

白降汞 各五、〇

ラノリン 四〇、〇

ワセリン 一〇、〇

右調和軟膏ニ作ル

又「タール」製劑ヲ用ユ(殊ニ頭皮ノ鱗屑)

カザヌム油 一〇〇、〇

右「フラチル」布片ニ點シ以テ塗擦ス

カザヌム油 各五、〇

綠石鹼 一〇〇、〇

稀酒精 一〇〇、〇

右塗擦用(即チ流動性「タール」石鹼)

樟油 五〇、〇

酒精 各五、〇

エーテル 各五、〇

ラヘンデル油 各三十滴

茴香油 各三十滴

右調和毛筆ヲ用井テ塗擦ス(此

擦劑ハ殊ニ「タール」ノ臭氣ヲ佳

長ナラシムルガ爲メ賞用スルモノナリ)

白降汞 一〇、〇

カリ石鹼 四〇、〇

ラノリン 五〇、〇

右軟膏ニ作ル頭皮ニ塗布

ナフトール 一五、〇

豚脂 一〇〇、〇

右調和軟膏ニ作ル

焦性沒食子酸 五、〇

ワセリン 五〇、〇

右調和軟膏ニ作ル

クリサロビン 一〇、〇

ワセリン 四〇、〇

ベルガモット油 十滴

右調和軟膏ニ作ル

此軟膏ハ先ヅ石鹼精ヲ用井テ

鱗屑ヲ除去シタル後綿撒絲ニ

塗布シテ塗擦スルヲ宜シトス

但シ其際周圍部ヲ被フテ刺戟

性紅疹ノ發生ヲ防グ可シ但シ

顔面ニハ用ユ可ラス

乾白膠 五〇、〇

餾水 一〇〇、〇

右調和蒸氣浴中ニ於テ終始一様

ニ攪拌シ適宜ノ「クリサロビン」

ヲ加ヘ製シテ蠟紙ニ包ミ與フ

是レ即チ「クリサロビン」膠ト名タル塗擦劑ニシテ用ニ臨ミ之レヲ温メテ溶解シ刷毛ヲ用井テ塗擦スルナリ焦性没食子酸膠モ亦其製法之レニ同ジ

- クリサロビン 各五、〇
- オレオフィン 各五、〇
- ラノリン 五〇、〇
- 右調和刷毛ヲ用井テ薄ク塗布ス
- クリサロビン 〇、二
- エーテル 一〇〇、〇
- 黄蠟 〇、三
- 右調和外用(殊ニ頭皮癬ニ適ス)
- クリサロビン
- グツタヘルカクロ、フオルム溶液 一〇、〇
- 右調和刷毛ヲ用井テ塗布ス
- 又或ハ「クリサロビン」一分ト「コロザウム」六分ノ混合擦劑ヲ用ユルコトアリ

本病ノ頑固ナル者ニハ左ノ改製フレミング氏溶液ヲ用ユ

- 生石灰 五〇、〇
- 昇華硫黄 一〇〇、〇
- 鹼水 一〇〇〇、〇
- 右混和煮沸シテ全量六〇〇、〇ニ作ル塗擦用
- 即チ之ヲ局處ニ塗擦シ次テ一時間ノ微温浴ヲ行ヒ而シテ後濃粉ヲ撒布シ或ハ鉛分ヲ含有セザル軟膏ヲ塗擦スルナリ但シ顔面ニハ用ユ可カラズ
- ヘブラ氏改製ウ井ルキンソン氏軟膏ハ頗ル有効ナルヲ認ム製法左ノ如シ
- 硫黄 各五〇、〇
- 山毛櫨油 各五〇、〇
- 綠石鹼 各一〇〇、〇
- 豚脂 各一〇〇、〇

石灰末

- 右調和六日間毎日二回刷毛ヲ用井テ塗擦シ十乃至十二日ヲ待テ入浴セシムベシ
- アリストール 三、〇
- ワゼリン 二〇、〇
- ラノリン 一〇、〇
- 右軟膏トナス
- アリストール 二、〇
- 亞鉛華 各五、〇
- 澱粉 各五、〇
- 白色ワゼリン 一〇、〇
- 右軟膏トナス
- ガラノール 五、〇
- トラウマチン 五〇、〇
- 右外用
- アントラロビン 一〇、〇
- 酒精 九〇、〇
- 右調和塗布用(此藥ハ顔面ニ用)

ユルモ妨ゲナシ)

- アントラロビン 各二〇、〇
- オレオフィン 六〇、〇
- 豚脂
- 右調和軟膏ニ作ル用法同上
- 鱗屑癬ノ内服ニ供スル藥劑ハ左ノ如シ
- 法水 六滴
- 餉水 五〇、〇
- 右調和一日ノ量
- 通例四日毎ニ一滴ヲ増加シ終ニ一日三十滴ニ達スルトキハ又更ニ四日毎ニ一滴ヲ減シ元量即チ六滴ニ至ル但シ小兒ニハ尙ホ少量ヲ用ユベシ
- 法水 六十滴
- 薄荷水 二〇〇、〇
- 右調和朝夕二回每一食匙ヲ與ヘ全量ヲ十日間ニ用井盡ス可シ但シ此藥劑モ亦前者ノ如ク増加シ

テ三十滴ニ至リ再ビ減量スルモ可ナリ

- 法水 二、〇
- 炭酸アンモニウム 五、〇
- 縮水 一、二〇、〇
- 醋酸カリウム 一〇、〇
- 單舎 一五、〇
- 右一日三回每一食匙水ニテ内服
- 法水 二、〇
- 林檎鐵丁 各一〇〇、〇
- 薄荷精 各一〇〇、〇
- 右調和朝夕二回一食匙
- 亞砒酸ナトリウム 〇、四

産褥熱

Puerperalgieber.

ゾエルペラールギギーベル

(原因) 胎、子宮、陰唇等ニ分娩ノ際被ムリタル創傷部ヨリ細菌ノ侵入スルニ因ル産後ノ重病ナリ〇分娩後三十時間乃至四十時間ニ發病スルヲ以テ通常産後第二日或ハ第三日ニ發ス

- 縮水 一〇〇、〇
- 右調和一日二回毎十五滴(ピヤリン氏溶液)
- 亞砒酸末 〇、五
- 黑椒末 五、〇
- 甘草末 三、〇
- アラビアゴム漿 適宜
- 右調和丸百粒ニ作り毎日一二乃至十粒ヲ用ユ(亞細亞丸)
- 亞砒酸 〇、一
- アラビアゴム漿 各適宜
- 縮水 右調和丸二十粒ニ作り毎日一粒

(診候) 産後頓發ノ惡寒劇熱、劇烈ナル腦症、虚脱、肺炎、膈膜炎、關節炎等ノ症状ヲ呈シ嘔吐鼓脹、下痢ヲ來タシ惡膿性ノ惡露ヲ漏ラス等ナリ  
(豫後) 全身症ノ輕重衰弱ノ如何等ニヨリテ一定セズト雖トモ分娩後速カニ發スルモノハ概テ不良

(療法) 豫防法ニハ産前、産後ノ婦人ヲシテ其陰部ニ病毒ノ傳染ヲ避ケシムルガ爲メ消毒法ヲ嚴ニス可シ〇既ニシテ本病ニ罹レル者ニハ解熱療法トシテ「キニー子、サリチール酸等ヲ内服セシメ又下腹部ニ氷褫法或ハプリスニツツ氏褫法即チ濕温褫法又ハ可溶性銀軟膏ノ塗擦ヲ行フヲ宜シトス〇局處療法(創面或ハ潰瘍等)ニハ石炭酸水或ハ過マンガン酸カリウム水等ノ洗滌或ハヨード丁酸ノ創面塗布等用井テ効アリ凡テ内部諸機關ノ炎症ニ注意シ場合ニ依リ外科的手術ヲ要スルコトアリ〇子宮内膜炎ニハ三十倍硼酸水五十倍ノ石炭酸水或ハ五十%アルコホル液ヲ用井テ子宮ヲ洗滌シ内服ニハ酒精飲料阿片劑等ヲ與ヘ或ハ「モルヒ子」ノ皮下注射ヲ行ヒ且ツ便通ヲ容易ナラシム可シ〇尙ホ其他ノ治法ハ腹膜炎ノ條下ヲ參照ス可シ

- イヒチオール 一、〇
- 可溶性銀 〇、五
- 豚脂 九、〇
- 右爲軟膏外用

- 燐酸 一〇、〇
- 覆盆子舎 五〇、〇
- 右調和飲料ニ和シ用ユ(下痢アルトキハ用ユ可カラス)

發熱殊ニ惡寒戰慄ニハ左方ヲ處ス可シ  
硫規 三、〇

右散五包ニ分チ澱粉糞ニ入レ毎

二時一包

アンチピリン 二、〇乃至三、〇

右散十包ニ分チ毎時一包オブラ

ートニ包ミ用ユ

サリチール酸 五、〇

右散十包ニ分チ毎二時一包

樟腦 〇、五

白糖 二、〇

右研和散五包ニ分チ毎二時一包

譫語及ビ虛脫

昇汞 〇、二五

右洗滌料(中毒ニ注意スヘシ)

石炭酸 一〇、〇

右調和洗滌料 五〇〇、〇

リゾール 五、〇

右洗滌料 五〇〇、〇

アルコホル 二五〇、〇

右調和洗滌料 二五〇、〇

右調和洗滌料 二五〇、〇

右調和洗滌料 二五〇、〇

### 惡性膿疱

*Pustula maligna.* ノスツラ、トリシナ

(原因)一千八百五十五年ホルレンデル氏發見ノ瘰癧桿菌ノ皮膚侵入ニ因ル  
(診候)潜伏期三乃至六日ノ後皮膚ニ結節ヲ生シ其中央部ニ膿疱ヲ發ス灼熱及癢痒  
ノ感アリ二日乃至二日午後ニハ高熱譫語食思不振等而シテ或ハ一週ノ後處

(豫後)速カニ制瘻的外科手術ヲ施セバ良、然ラザルモノハ不良

(療法)苛性カリ或ハ硝酸ヲ用井テ患部ヲ腐蝕シ或ハバクレン氏ノ烙白金ヲ用井傳  
染部ヲ燒灼シ又患部ヲ切割シテ其創面ヲ腐蝕シ或ハ深ク十字形ニ切開シテ  
制瘻法ヲ施ス可シ又四十倍ノ溫石炭酸溶液ニ浸シタル「ガーゼ」ヲ以テ覆法  
ヲ行フモ可ナリ一説ニハ斯ノ如ク組織ヲ損傷スル「ナク單ニ「クロール」水、  
鉛水等ノ覆法ニ依賴スルコトヲ賞用シ患部ニ刀ヲ下シテ其創部ヲ腐蝕スル  
ハ只初期ニ於テノミ其効確實ナルモノナリト云フ〇惡性膿疱ノ硬變部ヲ縮  
小スルニハ「ヨード」ノ内服及ヒ皮下注射ヲ賞用ス

硫規 二、〇 縮水 一〇〇、〇

稀硫酸 十滴 グリセリン 五〇、〇

單舎 二〇〇、〇 右調和綿帶料 一、〇

右調和每二時二食匙 ヨード 五〇、〇

石炭酸 五、〇 右調和每回十滴皮下注射料 五〇、〇

縮水 二〇〇、〇

右調和覆法用

サリチール酸 一、〇

惡性膿疱

### 膿毒症

Pyæmie.

24H<sup>m</sup>-

(原因)膿瘍ヨリ諸器臟ニ轉移ヲ起スニ因ル

(診候)惡寒戰慄體溫暴騰(四十度或ハ以上)脈搏頻數一定時ノ後平溫ニ復シ更ニ一日乃至數日ヲ隔テ反覆同發作ヲ呈ス食思缺損皮膚乾燥其他轉移膿瘍ノ發生源ニ從ヒ種々ノ症候ヲ發ス例セバ咯血、肺炎、麻痺病(腦)等ノ如シ

(豫後)不良

(療法)原因療法(手術的療法)ヲ主トシ消毒法ヲ嚴密ニシ解熱法ヲ力メ其他強性葡萄酒、コンニヤツク酒清涼飲料ヲ用ユル等一般ノ治則ナリトス

砒規

右散十包ニ分チ毎二時一包(熱

重曹

ノ減退ヲ度トシテ後服ヲ止ム)

白糖

鹽酸モルヒ子 〇、〇五

右調和散五包ニ分チ毎三時一包  
アンチピリン 一〇、〇

白糖 右散五包ニ分チ毎夕一包

### 腎盂炎

Pyelitis.

24H<sup>m</sup>-

(原因)膀胱加答兒ノ波及、感冒、腎石、其他妊娠、產尊、急性傳染病、テレピンテ油、壳膏ノ誤用

(診候)急性ニ在テハ輸尿管ニ向テ放線狀ニ感シ且ツ壓迫ニ依テ増劇スル腎臟部疼痛ノ特發、惡寒、發熱、嘔吐、持續性ノ尿意頻數、尿量ノ減少ニ伴フ尿中血球膿球及蛋白ノ發見、尿酸性等ナリ

慢性ニ在テハ尿量増加、數多膿球ノ含有、尿ノ酸性、尿道口ノ癢癢、尿意頻數等ニシテ又腎水腫ヲ兼ヌルトキ腎部ニ無疼痛性ノ腫瘍ヲ觸知ス可シ

(豫後)原因ニヨリテ異ナレリト雖トモ概スルニ不良

(療法)其原病ニ注意シ初期ニハ冷電法後ニハ溫電法或ハ溫浴ヲ施シ疼痛ニハ「モルヒ子」ヲ内服或ハ坐藥トシテ用ユ刺戟性ノ飲食ヲ禁シ緩和流動性ノ食物即チ乳汁、扁桃乳等ヲ多量ニ與ヘ且ツ便通ヲ容易ナラシメ其他急性ノ者ハ褥中ニ安臥セシメテ發熱ニ「キニー子」ヲ與ヘ(又之ニ鹽酸モルヒ子ヲ伍用スルコトアリ)慢性炎ニハ乳汁療法、微溫浴ヲ行フ等本病一般ノ治則ナリトス

ザロール 〇、三一〇、五

右十包ニ分チ一日三回每一包

撒曹 右爲一包與六包一日三回二日分

ウラウルシ葉

忽布腺 右六包ニ分チ一日三回二日分

ヘルニアル 各二〇、〇

白糖 一、〇

ウロトロピン 〇、五

白糖 五、〇

右爲一包與六包一日三回二日分

膿毒症 腎盂炎

乳糖 五〇〇、〇  
 生明礬 三〇、〇  
 右一日ニ用ユ(明礬稀乳汁)  
 石灰水 一〇〇、〇  
 右一日三回一食匙チ一杯ノ溫乳  
 汁ニ加ヘ用ユ  
 タンニン酸(或ハタンニン酸キニー  
 子) 一、〇

白糖 二、五  
 右研和散六包ニ分チ一日三包  
 タンニン酸 各〇、五  
 忽布腺 二、〇  
 白糖 各〇、五  
 右十包ニ分チ一日三回每一包  
 コツパイバルサム 一五、〇  
 右三十個ノ膠囊ニ分チ一日三  
 回每一個

### 英吉利病

Rachitis. ラヒチス

(原因) 兒童ノ病ニシテ大抵生後石灰鹽類滋養分供給ノ不足ニ來ル又先天性ノ者ア  
 (診候) 脊柱ノ轉位彎屈、顫門ノ開大、額形四角、胸骨隆起、全身薄弱、歩行起立ノ困  
 難、下肢關節ノ腫大、壓痛、管狀骨ノ彎曲、下痢、嘔吐、頭部ノ發汗過多、帶白  
 赤色ノ尿渣、肌色蒼白、頑固性咳嗽等ニシテ又聲門痙攣、腹部膨滿、淋巴腺腫  
 チ兼ヌルモノ少ナカラズ  
 (豫後) 適當ノ療法ヲ行フコトヲ得バ良

(療法) 食物及ビ住居ヲ改良シ清潔法ヲ旨トシ新鮮ノ空氣中ニ適宜ノ運動ヲ營マシ  
 メ常ニ下痢及ビ便秘ヲ制スルコトヲ力ムヘシ

磷 〇、〇一  
 肝油 一〇〇、〇  
 右毎日一回一茶匙  
 磷 〇、〇一  
 リパニン 一〇〇、〇  
 右毎日一回一茶匙  
 肝油 二〇、〇  
 右一日三回每一茶匙  
 乳酸鐵 〇、五  
 乳糖 二、〇  
 右十包ニ分チ一日三回每一包  
 沃鐵舍 各一五、〇  
 單舍

磷 〇、〇一  
 甘扁桃油 七〇、〇  
 白糖 三〇、〇  
 エーテル 三十滴  
 右調和毎日一茶匙  
 磷 〇、〇一  
 リパニン 三〇、〇  
 アラビアゴム末 各一五、〇  
 白糖 四〇、〇  
 餾水 右調和毎日一茶匙

### 蝦蟆腫

Ranula. ラヌラ

(原因) 舌下腺輸送管閉塞ニ起ルモノ有リ或ハ先天性ナル者有リ

英吉利病 蝦蟆腫

(診候) 舌繫帶側ニ生ズル帶青白色水疱様薄壁ノ囊腫ニシテ終ニハ鵝卵大ニ達スルモノナリ疼痛ナシ言語ヲ妨グ

(豫後) 良

(療法) 全ク囊腫ヲ切除シ或ハ之ヲ切開シ或ハ囊腫壁ノ一局部ヲ切除シテ其腔内ニ「ヨード」フオルム「ガーゼ」ヲ充填シ又自然ニ破開セル者ニハ防腐性含嗽劑ヲ用ユ「ウエルセル」氏「ハブラ」ラツツ氏注射器ヲ用井テ囊腫ヲ穿刺シ其内溶液ヲ吸吮シタル後其套管ニ依テ以テ十倍ノ「コカイン」溶液ヲ送り次テ千倍ノ「クロール」亞鉛十乃至十二滴ヲ注入スルコトヲ賞用ス

### 網膜炎

Retinitis. レチニチス

(原因) 感冒光線ノ刺激、眼ノ過勞、梅毒、月經障害便秘、蛋白尿、糖尿病、惡性貧血等

(診候) 他覺的ニハ眼底ニ網膜ノ潤濁、視神經ノ境界不明、斑點出血時トシテ色素沈着硝子體潤濁等アリ自覺的ニハ視力ノ减退、羞明雲霧ノ感、眼精疲勞、眼火閃發、浮動症、變視症、等ヲ見ル「ア」リ而シテ網膜炎中著明ナルモノハ(一)梅毒性ニ在テハ硝子體潤濁乳頭充血境界不明網膜ノ一般潤濁時トシテ灰白色類黄色斑點出血ヲ來シ稀ニハ數週數月ニシテ反覆再發(再發性中心網膜炎)スルコトアリ(二)蛋白尿性網膜炎ニ在テハ網膜及乳頭ニ於ケル炎症々々狀ノ外

尙ホ出血、白色斑點(殊ニ黄斑ニ於ケル放線狀ノ白斑)ヲ來シ(三)白血病性網膜炎ニ在テハ眼底黄色ヲ帶ヒテ帶黄紅色、橙黄色ヲ呈シ血管ノ變化、圓形白斑等ヲ見ル(四)糖尿病性網膜炎ニ在テハ特異ノ眼底變狀ヲ有セザレモ多クノ出血ヲ來シ白斑ハ蛋白尿ニ於ケル如キ正規ヲ守ラズ(五)出血性網膜炎ニ在テハ炎症々々狀ト共ニ出血ヲ來シ屢々綠内障ヲ誘起シ其吸收後ニ網膜ニ帶青色膜ヲ生スル「ア」リ(增殖性網膜炎)

(豫後) 原因ニ關係ス惡液質ニ因ルモノハ不良ナリ

(療法) 原因ニ從フマシ其他安靜、瀉血、光線ノ遮斷(有色眼鏡)並ニ對症療法ヲ行フ

### 關節痲質斯

Rheumatismus articulorum.

ロイマチスムス、アルチクローラム、

(原因) 一種特異ナル傳染毒ノ侵入ニ胚胎シテ感冒ニ誘起セル關節部ノ疾病ナリ  
(診候) 十五以上四十年間ノ人ニ認ムル關節ノ腫起疼痛、熱發煩渴、皮膚ノ濕潤、尿ノ強酸性赤色沈渣等ナリ急性ノ定型トシテ心臟内膜外膜ノ炎症或ハ胸膜炎ヲ併發スルコト少カラズ  
慢性ニ於テハ數多ノ關節ヲ侵スコト稀ニシテ熱候ナク時々反覆シ終ニ其部ノ運用ヲ妨グルニ至ル



(豫後)急性症ハ概子其但シ心臟ノ疾患ヲ兼ヌルトキハ疑團ニ屬ス慢性症ハ生命的豫後其ナルモ屢々頑トシテ治シ難シ

(療法)一般ニ患肢ヲ安靜ニシ劇痛ニハ氷罨法ヲ行ヒ中度ノ者ニハ「イヒチカール」ヲ塗擦シ罨法ヲ施スベシ解熱劑トシテ酸性飲料ヲ與ヘ稽留性疼痛ニハ關節部ノ按摩、ヨード丁幾塗布莨菪軟膏ノ塗布ヲ賞用シ慢性症ニハ微溫浴或ハ蒸氣浴 濕布被包、灌漑浴、冷水療法、礦泉浴療法ヲ行フテ効有リ

アスピリン 一、〇 右爲一包與六包一日三回一包宛

撒曹 六、〇 右散六包二分チ「カプラー」トシニ包ム一乃至二時毎一包(後治療トシテハ此半量ヲ用ユ)

アンチピリン 三、〇 右六包トナシ一日三回一包宛

フエナセチン 〇、五 右爲一包與六包一日三回一包宛

ラクトフェニン 〇、五 右爲一包與六包一日三回一包

ザロール 各一、〇 右十包二分チ一日三乃至四包

白糖 〇、三乃至〇、四 右散十包二分チ一日四回

ベトール 〇、五 右爲一包與六包一日三回一包

サリピリン 〇、五 右爲一包與六包一日三回一包

ザロフェン 〇、五 右爲一包與六包一日三回一包

劇痛ニハ「モルヒネ」ノ皮下注射ヲ行ヒ不眠ニハ左方ヲ處ス可シ

ズルフォナール 一、〇 右一包トナシ毎夕就寢前一時溫湯ニテ用ユ

トリオナール 一、〇 右全前

局處ニハ左方 五、〇

イヒチカール 五、〇 緩和軟膏

右調和疼痛部ニ塗擦ス

イヒチカール 各一〇、〇

エーテル 二〇、〇

コロザウム 右調和塗布用

### 筋肉痠麻質斯

Rheumatismus musculorum.

ロイマチスムス、ムスクロールム

十倍イヒチカール軟膏 等分

莨菪軟膏 右疼痛部ニ塗擦ス

チゲノール 四、五、〇 右外用

ラノリン 四、五、〇 慢性症ニハ左方

沃剝 四、〇

苦丁 三、〇

鹽水 二〇、〇 右一日六回二日分服

ヨードカリウム 二、〇

ワセリン 一、五、〇 右調和毎日二回塗擦料

(原因)關節ヲ侵ス者ト同一ナリ通例僧帽筋、三角筋、胸銷乳糖筋、胸筋、肋間筋、腰筋等ニ來ル

(診候)患處ノ腫起疼痛ニ始マリ肥大或ハ萎縮ニ終ルモノ多シ其他ノ症候ハ關節痠麻質斯ト同一ナリ豫後ハ良

(療法)患部ニ溫罨法或ハ氈布ヲ用井又タ「イヒチオール」軟膏塗擦或ハ按摩法等ノ局所療法ヲ行ヒ溫茶劑ノ内服、蒸氣浴等ヲ行フテ効アリ疼痛甚ダシキモノニハ該部ニ「モルヒ子」ノ皮下注射ヲ行ヒ或ハ左ノ塗布ヲ用ユベシ

- 樟腦丁 右塗擦料
- オボデルドツク 各一〇、〇
- 右塗布料
- イヒチオール 五、〇
- ワセリン 四五、〇
- 右外用
- チゲノール 五、〇
- ラノリン 四五、〇
- フエラトリン 一〇、〇
- クロ、フオルム 一〇、〇
- オレーフ油 五〇、〇
- 右調和塗擦料一日數回
- 其他内服藥ハ關節痠麻質斯ノモノニ同シ

### 急性鼻炎

Rhinitis acūta

ヨロシチ、アタータ

(原因)感冒、急性熱性傳染病(インフルエンザ麻疹等)副鼻腔ノ急性炎症、不耳ナル

(診候)前驅症トシテ噴嚏、全身倦怠、次テ鼻道ノ交代性又ハ兩側ニ來ル閉塞、前額部壓重ノ感、稀薄ナル分泌物過多、嗅覺力减退又ハ亡失、鼻咽腔ノ乾燥、痒痒、異物ノ感、輕度ノ熱發、音聲鼻調ヲ帶ブ、哺乳兒ニ於テハ時々危險症狀ヲ發スルコアリ即チ鼻呼吸障礙ヨリ來ル哺乳ノ不能及氣管枝カタルノ併發等ナリ、二三日後ニハ分泌物ハ濃厚トナリテ減少シ漸次鼻道ニ疏通シ嗅覺又快復シ、倦怠ノ感去ル

(療法)先ツ原因ヲ去ルコトニ勤ム可シ

全身療法トシテハ發汗療法ヲ行フ可シ藥劑ハ「ザリピリン」、「アンチピリン」、「アンチヘブリン」撒曹「フェナセチン」等可ナリ之ニ併セテ清涼劑ヲ與フ可シ

局處療法トシテハ鼻腔撒布藥、粉霧藥、軟膏塗布等ハ慢性鼻炎ノ條下ヲ參照ス可シ、外ニ吸入藥トシテハ次ニ掲クルハーゲル、ブランド氏ノ吸入藥アリ

急性鼻炎 慢性鼻炎

石炭酸 五、〇  
 苛性アムモニア液 五、〇  
 再縮酒精 一五、〇  
 縮水 一〇、〇  
 右五乃至十滴ヲ濾紙ニ滴下シ之ヲ吸入  
 セシム

小兒ニハ二%ノ硼酸水又ハ  
 一%重曹水 二〇〇、〇  
 一%食鹽水 二〇〇、〇  
 メンタ油 一滴  
 鼻腔塗布料トシテハ二%硼酸「ラノリ  
 ン」可ナリ

### 慢性鼻炎

Rhinitis chronica.

ニチス、クロヒカ

(注意) 普通慢性鼻炎ト稱スルモノハ「カタル」性ノ炎症ヲ呈スルモノニシテ之ガ  
 若シ數年乃至十年ヲ持久經過セバ漸次組織ノ肥厚ヲ發スルモノナリ故ニ其  
 初期ノモノヲ單純慢性鼻炎ト云ヒ陳舊ナルモノヲ慢性肥厚性鼻炎ト云フ  
 而シテ患者ノ醫ヲ訪フハ常ニ後者ノ場合ヲ多シトス

(原因) 年齢ハ二十乃至五十年ニ多シ、比較的營養佳良ノモノ喫烟、飲酒家ニ多シ、  
 不潔ノ空氣中ニ生活スル場合、塵バ氣候ノ變化ニ遇フ場合、循環器障礙、副  
 鼻腔膿血症、急性鼻炎ヨリ轉ズルモノ、殊ニ腺病質ノ小兒ニ於テハ咽頭扁桃  
 腺ノ増殖(即腺質性組織ノ増殖 adenoid Vegetation)ニ注意ス可シ

(診候) 初期ニハ鼻涕過多(左右殆ンド差ナク)、鼻道ノ閉塞ハ多ク交代性ニシテ側  
 臥位ヲ取レバ下方ニ位スル鼻道ハ常ニ閉塞シ上位ニアルモノハ開通ス、又

入浴、運動、精神感動等ニヨリテ速カニ開通スル「ア」常ニ不快ノ感去ラズ  
 鼻鏡検査ニ依レバ下鼻甲介ニ於テ殊ニ著シキ腫紅ヲ認メ觸ルレバ其弾力性  
 ナ帯ビ知覺過敏ナリ試ミニ「コカイン」「アドレナリン」ノ合劑ヲ其粘膜ニ塗  
 布セシカ忽チ粘膜ハ蒼白トナリ腫脹ハ退縮シ鼻道ノ開通ヲ認ム可シ、下鼻  
 道ニ於テハ常ニ鼻涕ノ滞留ヲ見ル、咽頭ヲ檢スレバ多クハ咽頭「カタル」  
 ナ合併シ鼻涕ノ後鼻孔ヨリ咽頭后壁ニ懸垂スルヲ見ル

陳舊ノモノハ前症狀ニ加フルニ頭垂、頭痛、眩暈、記憶力減退、細事ニ倦ミ易  
 ク、全身違和、精神憂鬱等ノ諸症ヲ發ス殊ニ學生、學者等細事ニ精神ヲ勞ス  
 ルモノニ於テ著シ又嗅覺ハ一部分ノ脫出又ハ全ク脫出スル「ア」時トシテ  
 ハ反射性疾患トシテ喘息癲癇等ヲ發スルニ至ルコトアリ、鼻鏡検査ニ依レ  
 バ普通下鼻甲介(中鼻甲介ニハ少ナシ)粘膜ハ蒼白色ヲ帯ビ其表面ハ滑澤ニ  
 或ハ凹凸ニ下鼻甲介全部ニ渡リテ肥厚スルアリ又限局性ニ其前庭ニ於テ或  
 ハ後端ニ於テ或ハ中央部ニ於テ肥厚ヲ見ル「ア」時トシテ又恰モ鼻茸様ニ  
 現ハル、「ア」アリ、試ミニ血管收縮藥ヲ塗布スルモ其粘膜ニ於ケル腫脹ノ減  
 退ハ甚僅少ナルヲ認ム、觸ルレバ前者ノ如ク柔軟ナラズ

(豫後) 良

(療法) 原因ヲ除去スル「ア」ニ勤ム可シ、必用ナルハ局處療法ニシテ先ツ其初期ニ於  
 ケル緩和ナル方法ハ次ノ如シ

鼻腔撒布藥

メントール

コカイン

硼酸末

或ハ  
メントール

硼砂

乳糖

鼻腔粉霧藥

アンチピリン

〇、四

〇、二

三〇、〇

〇、三

一五、〇

一五、〇

三、〇

コカイン  
餾水

或ハ  
アンチピリン

硼酸

餾水

一〇〇、〇

一、〇

一、〇

一〇〇、〇

一〇〇、〇

軟膏二%「メントール」ヲ用ルルニシテ、寒冷時ノ期ニハ之ニ「ワセリン」ヲ配伍ス可シ。多ク咽頭炎ヲ合併スルヲ以テ之ニ含嗽劑ヲ與フ可シ

陳舊ナルモノニ向テ腐蝕トシテ硝酸銀、クロム酸、三クロール醋酸等ヲ用ユルモ効果ヲ納ムルコト少ナシ、最モ確實ナルハ手術的療法トナス、電氣燒灼法、寒蹄係截斷法等アルモ近時ハ専ラ賞用サル、モノハ剪刀及鉗子ナリ、剪刀ニハハイマン氏、ベックマン氏、ウヰンクレル氏、オーケ氏ノ諸型アリ、鉗子ニハクリーゲ氏有及甲介骨切除鉗子、西山氏有及甲介骨鉗子アリ、西山型ノモノ甚便ナリ

手術式、先ツフレンケル氏鼻鏡ニヨリ局處麻酔藥(二〇%コカイン水十瓦ニ付テ千倍鹽化アドレナリン水一瓦)ヲ數回塗布シ、次テ左手ニ鼻鏡ヲ持テ

反射鏡ニヨリ十分鼻腔ヲ照射シ肥厚セル切除部位ヲ明カニシ上記ノ剪刀ニヨリ之ヲ截斷シ尙骨片、組織等ノ遺殘アル所ハ有及鉗子ニヨリ之ヲ離斷シ終レバ直ニ殺菌「ガーゼ」ノ「タンボン」ヲ施シ(全ク切除後「タンボン」ヲ用井ザル法アリ)約四五日ノ後出血スルコトナクバ之ヲ除去シ其創面ニ「テルマトール」ヲ吹入ル、カ又ハ「メントール」ヲ用リ「シ」ヲ塗布シ只綿栓ヲ輕ク施ス可シ、カクセバ約十日ニシテ創面ハ全ク治ス可シ、肥厚部ノ切除ハ多キニ過ク可カラズ又少ナキニ過ク可カラズ

### 風疹 Rubella. ルベオラ

(原因) 流行性ニ發ス麻疹ニ類スルモ其原因異ナリトス

(診候) 潜伏期ハ二週次ニ前驅期トナリ惡寒或ハ寒戰ヲ發シ體温三十八度乃至三十八度半ニ昇リ脈搏九十乃至百ヲ算ス、輕度ノ口峽炎、結膜炎、鼻加答兒ヲ發ス半日乃至二日ノ後發疹期ニ移リ最初顔面頸部ニ紅疹ヲ發ス漸次全身ニ及ブ概子三四日ニシテ褪色シテ治ス

(豫後) 良

(療法) 發熱アルトキハ就降ヲ命ジ鹽酸「リモナーデ」ヲ與フ、皮膚ノ灼熱、癢痒著シキハ酒精若クハ油性塗擦劑ヲ與フ

疥癬

Scabies. スカビエス

(原因) 疥癬ノ傳染ナリ

(診候) 指間、指側、肘腕膝等關節部、臀部ニ好シテ發スル皮疹ニシテ終ニ全身ニ蔓

延ス(頭部顔面足趾ニハ極メテ稀ナリ) 癢痒甚シ水疱性、膿疱性ノ者ヲ混ズ

(療法) 第一日ニ於テ發疹部ニ複方、ナフトール軟膏ヲ塗擦セシメ第二日ニ於テ尙

ホ癢痒アル部ニ軟膏塗擦ヲ行ヒ第三日乃至第五日ニ入浴ヲ命ズ又同時ニ存

スル濕疹ヲ療スルコトヲ要ス(濕疹ノ條ヲ見ヨ) 其他左ノ諸劑モ有効ナリ

ベタナフトール 一五、〇

綠石鹼 五〇、〇

白堊 一〇、〇

豚脂 一〇〇、〇

右塗擦料(複方ナフトール軟膏) 五、〇

ベタナフトール 五、〇

エーテル 適宜ニ溶カシ

薄荷腦 〇、五

ワセリン 一〇〇、〇

右爲軟膏塗擦

ベルーバルサム 二〇、〇

右塗擦料

アルコホル 各二〇、〇

右毎日二回塗布料

流動蘇合香 各二〇、〇

ベルーバルサム

右塗擦料

生石灰 二五、〇

硫黃 五〇、〇

右爲軟膏塗擦

餾水 五〇〇、〇

右調和煮沸シテ全量三〇〇、〇

ニ作ル塗擦用(ヘブラ氏改良フ

レミンク氏溶液)

昇華硫黃 各二〇、〇

カザヌム油 三、〇

白堊 各四〇、〇

綠石鹼 各四〇、〇

豚脂 各四〇、〇

右調和塗擦用(ヘブラ氏改良ウ

ルキンソン氏軟膏)

ベタナフトール 五、〇

沈降硫黃 一〇、〇

蘇合香 三〇、〇

ヒレト末 三〇、〇

豚脂 一〇〇、〇

右爲軟膏一日一回塗擦三日間連

用

ベタナフトール 一〇〇、〇

亞麻仁油 一〇〇、〇

右調和二十四乃至三十六時間以

内ニ於テ三四回ニ塗擦ス

流動蘇合香 各一五、〇

昇華硫黃 各一五、〇

白堊 各三〇、〇

綠石鹼 各三〇、〇

豚脂 各三〇、〇

右調和塗擦用(ラインベルグ氏

軟膏)

藥用石鹼 一〇〇、〇

石腦油 各五〇、〇

アルコホル 各五〇、〇

白蠟 四〇、〇

右調和一日三回塗布

小兒或ハ患部ノ少ナル者ニハ左方ヲ以

テ足レリトス

流動蘇合香

ペルーパールサム 各五〇、〇

右調和塗擦用(時トシテハ單ニ

「ペルーパールサム」ノ塗擦ヲ以テ

足レリトス



圖三十四第

エビカリン 七、〇  
白亞 二、〇  
ワセリン 三〇、〇

ラノリン

豚脂 一五、〇

右爲軟膏塗擦

硫黃 四、五、〇

豚脂 五〇、〇

右調和塗擦用

硫黃 各一〇、〇

ペルーパールサム 一〇〇、〇

豚脂 各一〇〇、〇

右調和塗擦用

石腦油 五〇、〇

ガレーフ油 五〇、〇

右調和用法同上

藥價ノ貴キニ關セザレバヘアラ氏ノ改

良セルプルキンソン氏軟膏ヲ用ユルヲ宜

シトス其方左ノ如シ

ラヘンデル油 各一、〇

丁香油 各一、〇

炭酸カリウム 二五、〇  
硫黃乳 七五、〇

猩紅熱

Scarlatina.

スカルラチナ

豚脂 右調和軟膏ニ作ル 適宜

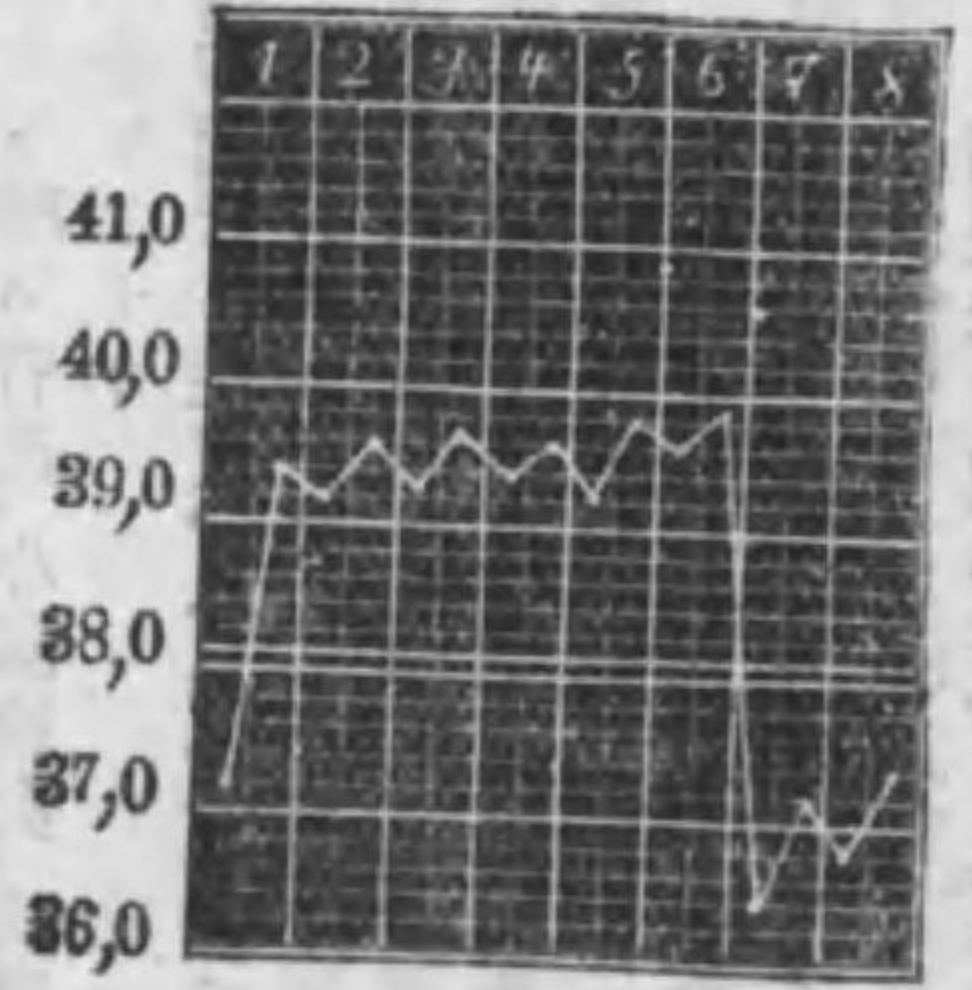
(原因) 一種ノ觸接傳染性病毒ニ由テ起ル急性發疹ニシテ多クハ小兒殊ニ二年以上  
四年間ノ者ニ來ル又創傷アル時ハ傳染スル事易シ

(診候) 潜伏期(三日乃至七日)ノ後嘔吐、咽頭痛、惡寒若クハ寒戰、體溫三十九度以  
上四十度五分ニ達シ脈搏増加(百二十以上ニ達ス)、頭痛、疲勞、若クハ痙

攣或ハ腦膜炎ノ症狀ヲ以テ始マリ一二  
日ニシテ先ヅ頸部、胸部終ニ全身ニ汎

發スル帽針頭大若クハ亞麻仁大ノ鮮紅  
色密叢ノ發疹少リ瀾蔓シテ紅斑トナル

時トシテ疹中漿液或ハ膿汁ヲ含有スル  
者アリ頰部及唇部ニハ通常發疹ヲ缺ク  
發疹後三四日ニシテ疹褪色シ糠狀落屑  
或ハ大ナル表皮剝離ニ終ル舌ハ初メ白  
色ノ苔ヲ被ムルモ第四日或ハ第五日ニ  
ハ舌面赤色トナル依テ之レヲ覆盆子舌



表溫體熱紅猩

圖四十四第

猩紅熱 鞏膜炎

ト稱ス腎炎、心臟膜炎、胸膜炎、實扶的里、關節炎、中耳炎、水腫等ヲ合併スルモノナリ

(療後) 流行ノ性質、合併症ノ輕重如何ニヨリテ一定ナラズ輕症ト雖モ容易ニ其ト斷ズベカラズ

(療法) 治則ハ素ヨリ對症的ニシテ落屑期ヲ經過スル間ハ必ズ得中ニ在ラシメ病室ノ通氣ヲ善良ニシテ其溫度ヲ列氏ノ十五度ニ保持シ健者ノ出入ヲ斷チ高熱アルトキハ少時間ノ入浴(攝氏三十五度)ヲ用井又酸性飲料ヲ與ヘ頭部ニ水罷法ヲ行井食物ニハ流動性特ニ牛乳ヲ與ヘ其他ハ淡泊消炎性ノ物ヲ與ヘ(第四週ノ終リニ至リ始メテ肉類ヲ與フ)便通ヲ利シ又屢々咽頭炎ノ強弱ヲ検査シ每日尿中蛋白ノ多少ヲ檢ス可シ腎臟炎等合併症アルトキハ又々其疾病療法ヲ勉ムベシ

### 鞏膜炎 Scleritis. スクラリチス

(原因) 痲瘋質斯、梅毒、結核、月經障害等ナリ  
(診候) 鞏膜炎(上鞏膜炎 Episcleritis) ハ角膜ニ接シテ初メ鮮紅色次テ紫色ヲ呈スル限局性病竈ヲ生ズルモノニシテ上鞏膜血管組織ノ炎症ナリ病勢亢進スレバ多少腫脹シ結節狀トナル大約四週間内ニハ漸次褪色シテ汚穢青灰白色トナリ化膿若クハ潰瘍ヲ來スコトハ稀ナリ而シテ本病ハ屢々合併症ヲ發シ不其

ノ轉期ヲ招クコトアリ其主ナルモノハ病竈ノ近部ニ於テ硬化性角膜炎ヲ來シ或ハ虹彩炎ヲ續發シテ後癒着症ヲ招キ或ハ漿液性脈絡膜炎ヲ合併シテ硝子體濁濁、内壓亢進等ヲ誘起スルコト是ナリ

(療後) 其、合併症ヲ發シタルモノハ疑

(療法) 全身療法トシテ原因ニ從ヒ撒曹、ビロカルピン或ハ水銀劑ヲ與ヘ強壯劑ヲ處スベシ局所ニハ「アトロピン」水ヲ點シ溫電法、電氣燒灼等ヲ施スベシ

### 壞血病 Scorbutus. スコルブータス

(原因) 食用不給殊ニ新鮮植物性食物ノ缺乏ヨリ來ル

(診候) 全身衰弱、皮膚及粘膜ノ出血性紫斑、就中齒齦ノ腫起剝離、暗青變色出血、下肢ノ潰瘍等

(療後) 輕症ハ其重症ハ疑

(療法) 其原因ヲ探リ清淨ノ空氣ヲ呼吸セシメ住居ヲ乾燥ニシテ果實、野菜殊ニ馬鈴薯等ノ食物ヲ取ラシメ枸橼酸等ノ酸類及ビ葡萄酒ヲ與ヘ皮下溢血及滲潤ニハ醋或ハ鉛水罷法ヲ施シテ効アリ

枸橼酸 一、〇

單舍 二〇、〇

留水 一八〇、〇

右一日數回二日分服

復方キナ丁

橙皮丁

四〇、〇

一〇、〇

右調和一日四回每一食匙  
 白膠 一〇、一〇〇  
 食鹽 〇、一〇〇  
 縮水 一〇〇、〇  
 右殺菌シテ皮下ニ注射スベシ  
 過マンガン酸カリウム 五、〇  
 縮水 二〇〇、〇  
 右調和含嗽料(稀薄ニスルチ得ベシ)  
 鹽剝 一〇、〇  
 酒精加水 四〇〇、〇  
 右調和含嗽料  
 ラタニア丁 一〇〇、〇  
 縮水 一〇〇〇、〇  
 右調和含嗽料(稀薄ニスルチ得ベシ)  
 稀鹽酸 二、〇  
 玫瑰蜜 二〇、〇  
 右調和含嗽料  
 ラタニア丁 各一五、〇  
 五倍子丁 各一五、〇  
 右調和齒齦塗布用  
 サルフイア葉 五〇、〇  
 右浸劑ニ作り含嗽用  
 衄血ヲ來タセルトキハ左方チ處ス可シ  
 止血水 五〇、〇  
 明礬末 二〇、〇  
 右調和嗅入用(止血水トハ過ク  
 ロール鐵液二十五分ニ酒精十五  
 分チ加ヘタル者ナリ)  
 尙ホ衄血ノ條下チ參照スベシ

腺病

Scrophulosis.

スコロフホーシス

(原因)十三年以下ノ男女ニ見ル全身病ニシテ先天性或ハ後天性ノ別有レドモ其

病毒ハ同一ニシテ結核菌ナリ營養不良卑濕ノ居住不良ノ空氣等誘因トナル  
 (診候)體質薄弱(鈍性)ノモノニアリテハ皮下脂肪組織多ク、顔面腫起セルが如クニ  
 シテ其色蒼白口唇肥厚ス、敏性ノモノニアリテハ顔面細長皮膚菲薄ニシテ  
 潮紅シ易ク皮下靜脈透映ス(淋巴腺腫、頭部ノ濕疹、頭皮膿疱、皮膚ノ苔癬、  
 痒疹、耳漏、結膜炎、眼瞼炎、角膜病、鼻加答兒、羞明、齶齒、脊椎骨瘍、白腫、膀  
 關節炎ノ諸症ヲ併發ス可シ)

(豫後)不定或ハ骨、關節、肺、腸、腦膜全身ノ結核ヲ發シテ死ス  
 (療法)專ラ飲食ノ品種及ビ食事ニ注意シ而シテ食物ニハ乳汁、鶏卵、肉羹汁、肉類  
 (焼肉ヲ最良トス)及ビ消化シ易キ野菜ヲ用ヒ香物、莢豆類、馬鈴薯等凡テ不  
 消化物ヲ禁シ米、牛乳、鶏卵、魚肉、鳥肉等凡テ消化シ易キ物ヲ主食物トシ寢  
 室及ビ居室ノ通氣ヲ善クシ屋外ノ運動ヲ營マシム可シ一般ニ田舎ノ住居、  
 海水浴等用井テ最良ナリトス而シテ膿腫、骨潰瘍、眼病、皮疹等ヲ發シ若ク  
 ハ既ニシテ結核發生ノ疑ヒ有ル者ニハ内服藥ニ併セテ各自適應法ヲ施ス腺  
 病性腺腫ニハ二十倍ノ「ヨードフォルム軟膏或ハカリ石鹼ヲ塗擦スベシカ  
 ベツセル氏ハ全身塗擦法ヲ用ユ即チ毎週二乃至三回夕刻一乃至二茶匙ノ  
 カリ石鹼ニ少量ノ微温湯ヲ加ヘ之レヲ十五分間全背部ニ塗擦シ三十分ノ後  
 之レヲ洗去ス



肝油 五〇、〇  
 右一日二回一茶匙乃至一食匙宛  
 沃鐵舎 五、〇  
 橙皮舎 一五、〇  
 右調和朝夕一茶匙  
 ヨードカリウム 〇、五乃至二、〇  
 縮水 八〇、〇  
 橙皮舎 二〇、〇

**皮脂漏**

Seborrhœa.

セボリア

(療法)石鹼ト温湯ヲ以テ患部ヲ清潔トナスコトヲ勉メ左ノ諸方ヲ用ユベシ  
 重曹 三、〇  
 グリセリン 各一五、〇  
 ラヘンデル精 各一五、〇  
 右塗擦料(頭皮脂漏)本藥使用中  
 ハ時々髪油ヲ塗布スベシ  
 ヘルーパーサルム 一、〇  
 オレーフ油 五、〇

右一日二回乃至三回一小兒匙宛  
 ヨードフォルム 一、〇  
 肝油 二〇〇、〇  
 茴香油 〇、五  
 右調和一日二回每一食匙  
 鼻臭、鼻加答兒等ノ局所疾患ニハ其部  
 ノ療法ヲ殿ニスベシ

鯨蠟 各二五、〇  
 オレーフ油 右調和軟膏ニ作ル  
 白蠟 各五、〇  
 パラフィン 各五、〇  
 扁桃油 三〇、〇

硼酸 三、〇  
 右調和軟膏ニ作ル(應用前微温  
 湯ニ入レ軟和スベシ)  
 酸化亞鉛 一〇、〇  
 フセリン 五〇、〇  
 右調和軟膏ニ作ル  
 炭酸鉛 一〇、〇  
 緩和軟膏 五〇、〇  
 右調和軟膏ニ作ル  
 石炭酸 三、〇  
 プランデー酒 一〇〇、〇  
 右調和洗滌用  
 綠石鹼 五〇、〇  
 純酒精 二〇、〇  
 ラヘンデル精 五、〇  
 右調和塗擦用  
 サリチール酸 五、〇  
 縮水 二〇〇、〇

皮脂漏

右調和洗滌用  
 安息香丁 五、〇  
 プランデー酒 一〇〇、〇  
 右調和洗滌用  
 酒精 一〇〇、〇  
 石炭酸 〇、一五(或ハ硼酸三、〇  
 或「サリチール酸三、〇」  
 グリセリン 一、五  
 右塗布料  
 糖枇狀鱗屑ノ多キ者ニハ左方ヲ處ス  
 石炭酸  
 ヘルーパーサルム  
 ラヘンデル精 各五、〇  
 プランデー酒 二〇〇、〇  
 右調和洗滌用  
 没食子酸 二、〇  
 單軟膏 二〇、〇  
 右調和軟膏ニ作ル(經久症ニハ

療法ノ初メニ於テ一週間毎日塗布)  
アンモニア水

### 敗血病

Septicaemia.

セプチカエミア

グリセリン 各七、五  
薔薇水 一、二〇、〇  
右塗布料

(原因)敗血症ハ創傷若クハ炎竈ヨリ分裂菌ノ血中ニ侵入スルニ因ル(細菌性敗血症) 或ハ分裂菌ノ産出スル溶解性化學的毒物ニ因ス(中毒性敗血症)

(診候)急性ノ重症ニ在リテハ劇甚ナル發熱全身症ヲ發シ衰弱甚ダシクシテ嗜眠、昏睡ニ陥リ唇青身冷、體温下降シ脈搏頻數々時ニシテ死ス中等度ノ症ニアリテハ惡寒シ發熱(三十九度乃至四十度)創傷部發赤シ淋巴管炎或ハ淋巴腺炎等ヲ發ス適當ナル療法ニテ治シ或ハ腐敗性全身症益々加ハリテ死ス

(豫後)概テ不良

(療法)防腐法及制腐法ヲ以テ本病ヲ豫防スベシ既ニ本病ヲ發スルトキハ有力ナル制腐法ヲ施シ排膿ヲ完全ナラシムベシ 四肢ニ於ケル蔓延性フレグモト子ニ原因スルトキハ數多ノ大切開若クハ切斷術ヲ行ス○内服ニハ解熱藥酒精飲料ヲ投シ消化シ易キ食物ヲ與フベシ○ビルロト氏ハ溫浴、溫包、多量ノ熱飲料ヲ以テ發汗セシムルノ法ヲ賞用セリ○マルモレツク氏ノ血清療法ヲ賞用ス

クレテ氏軟膏

### 嘔吐

Singultus.

シンギュルス

右塗布料(二日間毎夕)

(原因)胃病、攝護腺病、子宮病、ヒステリー、橫膈膜及神經的感應等ナリ

(療法)定型的發作性ナル者ニハ「キニー子」最モ能ク其効ヲ奏ス其他ノ者ニハ一般ニ麻醉劑ヲ用井氷片ヲ嚥下セシメ胃部ニ樟腦精ヲ塗擦シ又噴霧器ヲ用井テエーテルレチ先ツ十分時間上腹部、次ニ五分時間頸ノ兩側ニ噴撒シ或ハ上腹部ニ華瓦臺氏電氣ヲ通シ或ハ橫膈膜神經ニ平流電氣ヲ通シ或ハ「モルヒ子」アトロピン等ノ皮下注射或ハ亞硝酸アミールレノ吸入(二二滴)ヲ行ヒ又クロ、フオラムレチ内服セシメ「ピロカルピン」或ハ抱水クロラール(小量)ノ内服ヲ試ム可シ

繭草丁 二〇、〇  
右五乃至十滴白糖ニ和シ用ユ

荳蔻越 一、〇  
荳蔻末 一、〇

蒲公英越 各適宜  
右爲百丸菖蒲根末ヲ以テ衣トナ  
ス毎日二乃至三丸

杏仁水 五、〇  
鹽莫 〇、〇五  
右調和每二時五滴

油合劑 五〇〇、〇  
クレオソート 一乃至二滴  
薄荷油 二滴  
右調和每半時一食匙

敗血病 吃逆

ヤボランザ葉煎 (四、〇)一五〇、〇

右一乃至二回ニ分服

### 硬性下疳

Sklerosis.

Sklerosis.

(原因)梅毒ノ傳染ニ因テ生ズ梅毒ノ原因ハ千九〇五年シヤウゲン氏發見ノ、スヒ  
ロヘーテンバルハダノ傳染ナランカ

(診候)大抵龜頭冠狀溝、包皮繫帶、陰莖皮膚、大陰唇、後結合等ニ發スル硬結ニシテ  
潰瘍ニ變ズ其周圍硬ク邊緣屹立瘡面鮮紅色ニシテ疼痛殆ンド無ク而シテ多  
クハ無疼痛性ノ鼠蹊腺腫ヲ併發ス

(療法)淋巴腺ノ腫脹ヲ認メス患部切除ニ適スル際ニハ切除シテ縫合スベシ潰瘍面  
ヲ呈シタルモノニハ、「ヨードフォルム」及ビ其代用品若クハ甘汞劑ヲ撒布ス  
ベシ硬結ノミヲ呈シタルモノニハ水銀硬膏ヲ貼用スベシ

- ヨードフォルム 五、〇
- 右患部撒布料 各五、〇
- ヨード 三、〇
- 右患部撒布料 各五、〇
- ヨードフォルム 一〇、〇
- 右患部撒布料 一〇、〇
- ベルガモット油 一滴
- 右混和撒布料 一、〇
- 甘汞 一、〇
- 次硝酸蒼鉛 一〇、〇
- 右患部撒布料 一、〇
- 甘汞 一、〇
- アルマトール 各五、〇
- 右患部撒布料 各五、〇

- ワゼリン 一〇、〇
- 右外用 水銀硬膏 五、〇
- 赤降汞 〇、一
- ワゼリン 二〇、〇
- 右外用 オイロフエン 三、〇
- 千倍昇汞水 二〇〇、〇
- 右外用 二%硼酸水 二〇〇、〇
- 右外用(創面ノ洗滌ニ用ユ)

### 日射病

Sonnenschlag.

Sonnenschlag.

(原因)太陽炎熱ノ侵襲ヲ受ケ飲料不足ナルコト  
(診候)頭痛眩暈、卒倒、體溫昇騰、脈搏細小等ノ諸症  
(療法)先ツ狹隘ナル衣服ヲ脱シ冷所ニ移シテ冷水ヲ灌ギ清冷飲料ヲ與フ、可及的  
冷却セル麥酒或ハ葡萄酒等ヲ與フルヲ宜シトス

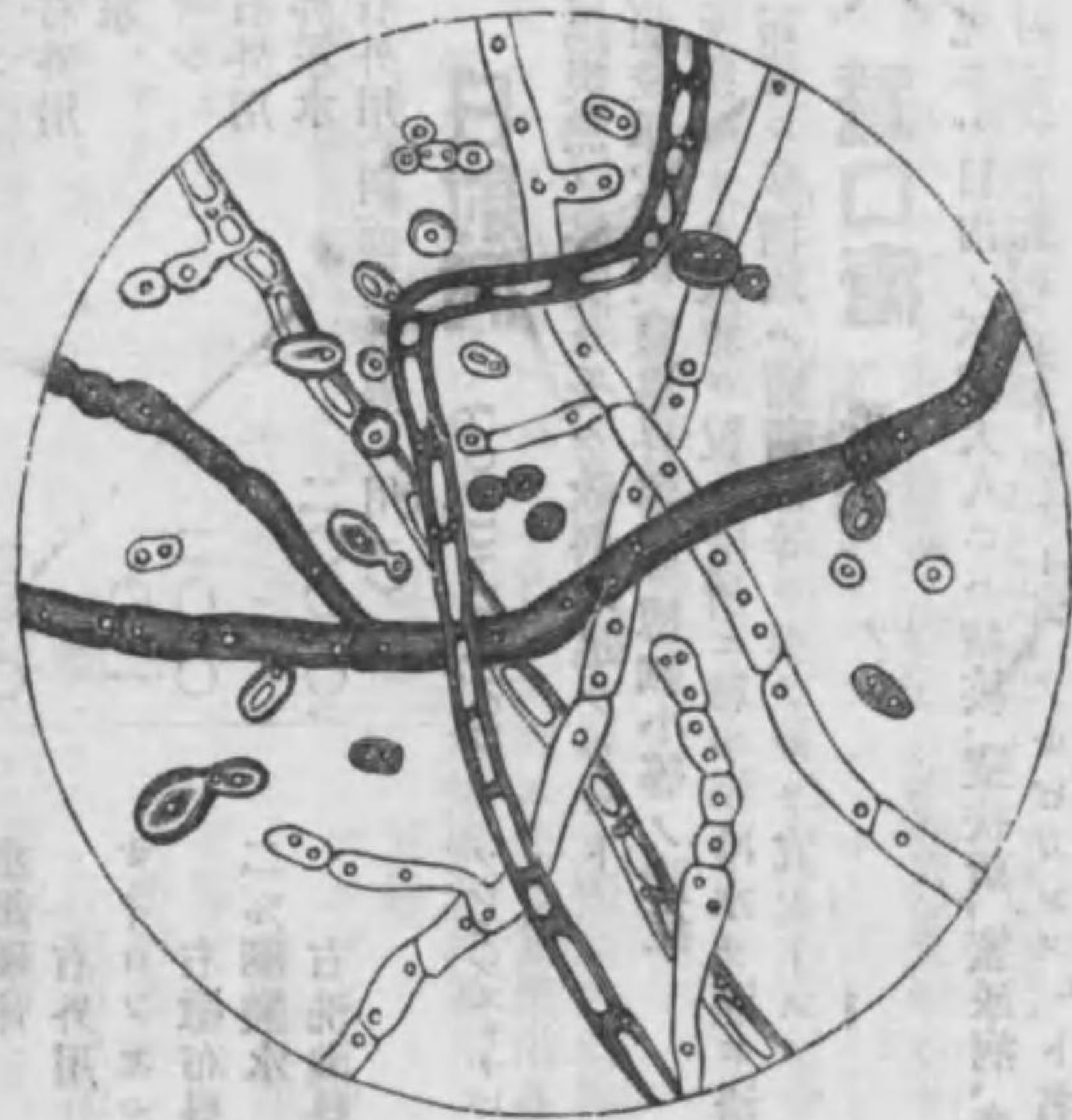
### 鷺口瘡

Soor

Soor

(原因)乳兒ニハ口内ノ不潔大人ニハ結核、窒扶斯、蜜尿病、産褥熱、癌腫、白血病等  
誘因ニシテ素ト「オイジューム、アルピカンス」ト名クル黴菌ノ浸襲ニ起ル  
モノナリ

第 四 十 五 圖



スノカピルア・ムーユジイカ

(診候) 口腔及咽頭ノ粘膜ニ白色乾酪様ノ小義膜數多ヲ生シ其部充血腫起咀嚼及嚥下ノ作用ヲ妨ゲ口内灼熱シ唾液ハ酸性ニ變ズルヲ常トス胃痛、下痢等ヲ發スルコト屢々ナリ

(豫後) 良

(療法) 濕布ヲ用非テ屢々口腔全部ヲ拭フベシ殊ニ哺乳後ハ必ズ然カスルヲ要ス傳染スル者ナルガ故ニ注意スベシ

- |            |       |                   |       |
|------------|-------|-------------------|-------|
| クロール酸カリウム  | 一、〇   | 韶水                | 一〇〇、〇 |
| 韶水         | 一〇〇、〇 | 薔薇蜜               | 二〇、〇  |
| 單舎         | 二〇、〇  | 右調和塗布及洗滌用         |       |
| 右調和每一時一小兒匙 |       | 韶水                | 一〇、〇  |
| 過マンガン酸カリウム | 〇、〇五  | 蜂蜜                | 一〇、〇  |
| 韶水         | 二〇〇、〇 | 右調和塗布料            |       |
| 右調和口内洗滌料   |       | 韶砂                | 五、〇   |
| 重曹         | 八、〇   | グリセリン             | 一五、〇  |
| 韶水         | 二〇〇、〇 | 右塗拭料 (一日三回口ヲ拭フベシ) |       |
| 右口内洗滌料     |       | 尙ホ「アフタ」等ノ條下ヲ参照セヨ  |       |
| 韶砂         | 二、〇   |                   |       |

### 聲門痙攣

*Spasmus glottidis.*

ススムス、  
グロツチヂス

(原因) 佝僂病ヲ以テ本病ノ主因トス。四ヶ月以上二年以下ノ兒童ニ多シ大人ニハ稀ナリ

(診候) 發作間歇性ノ聲門攣縮ニ係ル窒息狀ノ疾患ニシテ多クハ夜間ニ發ス。顔面蒼白、眼球突出、上腹部陷没、失神、全身搐搦ノ症候ヲ現ハス。間歇スルトキハ笛聲ヲ發ス

(豫後) 疑

(療法) 發作ノ際ハ小兒ヲ坐セシメ醋或ハ冷水ニ浸セル布片ヲ用井テ全身ヲ摩擦シ顔面ニハ冷水ヲ注ギ或ハ「クロ、フオルム、エーテル」ノ嗅入或ハ「カミルレ煎」ノ浣腸ヲ行フ可シ。攝生ヲ嚴ニシテ人工營養ニ代ユルニ母乳ヲ以テシ又室内ノ換氣ニ注意シ成ル可ク新鮮濕温ノ空氣ヲ呼吸セシム可シ。内服ハ燐劑及ビ臭劑ヲ併用スルヲ可トス

- 燐 〇・〇一 右毎日一回一茶匙
- 肝油 一〇〇・〇 臭劑 一、五乃至二、〇
- 燐 〇・〇一 留水 一〇〇・〇
- リパニン 一〇〇・〇 單舎 三〇、〇
- 右一日三回二日分服

カミルレ浸 (100)1000  
阿魏 100

右調和灌腸料(大人ニハ其二倍)

### 精液漏

*Spermatorrhoe.*

KYAPPAI

縮草浸 (50)1000  
阿魏 100

右調和灌腸料

(原因) 房事過度、手淫ニヨリ發シタル神經衰弱症、慢性淋疾、攝護腺炎等  
(診候) 乘車騎馬ノ際若クハ上圖便利ノ時ニ當リテ勃起及ビ快美ノ感ヲ發セズシテ精液漏出ス

(療法) 原因ヲ探リテ可及的之レヲ除キ凡テ陰部ノ刺戟ヲ避ケ冷水洗滌、灌漑浴、冷却消息子送入法等ヲ行ヒ晚餐ヲ節シ其食物ニハ無刺戟性ノ物ヲ擇ビ居室ノ通氣ヲ善クシ適宜ノ職業ヲ採ラシメ鐵劑、キニー子レノ如キ強壯劑ヲ與ヘテ全身症狀ニ注意スベシ

- アローム樟腦 〇・三 右研和分十包每朝夕一包
- 右爲一包與六包一日三回一包宛
- (澱粉囊ニ容レ用ユ)
- 樟腦 〇・二
- 忽布腺 一、〇 同越 各適宜
- 白糖 〇・一 又百倍ノ「アトロピン」溶液ヲ毎夕一滴
- 二、〇

精液漏 脊椎破裂 小兒脊髓麻痺

内服スルモ可ナリ  
 アロームカリウム 五・〇  
 右分二十包朝夕毎二包 四〇・〇  
 局所療法ニハ膀胱鏡或ハ「カテーテル」  
 ナ用井テ攝護腺部ヲ腐蝕スベシ〇消息  
 子療法モ亦効ヲ奏スルコトアリ

**脊椎破裂** Spina bifida. スナナムコメ

(原因) 胎生ノ發育不全ニ因ル  
 (診候) 脊椎ノ同一部兩側ニ開派シ其間ヨリ出ツル囊腫狀ノ腫脹アリテ内ニ透明ノ液ヲ含ム此症ニ罹レル生兒ハ扁平足臍足下肢ノ麻痺萎縮等ヲ兼テ身體ノ虛弱ナルモノナリ

(療後) 概テ不長  
 (療法) プラワツツ氏注射器若クハ之レニ類似ノ器械ヲ用井テ脊椎ノ缺損部ニ認ムル「ヘルニヤ形」ノ腫脹物ヨリ其内溶液ヲ吸吮シ而後繃帶ヲ施ス可シ或ハ防腐法ヲ極メテ嚴ニシ截除術ヲナスベシ

**小兒脊髄麻痺** Spinale Kinderlähmung.

スピナーレ、キンデルレームンク

(原因) 急性前脊髓灰白質炎ヲ見ヨ

**心臟痙攣** Stenocardia. (Angina pectoris.)

一名絞心症 ステンカルシア(アングナ、ペクタリス)

(原因) 痙攣質斯、大動脈瓣病、脂肪心、冠狀動脈病、暴酒、過煙、梅毒、子宮或ハ卵巣ノ疾病、ヒステリー等

(診候) 發作收縮性ノ胸部疼痛、肩胛、頸及上膊ニ波及シ胸窄ノ自覺症、苦悶、顔面失色、皮膚粘汗、手足厥冷、心動心音共ニ幽微トナリ脈搏ノ絶止スル等ニシテ夜間頓發スルヲ常トス或ハ心悸亢進ヲ起スモノ有リ

(療法) 喫煙、飲酒、過勞ヲ禁シ原因ヲ明カニシテ之ヲ療スヘキコト勿論ナリ而シテ發作ノ際ニハ酢水、芥子精、芥子油等ヲ塗布シタル布片ヲ用井テ心臟及ピ上肢ニ摩擦法ヲ行ヒ又皮膚ヲ刺戟シ其他或ハ「モルヒ」子皮下注射ヲ行ヒ脈小ナルトキハ同時ニ強葡萄酒ヲ與ヘ樟腦油ノ注射數筒ヲ用ユベシ脈強ナルトキハ併用スベカラズ或ハ鎮痙劑ヲ内服ニ供シ間歇時ニハ冷水洗滌ヲ行ヒ室内空氣ノ代謝ヲ善良ニシ勞働飲食及便通ニ注意シ神經性心悸亢進ニハ沸騰散或ハ糖水ヲ用井又豫防藥トシテ「ヨードナトリウム」ヲ内服セシムル等本病治則ノ一般ナリトス

鹽莫 一〇、〇  
 右半乃至二筒注射  
 亞硝酸アミール 五、〇  
 茴香油 一〇、〇  
 右調和三乃至九滴發作ノ際吸入  
 セシム  
 亞硝酸アミール 各〇、五  
 甘硝石精 各〇、五  
 右發作時毎五滴布片ニ滴下シテ  
 吸入セシム  
 磷酸コテイン 〇、五  
 鹽水 一〇、〇  
 石炭酸 〇、〇一  
 右調和皮下注射一乃至二筒  
 間歇時ニハ左方チ用ユ  
 硝酸グリセリンアルコホル (〇、三%) 二十滴

鹽水 二〇〇、〇  
 右一日三回每一食匙(注意ヲ要ス)  
 硝酸グリセリン 〇、〇一  
 蒲公英越及末 適宜  
 右二十丸ニ作り毎日一丸宛ヨリ  
 漸次増加シテ一日三丸宛トス  
 硝酸グリセリン錠 〇、〇〇五  
 右每日一錠ヨリ漸次増加シテ毎  
 日三錠ニ至ル  
 ヨードナトリウム 二、〇  
 鹽水 二〇、〇  
 右調和一日三回二日分服  
 プロームナトリウム 六、〇  
 苦丁 二、〇  
 鹽水 二〇〇、〇  
 右一日三回二日分服

### 潰瘍性口内炎

Stomatitis ulcerosa.

ストマチチス、  
ウルツエロシヤ

(原因) 水銀、鉛、銀、燐等ノ中毒、失荷兒陪偏蜜尿食物ノ不其其他傳染性流行性或ハ加答兒性ナルモノ有リ  
 (診候) 齒齦ノ疾病ニシテ其部ノ潮紅腫起ニ始マリ銀絲帶白黃灰色ノ軟泥ニ變ジ其剝脫面潰瘍トナル其他流涎、口内惡臭、便秘、口唇及頰部ノ浮腫、腺ノ腫脹等  
 (療法) イルリガイトルレチ用井テ極メテ能ク口腔チ屢々洗滌シ食物ニハ凡テ軟カナル物チ擇ビ又葡萄酒、牛乳等チ與フ但シ水銀中毒性ノ者ニハ汞劑チ止ム  
 クロール酸カリカム 五、〇  
 鹽水 五〇〇、〇  
 右調和含嗽用  
 サリチール酸 五、〇  
 鹽水 五〇〇、〇  
 右調和含嗽用  
 ナモール 〇、一五  
 安息香酸 三、〇  
 オイカリ丁 一五、〇  
 昇汞 〇、八  
 アルコホル 一〇〇、〇  
 薄荷油 〇、七五  
 右調和滴劑ニナシ一盞ノ水ニ滴注シテ其著シク潤濁スルチ度トナシ含嗽ニ用ユ(汞毒口内炎ニハ之チ忌ム)  
 過マンガン酸カリウム 二、〇  
 鹽水 五〇〇、〇  
 右調和含嗽用  
 阿片丁 五、〇

潰瘍性口内炎 甲状腺腫

五〇〇、〇

右調和含嗽用  
其他收斂藥ヲ含ミタル煎劑又ハ浸劑ヲ用ユルモ亦可ナリ  
ヲタニア丁

### 甲狀腺腫

Struma.

スターマ

五倍子丁 各五、〇

右調和齒齲塗布料  
菩提樹炭 一〇〇、〇  
右精細研和齒磨用  
其他齒痛及驅梅毒法ノ條ヲ參考スベシ

(原因) 地方性或ハ散在性ニ來ルモノニシテ瘴氣毒タル一種ノ么微生體ニ由ルナラシカ面シテ該體ハ飲用水ト共ニ人體中ニ侵入シテ殊ニ甲狀腺ノ充血ヲ起スモノナラン○本症ヲ多發スル地方ニハ「イザオート」ヲ合併スルコト屢々ナリ

(診候) 甲狀腺ノ增大ヲ呈スルモノニシテ單純肥大性甲狀腺腫、膠樣甲狀腺腫、囊狀甲狀腺腫、血管性甲狀腺腫、纖維樣甲狀腺腫ノ五種ヲ區別ス

(療法) 外科的手術ヲ行ヒ其一部ヲ剔出シテ治シ得ル場合ニ於テノミ良  
布シ又ヨードカリウム軟膏或ハ灰白軟膏ヲ塗擦シ而シテ「ヨード水」ノ内服又ハ電法ヲ行ヒ或ハ「ヨードカリウム」ヲ内服セシメ又ヨードフォルム琶布(グッセンパウエル氏)等用井テ効有リ○腕近胸腺或ハ胸腺錠又タ甲狀腺若

クハ甲狀腺錠劑ヲ用井テ其効ヲ奏シタルモノアリ宜シク之レヲ使用シテ可ナリ但シ甲狀腺錠劑ヲ用ユルトキハ心臟及ビ尿ニ注意スベシ

ヨードカリウム 一〇、〇  
苦丁 一五〇、〇  
右調和刀背ノ厚許ヲ綿布ニ攤シテ頸圍ニ貼シ醋酸礬土水ニ浸シタル壓定巾ヲ以テ其上ヲ捲ギ更ニ「ゴム」紙ヲ以テ被包スルナリ三乃至八週ノ間朝夕之ヲ交換スベシ

ヨードワゾーゲン 二〇、〇  
右塗擦料 一、〇  
ヨードフォルム 五、〇  
エーテル 九、〇  
オレーフ油 一、〇

右黑色瓶ニ貯ヘ每五日乃至每八日一乃至二筒注入料  
ヨードフォルム 一、〇  
エーテル 各七、〇  
グリセリン 各一〇、〇

無臭ヨードフォルム(トンカ豆ヲ用) 一五、〇  
ヨード 一、〇  
ヨードカリウム 一、〇  
グリセリン 二〇、〇  
右調和塗布料 各一〇、〇  
五倍子丁 各一〇、〇  
右調和塗布料 一五、〇

甲狀腺腫・汗疹 鬚瘡



右塗布料(時トシテ實質内ニ注射ス)

- ヨード 五、〇
- 純アルコホル 三〇、〇
- 右調和塗布料(強ヨード丁幾英藥局方)
- アリストール 〇、三

- カリ石鹼 三〇、〇
- エーテル
- アルコホル 各五、〇
- 右軟膏トシテ毎朝夕皮膚ニ塗布シブリススニツツ氏罷法ヲ其上ニ施シ毎朝軟膏ヲ洗去シ更ニ研酸ワセリンレチ塗擦ス可シ

### 汗疹

Sudamina. スダミナ

(原因)汗腺ノ分泌機能亢盛ニ係ル刺戟ニ由ル

(診候)汗發性ノ發疹ニシテ無色或ハ赤色一様ナラズ濕疹ニ陥ルコト多シ

(療法)澱粉、石松子末或ハ皓礬末等ヲ撒布ス其他ノ藥ハ無益ニシテ而シテ刺戟藥ノ如キハ却テ害アリ

### 癬瘡

Sykosis. シキosis

(原因)單純性ハ瘰癧ト同原因、寄生性ハ、トリヒョヒートン、トンプランス、ノ寄生

(診候)口圍及下顎部ニ發スル小瘡ニシテ結節狀ヲナス者及ビ膿疱ヲナス者アリ皆各一條ノ鬚ヲ通シ毛囊潰滅シテ其部禿トナル

(療法)先ヅ脂肪ヲ結痂ニ塗布シテ之ヲ軟和除去スルノ後石鹼或ハ石鹼精ヲ以テ洗フベシ且ツ毎日脚鬚或ハ拔鬚シテ其部ノ皮膚ニハ軟膏ヲ貼用ス可シ

- ヘアラ氏軟膏 一〇、〇
- 右刀背ノ厚許ニ、コリント布ニ攤シ夜間ニ貼用スベシ 五〇、〇
- 白降汞 各二五、〇
- ラノリン 一五、〇
- ワセリン 三〇、〇
- 右調和軟膏ニ作ル用法同上 一〇、〇
- 赤降汞 一〇、五
- 緩和軟膏 二〇、〇
- 右調和軟膏ニ作ル 各一七、五
- 又或ハワ井ルソン氏軟膏ヲ用ユ 五〇、〇
- 酸化亞鉛 各一七、五
- ワセリン 五〇、〇
- 右調和軟膏ニ作ル 五、〇
- レゾルチン 一〇、〇
- 白色ワセリン 五〇、〇
- 澱粉 各二五、〇
- 酸化亞鉛 右泥ニ作ル塗擦用一週二三回 三〇、〇
- ヘアラ氏軟膏 一〇、〇
- 水銀軟膏 右調和軟膏ニ作ル 一〇、〇
- タンニン酸 五、〇
- 硫黃乳 一〇、〇
- 酸化亞鉛 各一七、五
- 澱粉 五〇、〇
- ワセリン 右調和爲軟膏軟布ニ攤シ貼用 五、〇
- タンニン酸

硫黃乳  
酸化亞鉛  
澱粉  
ワセリン

一〇、〇  
各一七、五  
五〇、〇

右軟膏ニ作ル「リント布ニ攤シ  
貼用  
其他切開、焼灼或ハ針刺等ノ諸法モ亦  
行フテ効有リ

### 遺傳梅毒

Syphilis congenita. シンキス、ロングニタ

(原因) 實父或ハ生母等ヨリ梅毒遺傳(後天梅毒参照)

(診候) 全身薄弱、足蹠及肛圍赤色ニシテ光澤ヲ放チ、鼻孔充塞等ヲ主トシハツチン

(療法) 可成母乳ヲ與フ可シ極メテ滋養性ノ食物ヲ與ヘ殊ニ口腔、陰部及ビ肛門ノ

清潔ヲ專ラトシ局所療法全身療法共ニ充分ナラザル可カラズ其他傳染セザ  
ル様注意シ兼テ兩親ニモ亦適應ノ療養ヲ施スベシ

甘汞 二、〇  
白糖 一〇、〇  
第一沃汞 〇、二  
白糖 一〇、〇  
右十五包ニ分チ朝夕每二包

甘汞 〇、二  
含糖炭酸鐵 〇、五  
白糖 一〇、〇  
右研和散十五包ニ分チ朝夕每  
一包 〇、一  
昇汞 〇、一

縮水 一〇〇、〇

右調和每食後一小兒匙

一二歳ノ小兒ニ在テハ注意シテ時々左  
ノ軟膏塗擦法ヲ試ムベシ但シ持續ス可  
カラス

水銀軟膏 各二、〇  
緩和軟膏 右調和十分シテ五日間ニ用ユ  
(毎日二回)  
昇汞 五、〇  
硼砂 二、〇  
縮水 一〇〇、〇

右調和三浴ニ分用ス  
陰部、肛圍ニ發シタル皮膚剝脱性或ハ  
潰瘍性ノ膿疱ニハ左方チ處スベシ

昇汞 〇、一  
縮水 一〇、〇  
右調和塗布料  
口粘膜膿疱或ハ口角、鼻翼等ノ裂瘡ニ  
ハ灰白軟膏ヲ貼シ或ハ左方チ處スベシ  
赤降汞 〇、五  
緩和軟膏 一〇、〇  
右調和軟膏ニ作ル

### 後天梅毒

Syphilis acquisita. シンキス、アツクタイシータ

(原因) 明治三十八年シヤウヂシ氏ノ發見ノスヒロヘーテ、パルリダノ傳染ナリ  
(診候) 全身諸器臟ヲ侵シ千狀萬態ナルガ故ニ之ヲ畧ス  
(療法) 第一期梅毒 (イ) 梅毒性初期疾患(原發症)ノ療法

此期ニ於テハ可成其患部ノ切除ヲ賞用スベシト雖トモ之ヲ以テ第二期症候ノ發生ヲ果シテ防ギ得ルヤ否ヤハ豫言スルコト能ハザルナリ○此期ニ於テスル局處療法ハ二種ノ目的ニ出ヅル者ニシテ第一ニハ甚シク潰爛セントスル潰瘍面ヲ清潔ニシテ以テ其潰爛ヲ防ギ第二ニハ硬結ヲ吸收セシムルニ在リ而シテ第一ノ目的ニハヨードフォルム、赤降汞軟膏(赤降汞一、〇ワセリン二〇、〇)等ヲ用井第二ノ目的ニハ水銀硬膏、水銀硬膏ムル、水銀軟膏等ヲ用ユ其他ノ治則ハ硬性下疳ノ條下ヲ參照スベシ

(ロ) 全身療法

第一期ニ於テ全身水銀療法ヲ試ムルコトハ一定ノ場合ヲ除クノ他ハ適當ナラズ初則疾患ニシテ或ハ蔓延症、壞疽性、侵蝕性等ノ潰瘍ニ包莖若クハ嵌頓包莖ヲ合併セル者等ニ在テ水銀塗擦或ハ注射等ノ水銀療法ヲ行ヒ又著シキ硬性腺炎ニ在テハ沃鐵舍利別(沃鐵舍五〇、〇水一五〇、〇)毎日三食匙)ヨード肝油(ヨード〇、一肝油五〇、〇)毎日二乃至八茶匙)等ノヨード療法ヲ施スニ過ギズ而シテ傍ヲ安靜ヲ守ラシメヨード軟膏、ヨード、丁酸、水銀軟膏等ヲ其腺ニ塗擦シ或ハ水銀硬膏ヲ貼シ又タ兼ヌルニ有力ノ滋養食ヲ以テスベシ

(ハ) 攝生

此期ニ於ケル梅毒ノ攝生ニハ第二期ニ及テ被ムルベキ劇シキ發疹ノ侵襲ヲ豫防スルガ爲メ其最モ病毒ニ侵サレ易キ體部ノ療法ヲ施スニ在リ即口内炎、皮脂漏、頭髮

脱落、濕疹(殊ニ生殖器及肛門ニ於ケル)、足汗過多、齲齒、胃加答兒、常習便秘等其主ナル者ニシテ是等ノ療法ニ怠ルコトナク而シテ貧血家ニハ鐵、キニー子<sup>レ</sup>ノ内服ヲ用井鐵浴ヲ行ヒ又神經家ニハ緩性水治法ヲ施スヘシ

第二期梅毒

全身驅梅毒法

(甲) 水銀療法

第二期ニ在リテハ全身驅梅毒法トシテ專ラ強力ナル水銀療法ヲ開始スベシ水銀療法中最モ有力ナルモノハ塗擦法及注射法ノ二ナリ而シテ第一回ノ療法ヲ結了シタル後ハ往時ノ對症法ヨリモ概近行ハル、フールニエー氏ノ慢性間歇的療法ヲ用ユベシナイセル氏ハ該法中ニ主水銀療法ニ副水銀療法ナルモノヲ加ヘタリ

(イ) 塗擦療法

水銀軟膏

右爲一包蠟紙ニ包ミ與フ一日一包ツ、塗擦用

水銀レゾルピン

右同上

二、〇乃至五、〇

本療法ヲ施スニハ先ヅ患者ニ全身浴ヲ命ジテ皮膚ヲ清潔ニスベシ若シ全身浴ヲナシ能ハザルトキハ塗擦則該部ノ皮膚ヲ洗滌清潔ニシ而シテ一包ノ灰白軟膏ヲ開キ之レヲ手掌上ニ取リテ塗擦部ニ塗リ輕ク且ツ徐々ニ二十五分乃至二十分間塗擦シ次ニ綿花ヲ以テ該部ヲ蔽ヒ繙帶ヲ施ス翌日ニ至レバ繙帶ヲ除キ該部ヲ洗滌シ更ラニ

他部ニ塗擦ス此ノ如ク治療ヲ加フルコト第一日ヨリ第六日ニ達ス第七日ニハ塗擦  
ヲ休ミ必ズ全身浴ヲサシム之レヲ療法ノ一週ト稱ス患者ヲシテ自ラ塗擦セシム  
ルニハ左ノ順序ニ從フベシ

第一日 灰白軟膏ヲ右手ノ掌面ニ採リ之ヲ左肩ヨリ左ノ前膊ノ中央ニ至ル迄  
ノ部分ニ輕ク塗擦スルコト十五分乃至二十分間ナルベシ塗擦後右手  
ヲ洗滌スベシ

第二日 灰白軟膏ヲ左手ノ掌面ニ採リ右肩胛部ヨリ右前膊ノ部ニ至ルマテ塗  
擦スルコト第一日ノ如シ

第三日 第一日ノ如ク右手掌面ニ水銀軟膏ヲ採リ左大腿ニ塗擦スベシ

第四日 第一日ノ如ク水銀軟膏ヲ採リテ右大腿ニ塗擦スベシ

第五日 第一日ノ如ク水銀軟膏ヲ採リ左下腿ニ塗擦スベシ

第六日 第一日ノ如ク水銀軟膏ヲ採リ右下腿ニ塗擦スベシ

第七日 塗擦ヲ休止シ全身浴ヲ命ズ

第八日 ヨリ更ラニ同一ノ順序ヲ以テ塗擦ヲ反覆スベシ塗擦ノ回数ハ奏効ノ  
如何ニ從フモノニシテ素ヨリ豫メ之レヲ一定シ難シト雖ドモ通常癩  
狀微毒疹ハ二十回乃至三十回ノ塗擦ヲ要シ膿疱性微毒疹、潰瘍性微  
毒疹、護膜腫性微毒疹、骨及内臓ノ微毒等ニハ尙ホ其以上ノ塗擦ヲ要  
ス通常五週即チ三十回ノ塗擦ヲナスベシ而シテ尙ホ奏効ナキトキハ

其以上此法ヲ持續スベシ  
(ロ) 注射療法

注射ニ供スル汞劑中不溶性性ノモノアリ溶解性ノモノアリ不溶性性ノモノハ一週  
一回之レヲ注射シ溶解性ノモノハ日々之レヲ注射ス甲ニ屬スルモノハ「サリチー  
ル酸水銀等ニシテ乙ニ屬スルモノハ昇汞等ナリ

サリチール酸水銀

流動バラヒン

右注射料(一週一筒宛)

主水銀療法トシテ撒酸汞ヲ用ユルトキ

ハ八回乃至十回ノ注射ヲ以テスベシ

昇汞

(ハ) 内服療法

内服ニ供スル汞劑ノ處方左ノ如シ

タンニン酸水銀

甘草養及末

丸乃至二丸宛

タンニン酸水銀

クロールナトリウム

縮水

右皮下注射料(毎日一回一筒宛)

主水銀療法トシテハ三十回乃至四十回  
ノ注射ヲ要ス

阿片

甘草養及末

右爲百丸一日三回食後一丸乃至

二丸宛

サリチール酸汞

五、〇

甘草末 各適宜  
 龍膽越 右爲六十九丸一日三回每食後一丸  
 宛  
 黃色ヨード素 〇、六乃至三、〇  
 甘草養及末 各適宜  
 右爲六十九丸一日三回每食後一丸

昇汞 宛 〇、一二  
 クロールナトリウム 一、〇  
 甘草養及末 各一、〇  
 右爲三十九丸一日三回每食後一丸  
 宛

凡テ水銀劑ノ療法ニハ其内服、塗擦或ハ皮下注射ニ論ナク特ニ口内ノ攝生ニ注意シテ口粘膜ヲ刺戟スル飲食物ヲ禁ジ喫烟ヲ斷チ而シテ「クロール酸カリウム、過マンガン酸カリウム、石炭酸及サリチール酸等ノ含嗽劑又五倍子丁酸、ラタニア丁酸等ノ塗布及清涼齒磨粉ヲ用ユベシ尙ホ口内炎ノ條下ニ就テ治則ヲ參考スル所有ルベシ」○其他住所空氣及飲食ノ攝生ニモ亦注意ヲ加ヘ空氣ヲ新鮮ニシテ軟和ナル者ヲ擇ビ居所ハ之ヲ清潔ニシテ適宜ノ運動ヲ營ミ精神ヲ安逸ニシ滋養無刺戟性ノ食物ヲ與ヘザル可カラズ○要スルニ水銀療法ハ梅毒ノ諸症候消失後モ尙ホ聊カ持續スルヲ可トス故ニ其療養凡ソ四乃至六週間ノ久キニ測ルベシ

(乙) ヨード療法  
 水銀ニ亞テ有効ナルモノハ「ヨード劑ナリ而シテ第二期ニアリテハ發熱、頭痛及ビ骨關節神經ニ發スル微毒性疾患ヲ療スルトキニ用ユ

沃剝 二、〇  
 苦丁 三、〇  
 縮水 二〇〇、〇  
 右一日六回二分服  
 沃剝 二、〇乃至一〇、〇  
 縮水 二〇〇、〇  
 右一日三回每食後二分服  
 沃剝 一〇、〇  
 甘草蒸 三、〇  
 アルテア末 一、〇  
 ゴム漿 適宜  
 右爲三十九丸一日三回一丸乃至二

沃剝 丸宛 三、〇  
 龍膽末及越 各適宜  
 右爲六十九丸一日三回五乃至一〇丸宛  
 二五%ヨザピン 二〇〇、〇  
 右毎日二十立方仙迷臂部注入  
 (十日間持續スベシ)  
 一〇%ヨザピン 一〇〇、〇  
 薄荷油 三滴  
 右一日三回一茶匙宛

梅毒ノ難症即チ膿疱性發疱或ハ初期既ニ早ク潰瘍トナル發疹及増悪ノ疾速ナル症ニ在テハ強壯療法ヲ主トシ砒石劑、鐵劑、窒篤滿氏煎ノ内服等ヲ用ユベシ若シ重症ニ於ケルガ如ク全身療法ヲ必要ナリトシテ水銀療法ヲ行フ時ニ在テハ注意シテ其少量ヲ用井且同時ニ強壯療法ヲ施サバ爾可カラズ又既ニ危險症ヲ呈スル者ニハ水銀及ヨードレヲ前後ニ換用スルコトナク兩ナガラ同時ニ應用ス可シ然レハ經過中若シ水銀内服ノ爲メニ胃加答兒ヲ併發スルトキハ頗ル危險ナル者ナルヲ以テ水銀

後天梅毒

ノ後用ヲ廢セザル可カラズ是故ニ水銀療法ハ一般ニ第一年第二年ニ於テ四乃至六  
ヶ月ノ休藥時ヲ以テ行ヒ且同時或ハ次テヨード療法ヲ行フヲ宜シトス

○第三期梅毒

此期ニ於テスル梅毒療法モ亦タ第二期ノ如ク水銀及ヨードヲ用ユヨード劑ハ特  
ニ第三期ニ於テ其効著明ナリ然レモヨード劑ニテ治シタルモト雖モ必ズ之レニ  
次クニ水銀療法ヲ以テスベシ危險ナル場合ニハ水銀及ヨードト同時ニ應用シテ  
其多量ヲ用ヰズ只之ヲ持續シ而シテ二三ヶ月休藥後假令新ニ諸症候ヲ發スルコトナ  
キモ尙一二回同療法ヲ反覆スベシ其他局所療法ニハ外科的療法ヲ要スルコトアリ

脊髄癆

Tabes dorsalis. マーヌ、トルザリス

(原因) 專ラ梅毒其他房事過度、濕冷地上ノ坐臥、下半身勞力過度、心身過勞、急性傳  
染病、外傷、參角中毒、遺傳等ニ因スル脊髄後索ノ變質ナリ○三十年ヨリ五  
十年ノ男子ニ多シ

(診候) 第一期、神經痛期)ニ在リテハ下肢ノ錐穿樣電痛、腰背絞窄、膝膝腱反射消失  
ウエストフアール氏徵候)、瞳孔不變等ニ始マリ次テ第二期(運動不整期)ト  
ナリ歩行困難、揚脚躓歩、直身閉眼體振(ロンベルグ氏徵候)、觸感及痛覺ノ  
減退、利尿失禁、膀胱炎等ノ症候ヲ來タシ終ニ第三期(載癱期トナリ下肢ノ  
麻痺、陰萎、呼吸困難、腎痛等ヲ起シ漸々衰弱スルモノナリ  
(豫後) 概テ不良ナリ經過ハ數年乃至十年

(療法) 徵毒ノ徵候或ハ疑アルモノニハ必ズ驅徵法ヲ施ス可シ其他初期ヨリ得ニ就  
カシメ毫モ心身ヲ勞セシメズ内服ニハヨード劑ヲ與ヘ又溫浴、電氣療法  
(平流電氣ヲ用ヰ脊椎部ノ上方ニハ積極、下方ニハ消極、毎二日一回五分間)  
按摩法代償性練習法等ヲ用ヰテ効アリ疼痛ニハ麻醉劑ヲ與フ可シ

- 水銀軟膏 五、〇
- ヨードカリウム 三、〇乃至六、〇
- 苦丁 三、〇
- 白陶土 一、〇、〇
- 樟腦 一、〇
- 白糖 二、〇
- 右二分トナシ塗擦料二日分
- 右一日三回每食後二日分服
- アロームカリウム 五、〇
- 縮水 一五〇、〇
- 單舍 一五、〇
- 右調和一日三回每一食匙(殊ニ神經質家ニ用ユ)
- 法水 五、〇
- 桂皮水 二五、〇
- 右調和朝夕二回每十乃至二十滴

絛蟲

Taenia. ティン

(原因) 蛙、蟬(擴節裂頭絛蟲)牛肉(無鈎絛蟲)豚肉(有鈎絛蟲)ノ本病ノ囊蟲ヲ含有

セル者ヲ生食或ハ半熟食スルヨリ該蟲ノ腸内ニ寄生スルニ由ル而シテ本邦ニ見ルトコロノ織蟲ハ過半擴節裂頭織蟲ナリ

(診候) 食思缺乏、惡心、嘔吐、疝痛、流涎、鼻痒、瞳孔散大、心悸亢進、下痢或ハ便秘、耳鳴等ノ諸現症ナリトス

(療法) 豫防法最モ必要ナリ、驅蟲療法ハ織蟲片節ノ排出ニヨリテ其腸内ニ存スルノ確診ヲ得タル者ニ行フ可シ故ニ唯單ニ患者ノ訴フルトコロニ據リテ之ヲ行フ可カラズ必ズ先ツ其片節ヲ見ルヲ要ス驅蟲療法ハ一ノ攻撃的療法ナルヲ以テ患者ノ衰弱セルモノ肺癆アルモノ虛弱ナル小兒老人及妊婦等ニ向テハ之ヲ施スヲ得ズ驅蟲ノ方種々アリ次ニ述ブル所ノ二方ハベル博士ノ方法ニ據ルモノニシテ先ツ蓖麻子油一食匙ヲ與ヘ一日間米飯及麥飯ヲ禁ジ鹹味或ハ酸味ノ食物ノミヲ食セシメ水若クハ日本酒ヲ飲用セシメ翌朝驅蟲劑ヲ用ユベシ

(甲) 一日間豫備ヲナシタル後早朝〇、五乃至五、〇ノ綿馬越ヲ頓服セシメ三時間ノ後、カル、ス泉鹽又ハ複方「センナ」浸ヲ與フベシ  
幼稚若クハ虛弱ナル小兒ニハ驅蟲法ヲ行フベカラズ〇稍々年長ノ小兒ニシテ體質佳良下痢ノ弊習ナキ者ニハ左ノ藥劑ヲ用ユルモ妨ゲナシ而シテ其前夜先ヅ便ヲ軟ケルガ爲メ唯稀薄ノ肉羹汁ノミヲ與ヘ翌朝服藥後モ尙之ヲ用ユ可シ若シ其藥劑ヲ吐スルトキハ更ニ同藥ヲ内服セシムルヲ宜シトス

綿馬越 五、〇

右丸トシテ或ハ膠囊ニ入レ頓用

複方「センナ」浸 三〇、〇

右頓用

カル、ス泉鹽 一五、〇

右一盞ノ水ニテ用ユ

(乙) 豫備前方ノ如クニシテ左方ヲ用ユ

新鮮柘榴根皮 六〇、〇

ヲ五〇〇、〇ノ冷水ニ浸ス、廿

四時間ノ後煮沸シテ二〇〇、〇

トナセルモノニ

綿馬越 三〇、〇

右二分シ三十分時ヲ隔テ、用井

タル後蓖麻子油ヲ用ユ

蓖麻子油 二〇、〇

右頓用(以上乙方)

柘榴根皮 五〇、〇

重曹 五、〇

之ヲ四〇〇、〇ノ水ニ浸シ二十四時間放置シ後煮沸シテ其量二〇〇、〇ト爲シ之ニ綿馬越幾斯五、〇ト橙皮舍二〇、〇ヲ加フ

右全量ヲ一乃至一時間半内ニ於テ三回ニ分服セシム

柘榴根皮 五〇、〇

重曹 五、〇

二十四時間許四〇〇、〇ノ水ニ浸出シ煮沸シテ其量二〇〇、〇ト作シ之ニ「マンナ」舍

利別二〇、〇ヲ加フ

右全量ヲ每半時間ヲ以テ三回ニ分服セシム

又柘榴根皮ハ其味不佳ナルガ故ニ患者若シ之ニ堪ヘザルトキハ先ヅ食道内ニ消息子ヲ送りテ一回ニ注入スルヲ可ト

圖六十四第



圖ノ蟲織頭節擴裂

擴節裂頭織蟲ハ人體寄生蟲ノ最大ナル者ニシテ其長キモノハ九「メートル」ニ達ス頭ハ扁平橢圓形ニシテ兩面ニ深キ吸溝ヲ有シ頭ハ長クシテ細キコト絲ノ如シ而シテ片節ノ多キ三百乃至千二百ヲ算ス本圖ハ其各節ノ自然大ヲ示スモノナリ

ス此際ニ患者ヲシテ前一日間其食ヲ斷  
タシメ且ツ下劑ヲ投ジテ腸ノ内容物ヲ  
排除ス可シ

蜂蜜  
コソ花末

右調和砥劑ニ作り一時間以内ニ  
適宜

於テ二回ニ分服セシム

綿馬越

柘榴根皮越

ヤイラツバ末

右研和丸七十粒ニ作り先ヅ其十  
五乃至二十粒ヲ前斷食日ニ服セ

各一〇、〇

三、〇

五五〇

圖七十四第



蟲織鈎無

シメ次日ニ至リ二三時間以内ニ  
其殘餘ヲ服盡セシム(ベツテル  
ハイム氏法)

下劑ヲ要スル場合ニハ左方ヲ處スベシ  
維也納下劑

右瀉腸料

カマラ末

綿馬越

右膠囊三十個ニ分包シ每十五分

時一囊ヲ與フ

カマラ末

右散五包ニ分チ每十五分時一包

コソ花越

コソ花末

右研和丸二十粒ニ作り每十五分

アカシヤ皮

時四粒

右茶劑トナシ食前三乃至四時間

二〇、〇

一〇、〇

適宜

四〇、〇

五五〇

織蟲

五五二



内服(チール氏)

ハツ油

一滴

クロロフォルム

三〇、〇

グリセリン

三〇、〇

右調和用法同上

硫酸ハレチエリン

〇、三

タンニン酸

〇、五

餾水

三〇、〇

右調和内服

小兒ニハ左方ヲ處ス

柘榴根皮越

二、〇

薄荷舎

一〇、〇

蜂蜜

適宜

右調和紙劑ニ作り一日三回分服

コソ花及同葉末

一〇、〇

精製蜂蜜

二五、〇

右調和同上

綿馬越

一、〇

蜂蜜

適宜

右調和同上

又或ハ前段ニ掲ゲタル大人用藥劑ヲ減量シテ小兒ニ應用スルコトアリ

### 破傷風

Tetanus

チタヌス

強直症

(原因)千八百八十九年醫學博士北里柴三郎氏ノ證明セラレタル破傷風「バチルレン」ナリ

(診候)眼瞼破裂縮小、外背舉上、開口困難ヲ發シ咀嚼筋強直性攣縮ニ罹レルヲ認ム(牙關緊急)後更ニ項背諸筋ノ痙攣ヲ續發シ(角弓反張)終ニ軀幹及ビ四肢ノ筋ニ及ブ知覺過敏反射機能甚シク亢盛、體溫四十度及ビ其以上ニ達スルコトアリ

トアリ

(豫後)重症ハ不良輕症ヲ治スルコトアルモ常ニ疑

(療法)病室ヲ安靜ニシ其溫度ハ可成的之レヲ冷カニ平等ニ保タシメ疼痛ニハ麻醉劑(皮下注射ヲ最良トス)「クロロフォルム」ノ吸入ニ兼テ抱水「クロラール」

及ビ「モルヒネ」ノ内服(常ニ輕眠ヲ來ス)等用非テ効有リ〇創傷ハ可及的之

レヲ除去スベシ〇牙關緊急ニハ麻醉劑ヲ用非併セテ人工營養ヲ施サザル可

カラズ〇熱湯壓定巾(攝氏五十乃至五十五度)ヲ後頭及脊椎ニ貼シ或ハ之ニ

反シテ代フルニ冷水壓定巾ヲ以テスルモ亦可ナリ〇近年破傷風血清療法ヲ

用ユ、其用法ハ血清ニ添ヘルトコロノ用法書ニ詳ナリ

抱水クロラール

二、〇

橙皮舎

二〇、〇

餾水

各五〇、〇

右調和十五分時一食匙

アラビアゴム漿

各五〇、〇

臭剝

一〇、〇乃至二〇、〇

右調和灌腸用

抱水クロラール

五、〇

餾水

二〇〇、〇

餾水

一〇〇、〇

右調和一日三回一食匙一盞ノ水

### 旋毛蟲

Trichinen

トリチネン

(原因)「トリチネナスピラリリス」ト名クル蟲ヲ含ム肉類殊ニ家畜ノ肉ヲ食用シタ

破傷風 旋毛蟲

ルニ由ルモノ多シ

(診候) 食思缺乏、胃部壓重、虎列拉様下痢、嘔吐、發熱等ニ始マリ次テ腹圍内部ノ穿

旋毛蟲ノ圖

テ三〇、ミリメートル中央上方ハ幼蟲其下方ハ筋肉内ニ

施毛蟲ノ舍ルチ示ス

圖八十四第



(譯後) 輕症ハ良、重症ハ不良  
刺性刺痛、或ハ痲痺質斯様筋痛、發汗、眼瞼浮腫、呼吸困難、不眠、煩渴、心悸  
亢進等ヲ來タスモノナリ

(療法) 施毛蟲ノ尙ホ胃腸内ニ在ル者ニハ胃ノ洗滌ヲ行ヒ或ハ下劑ヲ投ズ可シ而後  
ノ療法ハ對症的ニシテ蓖麻子油、甘汞等緩下劑ヲ用ユルニ過ギス○重症ニ  
シテ弛張熱ヲ呈シ安眠ヲ得ザル者ニハ先ヅ溫浴ヲ取ラシメ毎夕「モルヒ子」  
ヲ與ヘ且ツ晝夜共ニ褥中ニ安臥セシメ解熱劑ニハ「サリチール」酸ヲ用井テ  
効アリ○豫防ニハ生豚肉ヲ食スルヲ禁ズ

- 甘汞 〇、二 縮水 一八〇、〇
- ヤーラツバ末 各一、二 右振盪シ一日數回二日分服
- 白糖 右半量乃至全量 疼痛甚ダシキトキハ左方
- ベントオール 一〇、〇 鹽莫 〇、二
- ゴム漿 各三〇、〇 縮水 一〇、〇
- 薄荷水 各三〇、〇 右半筒乃至一筒

肺結核、喉頭結核

Tuberculosis pulmonum et  
Laryngis. ツツムクローシス、ブルモーム

(原因) 結核「パチルス」ノ傳染トリ(着色圖ヲ看ヨ)

(診候) 頑固性ノ咳嗽、膿球、血液、結核菌及彈力性纖維ヲ含メル咯痰、肺ノ水泡音、  
聲音震顫ノ強盛、咯血、胸壁陷沒、鼓濁音、空洞音、續性音、盜汗、下痢、食思欠

旋毛蟲 肺結核、喉頭結核

損、日哺潮熱、肌膚蒼白、全身削衰等  
喉頭ニ發スレバ嘶嘎及ヒ喉頭痛等ヲ兼マルモノナリ

(療法) 新鮮善良ノ空氣中ニ住居セシメ冬季ニハ南方ニ轉地療法ヲ行フ假令熱候アルモ敢テ旅行ヲ妨グズ然レドモ若シ既ニシテ肺ニ空洞ヲ生ジタル者ハ轉地療法ハ却テ害アリ○本症ノ治則中實用スル所ノ者ハ「ゲアヤコール」  
「クレオソート」  
「オソート」  
其他熱候微弱ニシテ咯痰多量ナル者ニ寒暖ノ變化甚シカラザル高燥轉地ノ療法ヲ行ハシメ又咯血ノ傾向有リテ日哺潮熱シ且乾咳等ノ症候アル者ニハ暖濕溫和海濱ノ轉地療養ヲ行ハシムル等良法ナリトス要スルニ夏ハ山地ニ轉ジ或ハ終始善良ナル空氣ヲ求メ滋養食、肝油、セルテルス、水、牛乳等ヲ與ヘ解熱法ヲ力メ鎮咳劑ヲ與ヘ無熱時ニハ極メテ滋養性ノ食物ヲ與ヘ鐵劑(注意ヲ要ス)ヲ用井或ハ肺ノ運動ヲ鼓舞シ或ハ冷水ヲ用井皮膚ノ價寒ヲ養成シ又乳精療法或ハ葡萄酒療法ヲ行フ等肺勞治則ノ一般ナリトス○喉頭ノ結核性潰瘍ニハ腐蝕ヲ禁ズ又咳嗽、嚔下困難、輕度ノ呼吸困難等ハ「モルヒネ」ノ吸入或ハ「ヨカイ」ノ塗布(喉頭鏡ニ依リ)ヲ用井之ヲ鎮靜スルコトヲ得ベシ輕症ナル者ハ明礬、タンニン酸等ノ吸入ヲ用ユ其他對症療法ヲ施スニ過ギズ然レドモ病勢進シテ喉頭ノ狹窄セルガ爲ニ呼吸困難ヲ來セル者ニハ氣管切開術ヲ行フヘシ

圖九十四第



痰咯ム含ヲ菌核結

小兒ニハ其始メ母乳ノミヲ與ヘ後ニ至リテ適當ノ食物ヲ給スルヲ宜トシ然レトモ澱粉性ノ食物ハ之ヲ多量ニ與フ可カラズ

- クレオソート 〇、一
- オレオソート 〇、二
- 右一膠囊ニ入レ六個ヲ與フ一日
- 三回每一個宛
- クレオソート 〇、一
- 黄蠟 〇、〇、五

肺結核、喉頭結核

- 白蠟 〇、一五
- 右二丸トナシ十二丸ヲ與フ一日
- 三回二丸宛
- クレオソート 一、〇乃至二、〇
- 肝油 一五〇、〇
- 右一或ハ二茶匙毎食前内服(「ア」  
「シヤール」氏)
- クレオソート 各一〇、〇
- 假性マア子シウム
- アルテア根 各一〇、〇
- 右ニ少量ノ「グリセリン」ヲ加ヘ
- テ百丸ヲ製シ毎食後二丸宛服用
- 漸次増量
- クレオソート 一、〇
- オレオソート 九、〇
- 鹽酸ニコイ 〇、〇、一

五五七

右皮下注射料 (此油劑ハ豫メ殺菌ス可シ)  
 クレオソート 一三、五  
 龍膽丁 三〇、〇  
 酒精 一五〇、〇  
 マラセン酒 適宜  
 (全量一〇〇〇、〇トナス)  
 右調和毎日二或ハ三回一食匙チ一盞ノ水ニ加ヘテ食時ニ用ユ  
 (ギンテルト氏、ブーシヤール氏、クレオソート 一、〇  
 龍膽丁 二、五  
 酒精 二五、〇  
 セリ酒 適宜  
 (全量一〇〇、〇トナス)  
 右調和一日三回或ハ二回一茶匙チ半盞ノ水ニ和シテ用ユ (フレンツェル氏)

クレオソート 〇、〇五  
 トルーバルサム 〇、二  
 右調和一膠囊ニ包ム百個チ作り與フ  
 初日二箇爾來八日間三箇宛第二週ニハ二箇第四週ニハ六個宛チ與フ) 二ヶ月以上連用但シ食後ニ服用ス可シ)  
 一五、〇  
 肝油 右臨臥時頓服  
 クレオソート 二、五  
 肝油 二〇〇、〇  
 サツカリン 〇、一  
 右調和一日二三回每一食匙  
 クレオソート 二、〇乃至三、〇  
 亞砒酸ナトリウム 〇、〇四  
 マラセン酒 五〇〇、〇  
 右調和每食時二小盞

カコザール酸 〇、五  
 鹽酸コカイン 〇、〇三  
 クレオソート 五滴  
 重曹 〇、三  
 留水 一〇〇、〇  
 右皮下注射料五分ノ一筒ヨリ漸次一筒ニ至リ一週休藥ス  
 クレオソート 六滴  
 グリセリン 三〇、〇  
 フルメント精 六〇、〇  
 右調和每三時一食匙チ水ニ加ヘ用ユ  
 クレオソート 二、〇乃至四、〇  
 甘扁桃油 二五、〇  
 卵黃 一個  
 留水 二〇〇、〇  
 右乳劑トナシ灌腸料 (先ヅ洗滌灌腸チ行ヒ後本劑チ用ユ數週間

毎夕之チ施ス)  
 クレオソート 四滴  
 ヨードフォルム 一、〇  
 オイカリ油 八滴  
 クロ、フォルム 四十八滴  
 アルコホル 各一五、〇  
 エーテル 右調和吸入料  
 グアヤコール 一三、五  
 龍膽丁 三〇、〇  
 酒精 二〇〇、〇  
 セリ酒 適宜  
 (全量一〇〇〇、〇トナス)  
 右調和一日二或ハ三回一食匙宛一盞ノ水ニ和シテ用ユ (フレンツェル氏)  
 炭酸グアヤコール 一、〇  
 乳糖 二、〇

右爲六包一日三回一包宛  
 グアヤコール 一、〇乃至二、〇  
 鹽水 一八〇、〇  
 酒精 二〇、〇  
 右調和黑色壘ニ入レ毎日二或ハ  
 三回一茶匙乃至一食匙食後一盞  
 ノ水ニ和シテ用ユ  
 チオコール 五、〇  
 橙皮舍 二〇、〇  
 鹽水 一二〇、〇  
 右一日三回乃至一食匙  
 チオコール 五、〇  
 右十包ニ分チ一日三回乃至六回  
 一食匙  
 レロリン 一〇〇、〇  
 右毎日三回一茶匙宛  
 發熱アルモノニハ左方チ處ス  
 ピラミドン 一、〇

乳糖 二、〇  
 右三包ニ分チ一日三回二日分服  
 撒曹 二、〇乃至三、〇  
 右爲一包オブライトレニ包ミ早  
 朝無熱ノ時ニ頓用  
 アンチピリン 五、〇  
 右五包ニ分チ毎日一乃至三包  
 アンチヘブリン 各二、〇  
 白糖 右十包ニ分チ每夕一乃至二包  
 硫規 一、〇  
 白糖 五、〇  
 右十包ニ分チ一日三回每一包宛  
 硫規 一、〇  
 鹽莫 〇、〇五  
 重曹 二、〇  
 白糖 二、〇  
 右十包ニ分チ一日三回每一包

硫規 一、〇  
 ナギ末 〇、一  
 吐根末 各〇、五  
 阿片 適宜  
 甘草越 右研和丸五十粒ニ作リ一日三回  
 每一粒(日哺潮熱ニ用ユ)  
 咳嗽アル者ニハ左方チ處シテ効アリ  
 磷酸コテイン 〇、三  
 コンニヤツク酒 一〇、〇  
 單舍 九〇、〇  
 右一日三回乃至六回一茶匙宛  
 磷酸コテイン 〇、三  
 杏仁水 一〇、〇  
 右一日三回十乃至二十滴宛  
 ヒヨス越 〇、五  
 白糖 五、〇  
 右十五包ニ分チ一日三回每一包

ヒヨス越 〇、三  
 杏仁水 各五、〇  
 鹽水 右十五滴一盞ノ水ニ加ヘ咳嗽頻  
 發時ニ頓用  
 鹽莫 〇、〇三  
 杏仁水 一〇、〇  
 右十五滴宛咳嗽時一盞ノ水ニ和  
 シ頓用  
 ヘロイン 〇、〇五  
 乳糖 〇、〇五  
 右爲一包與六包咳嗽甚ダシトキ  
 ガオニン 一包宛 〇、〇一  
 乳糖 〇、〇五  
 右爲一包與六包同上  
 印度大麻越 〇、五  
 白糖 五、〇

肺結核 喉頭結核

右研和散十包二分ヲ朝夕每一包  
 杏仁水 各一〇、〇  
 アンモニア茴香精 〇、一  
 鹽莫 二、〇  
 甘草羔 右調和毎二時十乃至十五滴  
 〇、三  
 荳蔻越 二、五  
 アンモニア茴香精 一五、〇  
 縮水 右調和毎三時十滴乃至十五滴  
 咯痰ノ甚ダ多量ナルモノニハ左方  
 ヘルバルサム 二、〇  
 再縮テレピンテ油 二、〇  
 右一日三回毎十滴水ニ和シテ用  
 ユ  
 テレピンテ油 五滴  
 薄荷油 一滴  
 右膠囊ニ入レ一日三乃至五個

不眠症ニハ  
 ブルフホナール 二、〇乃至四、〇  
 右分四包臨臥前ニ用ユ  
 パラアルデヒド 二、〇乃至四、〇  
 ゴム漿 六〇、〇  
 單舎 三〇、〇  
 右調和頓服(催眠藥)  
 發汗アルモノニハ左方ヲ處ス可シ  
 硫酸アトロピン 〇、〇五  
 縮水 二〇、〇  
 右十乃至三十滴臨臥前ニ用ユ  
 硫酸アトロピン 〇、〇二  
 甘草末及同越 適宜  
 右二十粒ニ作り毎夕一或ハ二粒  
 カンフル酸 〇、七  
 右頓用  
 咯血アルトキハ安靜ヲ命ジ發言ヲ禁ジ  
 咳嗽ヲ鎮靜シ強芥子泥發泡硬膏等ヲ貼

肺結核 喉頭結核

シ出血ノ肺尖若クハ其淺表ニ在ルコト  
 明カナル時ニ限リ其部ニ氷囊ヲ貼ス然  
 レドモ咯血止ミタルト同時ニ氷囊法ハ  
 廢セザル可ラズ其他診察ノ際強打診ヲ  
 避ケ麻酔鎮咳劑ノ他止血藥トシテ左方  
 ナ處ス近年又タ「ゲラチン」ヲ用ユ(咯  
 血ノ條下參照)

麥角浸 (六、〇)二〇〇、〇  
 右一日六回二日分服  
 麥角越 二、五  
 甘草末 各適宜  
 甘草羔 右五十九丸ニ作り一日五乃至十九  
 麥角越 二、〇  
 縮水 一〇、〇  
 石炭酸 〇、一  
 右半筒乃至一筒皮下注入料  
 ヒドラスチス流動越

十五乃至二十滴  
 右一日三回水ニ和シテ用ユ  
 醋酸鉛 〇、〇三乃至〇、〇五  
 白糖 五、〇  
 右爲一包與三包一日三回一包宛  
 下痢ヲ發シタルトキハ左方ヲ處ス可シ  
 阿片 〇、一  
 タンニン酸 一、〇  
 コロンホ末 二、〇  
 右研和散十包二分ヲ毎時一包  
 コロンホ煎 (二〇、〇)二〇〇、〇  
 サレツプ漿 一〇、〇  
 水製阿片越 一〇、一  
 橙皮舎 二〇、〇  
 右調和毎二時一食匙  
 ドーフル散 一、〇乃至一、五  
 右爲三包一日三回一包宛  
 デルマトール 五、〇

右分十包一日四乃至八包  
 チオホルム 〇、一五  
 阿片末 〇、〇二五  
 タンニン酸 〇、一  
 右爲一包與六包一日二回一包宛  
 貧血症ニハ  
 林檎酸鐵丁 各一五、〇  
 苦丁 各一五、〇  
 右調和毎日半乃至一茶匙  
 林檎酸鐵丁 三〇、〇  
 橙皮舍 一〇、〇  
 右調和毎日三回一茶匙宛水或ハ  
 酒ニ和シテ用ユ  
 林檎酸鐵越 五、〇  
 蒲公英越 適宜  
 右五十粒ニ作り朝夕毎二粒  
 沃鐵舍 一〇、〇  
 橙皮舍 二〇、〇

右調和朝夕每一茶匙  
 肝油 一〇〇、〇  
 右朝夕每一食匙  
 喉頭潰瘍ノ局處療法ニハ左方  
 鹽酸コカイン 〇、二乃至〇、五  
 グリセリン 各五、〇  
 鹽水 〇、二  
 職莫 各五、〇  
 右調和塗布料  
 鹽酸コカイン 〇、二乃至〇、五  
 鉛糖 二、〇  
 白糖 八、〇  
 右研和吹入料  
 鹽酸コカイン 〇、二乃至〇、五  
 次硝酸蒼鉛 各五、〇  
 白糖 各五、〇  
 右研和吹入料  
 鹽酸コカイン 〇、三

石炭酸 〇、〇五  
 醋水 二、〇  
 右調和吹入料  
 木タルー水 一〇、〇

**白腫** Tumor albus.

右吹入料  
 其他蒸氣吸入モ亦有効ナリ然レドモ略  
 血アル者ニハ行フ可カラズ

(原因) 腺病質ノ人殊ニ兒童ニ於テ膀胱關節、膝關節、足關節等ノ肉芽性炎症ナリ結核  
 パチルレンニ胚胎ス  
 患部ノ慢性ナル腫起失色疼痛、多少ノ發熱、患部ノ化膿瘻孔、關節強直等ノ  
 諸症ニシテ全身症狀ハ腺病質ノ特徴ナリ  
 (療法) 可成其關節ヲ安息シ、ギプス、水硝子等ノ固定繃帶ヲ施ス可シ初期ニハ冷壓  
 布ヲ用井或ハ吸收藥ノ塗布ヲ用井幼年ノ者ハ田舎ニ轉居セシメ或ハ山地ノ  
 空氣ヲ呼吸セシメ滋養性ノ食物ヲ與ヘ藥劑ニハ肝油ハルレル氏ヨード水、  
 ヨード溫浴等用井テ効アリ又貧血ニハ鐵劑ヲ用井壯者(春機發動期後ノ)ニ  
 ハ適應等ニ手術ヲ行フベシ

**百日咳** Tussis convulsiva. (Pertussis.) 疫咳

タシマス、ロムヤルミーロ(ペルシヤ、タシ)

肺結核、喉頭結核 白腫 百日咳

(原因) 一種特異ノ病毒傳染ニ因テ起ル大抵小兒(一年乃至六年)ノ疾病ナリ春冬寒

冷ノ二季ニ於テ流行性ニ來ルコト多シ  
(診候) 二日乃至七日ノ潜伏期ヲ經テ通例單純ノ氣管支加答兒ノ症狀即チ通常ノ咳

嗽ヲ呈スルコト一週乃至二週(加答兒期)次ニ發作性ノ痙攣性咳嗽(鷄鳴樣  
或ハ吹笛樣ノ長キ深吸息次ニ短カキ呼吸的咳嗽ノ類發次ニ吹笛樣ノ長吸息

即チ「ルプリーズ」ヲ發スルコト四週乃至五週其間一日ノ發作輕症ハ三四回  
通常十五回乃至三十回、重症ハ六十回以上百回ニ達ス、終ニ減退期ニ移リ發

作輕決シ二乃至四週ニテ治ス經過ハ二月以上ニシテ六七月ノ久シキニ瀰ル  
モノ有リ動モスレバ加答兒性肺炎ヲ併發ス

(豫後) 概テ良、但シ肺炎ヲ合併スレバ不良  
(療法) 其初期ニハ單ニ鎮咳劑ニテ足ルモノナリト雖トモ後ニ至レハ「プロムカ

リウム」或ハ「モルヒネ」ヲ用井ザル可カラズ而シテ新鮮ノ空氣ヲ擇ミ毎日一  
二時間之ヲ呼吸セシム可シ○健兒ハ之ヲ嚴ニ離隔シ兼子テ感冒ヲ防クベシ

○發作ノ際ニハ其兒ヲ扶ケテ粘液ノ咯出ヲ促サシメ室内溫度ハ之ヲ平等ナ  
ラシメザル可ラズ而後有力ノ滋養品、キニー子、鐵劑、葡萄酒、肉食ヲ與ヘ又

鼻腔ノ檢查ヲ怠ル勿レ  
右十包二分チ一日三回每一包  
五〇、一  
五、〇  
五滴  
白糖

瀰水 五〇、〇  
覆盆子舍 一〇、〇  
右調和每三時一茶匙

萹蓄越 各〇、二  
酸化亞鉛 三、〇  
白糖 五、〇

右十包二分チ一日三回每一包  
右每三時二乃至三滴

痙攣期ニ在テハ萹蓄劑ヲ用ユルコト斯  
ノ如クナリト雖トモ若シ瞳孔ノ散大ス  
ルニ至ラハ後服ヲ止ムベシ

粘漏期ニ在テハ揮發松脂油ノ蒸氣ヲ吸  
入セシム其量一時間ニ五乃至九滴ナリ

トス  
鹽規 〇、三乃至一、〇  
單舍 各三〇、〇  
瀰水 各三〇、〇

右一日六回二分分服  
タンニン酸キニー子 各一、〇

重曹 右研和散十包二分チ每二時一包  
白糖 各一、〇

右分六包一日三回一包宛  
アンチピリン 〇、三乃至一、〇

右爲三包一日三回一包  
アンチピリン 〇、二乃至〇、八  
適宜

乳糖 一、〇  
アンチピリン 二五、〇  
トカイ酒 二五、〇

瀰水 二五、〇  
橙皮舍 五〇、〇

右調和每二時一食匙  
一般ニ「アンチピリン」ノ用量ハ患兒ノ

年齡ニ從ヒ一日量其年齡數ト同數ノ  
「デチ瓦トス」



印度大麻越 〇、二  
 吐根末 〇、一  
 白糖 五、〇  
 右十包ニ分チ一日三回每一包  
 プロームカリウム 一、〇  
 縮水 一〇〇、〇  
 單舎 一五、〇  
 右調和每一時一小兒匙  
 レゾルチン 二、〇  
 縮水 一〇〇、〇  
 單舎 一五、〇  
 右調和每三時一小兒匙  
 抱水 クロラール 一、〇  
 縮水 一〇〇、〇  
 單舎 二〇、〇  
 右調和每二時一茶匙  
 ガオニン 〇、〇五  
 杏仁水 一〇、〇

右一日二乃至三回十滴宛  
 トツソール 二、五  
 縮水 八〇、〇  
 橙皮舍利別 二〇、〇  
 右一乃至二茶匙毎日服用  
 又百倍乃至五十倍ノ石炭酸ヲ吸入セシ  
 メ或ハ石炭酸ニ浸シタル布片ヲ病牀ノ  
 傍ニ懸垂スルモ可ナリ  
 ナフタリン 二〇、〇  
 右炭火上ニ一日一回蒸發セシム  
 可シ  
 チモール 一〇、〇  
 酒精 二五〇、〇  
 縮水 七五〇、〇  
 右調和磁器ニ盛リ熱シテ其蒸氣  
 ナ吸入セシム  
 鹽酸キニーチ 〇、〇一乃至〇、〇一五

重曹 一五、〇  
 アラビヤム 〇、二五

右研和吹入料

**胼胝** Tylosia. ナホー  
**鶏眼** Clavus. クラウス

(原因)局所ノ器械的刺戟ニ關スル表皮細胞ノ形成過多ナリ  
 (診候)表皮細胞ノ一局所ヲ限リ増殖スル者ニシテ甚ダ堅固ナリ多クハ手足ニ發ス  
 (療法)鶏眼ヲ切除シテ防腐繃帶ヲ施スベシ○乳頭狀ノモノニ在テハ「パクレン」ヲ  
 用井テ可ナリ○ロエセン氏ハ左法ヲ發明セリ乃チ先ヅ其部ヲ防腐液(硼酸  
 或ハ撒酸)ヲ用井テ潤ホシタル後大凡四ミリメートル乃至半仙迷ノ厚サニ  
 結晶撒酸ヲ以テ被ヒ而シテ其上ヲ被フニ無刺戟性ノ繃帶品即チ數層ニ疊ミ  
 タル硼酸溶液ノ濕リント布片ヲ以テ更ニ「グツタヘルカ」ヲ用井テ其表面ヲ  
 密蔽スルナリ鶏眼、輕度ノ胼胝或ハ疣贅ニハ此繃帶ヲ用ユルコト五日間ニ  
 テ其効ヲ奏スルモノトス

白降汞 二、〇  
 緩和軟膏 二〇、〇  
 右調和軟膏ニ作り塗布(其上ヲ  
 覆フニ個答百兒加紙ヲ以テス)  
 白降汞 二〇、〇  
 酸化亞鉛 各二、〇  
 單軟膏 二〇、〇  
 右調和軟膏ニ作り塗布  
 ヘブラ氏軟膏 二〇、〇  
 右塗布用 二〇、〇

胼胝 鶏眼

濃厚硝酸

右硝子杆ヲ用井テ貼布ス

一〇、〇

水銀硬膏

石鹼硬膏

各五、〇

右調和リント布片ニ攤シテ貼用

(毎日交換シテ表皮ノ軟化剝離

ヲ俟ツ)

サリチール酸

コロザウム

印度大麻越

右調和毛筆ヲ用井テ貼布ス

五、〇

五〇、〇

一、〇

### 盲腸炎及盲腸周圍炎

Typhlitis et Perityphlitis.

チフリチス、エト、ペリチフリチス

(原因)盲腸炎及盲腸周圍炎ナル名稱ハ適當ナル名稱ニ非ラズ何トナレバ最近ノ研究ニヨリテ病ノ發スルトコロハ主トシテ蟲樣突起ニアルコト明ナレバナリ其盲腸ニ原發スルハ甚ダ稀ナリ故ニ近時ハ蟲樣突起炎 Appendicitis ト云フ其原因ハ突起ニ醗病細菌ノ侵入スルニアリ突起内糞石形成ハ炎症ノ發生ヲ促ガスモノナリ

主トシテ盲腸或ハ蟲樣垂内ノ異物殊ニ糞石ノ刺戟ニ由ル又結核、潰瘍、感冒、近傍ノ炎症波及等ナリ

(診候)右腸骨窩部ノ劇痛頓發及其下方波及、惡寒、體温及ビ脈搏ノ増加、嘔吐、便秘、腹膜炎腹部膨滿等ナリ

○蟲樣突起疝痛

(1) 臍部及心窩ニ疼痛アリサレド其以上ニハ放散セズ右腸骨窩ニ固定セル疼痛點アリ

(2) 右腸骨窩ニ知覺アリ殊ニマラクアル子イ氏點ニ於テ甚シ

(3) 嘔吐アリサレド持續性ナラズ

(4) 甚ダ稀ニ膀胱及嚔丸ニ知覺過敏若クハ疼痛アリ

○膽石疝痛

(1) 心窩ニ疼痛アリ肩胛部ニ放散ス膽囊ニ固有ノ疼痛點アリ

(2) 肋骨弓下部ニ甚シキ知覺過敏アリ膽囊部ニハ甚シカラス

(3) 屢々嘔吐シ之ヲ制止スルコトヲ得ズ

(4) 膀胱及嚔丸ノ病狀ナシ

○腎石疝痛

(1) 疼痛鼠蹊及ビ嚔丸ニ放散ス時々肛門ニ波及シ便意及ビ裏急後重ヲ發スルコトアリ

(2) 知覺ノ最モ過敏ナルハ背面ノ腎盂部ナレモ前面ノブーバルト氏靱帶ノ部ニ亦疼痛ヲ發ス

(3) 嘔吐ハ本病ノ必要ナル症狀ニアラス

(4) 膀胱過敏利尿困難及膀胱ノ裏急後重血尿症アリ嚔丸ハ上方牽引セラレ

(豫後)漿液性盲腸周圍炎ニアリテハ其、化膿性盲腸周圍炎ニ於テハ甚ダ疑ハシ其穿孔シテ汎發性腹膜炎ヲ發シタルトキハ多數ハ死亡ス

(療法)嚴重ニ安靜ヲ命ジ牛乳鶏卵肉羹汁等易消化流動性ノ食物ヲ與ヘ疼痛ニハ氷囊ヲ貼シ(患者冷覺法ヲ厭フトキハ溫電法ヲ用ユベシ)又其患者強壯家ナレバ水蛭ヲ放チ又阿片ヲ用ユ○滲出物ノ殘留ヲ認ムレバ、ヨード劑ヲ塗布ス可シ○膿瘍ヲ形成シタルト腹膜腔内ニ穿孔シタルトキ等ニハ外科的手術ヲ要ス○左ノ場合ニハ必ず外科的手術ヲ用ユベシ

- (一) 腹膜炎ニ益々蔓延スルトキ
- (二) 膿瘍ノ破潰セントスルトキ及ビ熱ノ化膿ヲ明示スルトキ
- (三) 三日乃至五日ノ間ニ於テ輕快ヲ見ズシテ反テ増悪スルトキ
- (四) 反覆再發スルトキ(但シ發作無キ時ニ手術スルヲ可トス)

- 阿片末 〇、五
- 白糖 三、〇
- 右研和散十包ニ分チ每三時一包
- 阿片丁 二十滴
- 扁桃乳劑 五〇、〇
- 右調和每三時一食匙
- 阿片丁 三十滴
- 單舎 一〇、〇
- 阿片末 右一日數回分服 九〇、〇
- 乳糖 二、〇
- 右分五包一日五回分服 〇、二
- 鹽莫

- 縮水 一〇、〇
- 右半筒皮下注射(疼痛ノ甚シキトキ用ユ)
- 水蛭 三十條乃至五十條
- 右腸骨窩部ニ貼用
- 五%イヒチオールグリセリン 二〇、〇
- 右患部塗布料 三〇、〇
- ヨードワゾーゲン
- 右塗擦料
- カリ石鹼
- 黃色ワセリン 各二五、〇
- ヨードフォルム 五、〇
- 右外用
- 沃丁
- 五倍子丁 各五、〇
- 右塗布料

### 腸室扶斯

Typhus abdominalis.

チフス、アブドミナリス

(原因)エーハルト氏發見ノ腸室扶斯バチルレンレノ傳染ニシテ該毒ヲ含メル飲食物殊ニ飲用水ヨリ來ルモノ多シ

(診候)潜伏期(平均十四日)ノ後全身倦怠、頭重、食思欠損、睡眠不穩等ノ先驅症(數日乃至一二週)ヲ呈シ次テ惡寒(概テ數回)發熱大渴引飲、舌唇乾燥牽裂、便秘或ハ下痢(豌豆汁ノ如キ便)盲腸部ノ雷鳴及知覺過敏、脈數體溫ニ比スレバ其數少ク(八十乃至百)脾腫、蒼薇疹(第四或ハ第五日ヨリ顯幹ニ)及本病特異熱ノ定型即チ發病第一週ノ始メ五六日ハ日々體溫概テ半度宛上昇シテ

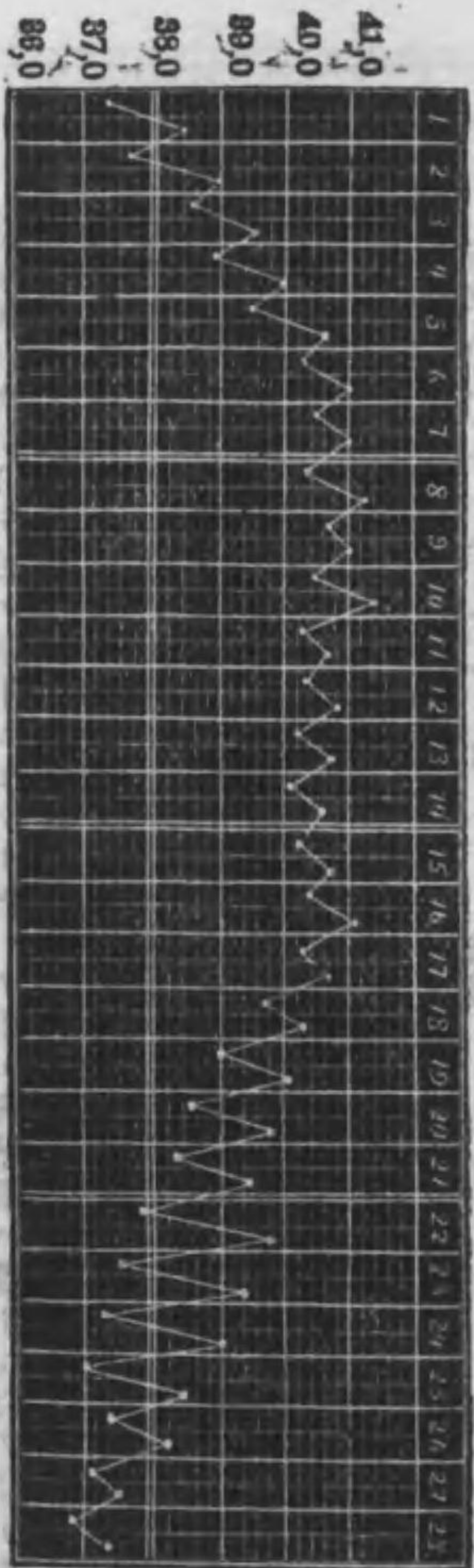
盲腸炎及盲腸周圍炎 腸室扶斯

遂ニ四十度乃至四十一度ニ達シ第一週ノ終若クハ第二週ノ始ヨリ稽留シ輕症ニ在テハ該週ノ終、重症ニ在テハ第三週ノ終ヨリ著シキ弛張ヲ始メ輕症ハ三週重症ハ四週乃至六週ニシテ常溫ニ復スルヲ常トス然レドモ常ニ著シキ弛張ヲナシ且ツ最高溫四十度ニ達セズ全發熱ノ期十乃至十四日ヲ算スルモノモ亦タ多シトス但シ重症ハ腸出血、肺炎、腦膜炎稀ニ腸穿孔ヲ合併シ或ハ心臟麻痺ニ由テ死ス○第二週ノ末期或ハ第三週ニ腸出血ヲ來スコトアリ第三乃至第五週ニ腸穿孔ヲ發スルコトアリ○體溫常溫ニ復シタル後直チニ再發スルコト夥カラズ○尿ニ「ザアツ」オ反應アリ○血液ニ「ウ」ダール氏反應アリ

（譯後）脈搏百二十以上ナルモノ或ハ脈搏軟少ナルモノ或ハ脈搏不正ナルモノ或ハ四十一度以上ノ熱永續スルモノハ豫後不良、腸出血、肺炎、腦膜炎ヲ合併スルモノモ不良、腸穿孔ヲ發スレバ殆ンド必ズ死ス、其他老人、産婦、心臟病患者ハ危険ナルコト多シ○發熱甚ダシカラザルモノ、合併症ナキモノ及ビ腸出血穿孔ヲ發スルコトアリ

室扶斯ノ變形ハ次ノ如シ○(一)輕症即チ最輕症(胃熱)ハ速カニ始マリ經過短カシ(八日乃至十四日)○(二)不全室扶斯ハ速カニ發熱シ二三日にシテ下降ス○逍遙室扶斯ハ全身症狀ハ極メテ輕微ニシテ患者常ノ如ク職業ニ從事シ外出逍遙殆ンド意ニ介スル處ナシ然レドモ第二週或ハ第三週ニ於テ俄然腸出血穿孔ヲ發スルコトアリ

圖 十 五 第 一 第 二 第 三 第 四 週



腸 室 扶 斯